

令和 6（2024）年度

長崎国際大学

学生による授業アンケートに対する

自己点検・評価報告書

（アクションプランシート）

後期



自己点検・評価委員会

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
後 期						
人間社会学部国際観光学科						
1	井上 英也	ホテル管理論	月	2	38	1
2	井上 英也	観光リーダーシップ論	水	2	33	2
3	田中 誠	TOEIC対策B	月	4	41	3
4	落合 知子	博物館実習B	火	4	13	5
5	落合 知子	博物館実習B	木	1	12	6
6	乙須 翼	教育原理	月	4	48	7
7	城前 奈美	観光経済論	土	4	145	8
8	城前 奈美	資産管理とライフプラン	土	5	20	9
9	滝 知則	ビジネス文書	木	3	140	10
10	松山 博明	スポーツ心理学	火	4	61	12
11	松山 博明	保健体育科教育法Ⅲ	水	3	21	13
12	松山 博明	専門演習ⅠB	木	1	11	14
17	松山 博明	専門演習ⅡB	金	3	12	15
13	松山 博明	スポーツ実習D(スキースノーボード実習)	月	その他	3	16
14	松山 博明	球技C	火	1	6	17
15	山内 美穂	日本事情Ⅰ	月	3	76	18
16	池永 正人	観光政策論	火	3	180	20
18	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅠB	月	3	44	22
19	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅠB	火	2	120	24
20	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅣB	火	3	10	26
21	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅢB	水	1	5	28
22	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅣB	水	2	5	30
23	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅡB	水	3	16	32
24	落合 和昭	宿泊業論	火	4	177	34
25	落合 和昭	専門演習ⅡB	水	2	13	35
26	尾場 均	コンピュータ基礎ⅠB	火	3	69	36
27	尾場 均	情報処理論	火	5	65	38
28	川上 直彦	英語ⅡB	金	3	27	40
29	佐野 香織	専門演習ⅠB	月	3	8	41
30	竹田 文雄	海外観光資源A	火	1	215	42
31	Thom W. Rawson	Practical EnglishⅡB	水	3	21	43
32	森尾 真之	地域産業の魅力	月	2	128	44
33	森尾 真之	旅行業論	月	5	66	45
34	森尾 真之	MICE論	水	2	41	46
35	井畑 敦子	Practical EnglishⅡA	月	3	23	47
36	浦郷 淳	専門演習ⅡB	火	3	9	48
37	浦郷 淳	専門演習ⅠB	木	1	15	49
38	浦郷 淳	ダイバーシティとグローバル市民論	木	4	173	50
39	浦郷 淳	教育方法論	木	5	50	51
40	江島 弘晃	武道	月	2	23	52
41	江島 弘晃	専門演習ⅢB	月	4	8	54
42	江島 弘晃	卒業研究	月	その他	8	56
43	江島 弘晃	運動生理学	水	1	125	58
44	江島 弘晃	専門演習ⅠB	金	2	9	60
45	江島 弘晃	専門演習ⅡB	金	3	10	62
46	川上 知子	生徒指導論	火	4	29	64
47	川上 知子	進路指導論	水	1	28	65
48	John Patrick Owatari-Dorgan	英語ⅡA	月	1	35	66
49	John Patrick Owatari-Dorgan	English Reading SkillsⅡ	金	5	21	67
50	末永 貴久	スポーツ実習B	火	3	40	68
51	張 美慶	テーマパーク論	火	5	144	70
52	張 美慶	地域振興論	金	3	106	71
53	東出 朋	日本語コミュニケーションB	木	1	18	72

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
54	小泉 優莉菜	民俗学	金	4	140	73
55	長津 恒輝	専門演習ⅢB	火	5	9	74
56	長津 恒輝	専門演習ⅡB	金	3	9	75
57	長津 恒輝	保健体育科教育法Ⅰ	金	4	32	76
58	長津 恒輝	スポーツ実習B	月	5	45	77
59	長津 恒輝	スノースポーツ	月	その他	2	78
60	余 乾生	社会保障Ⅱ	月	2	44	79
61	余 乾生	貧困に対する支援	火	1	62	81
62	余 乾生	Japanese Economy	水	3	22	82
人間社会学部社会福祉学科						
63	木村 勝彦	道德教育論	火	1	30	83
64	木村 勝彦	哲学	木	1	107	86
65	柳 智盛	専門演習B	月	4	5	89
66	柳 智盛	卒業研究	月	5	5	90
67	柳 智盛	福祉特論H	木	1	22	91
68	大畠 啓	社会学	木	5	242	92
69	大町 いづみ	卒業研究	月	5	6	93
70	大町 いづみ	認知症の理解Ⅱ	金	4	20	95
71	梅野 潤子	国家試験基礎演習	月	1	38	96
72	梅野 潤子	スクール(学校)ソーシャルワーク演習	火	4	4	97
73	野田 健	ソーシャルワークの基盤と専門職(社会)	火	3	59	98
74	野田 健	専門基礎演習B	水	1	11	99
75	野田 健	国家試験演習(共通)Ⅱ	木	6	46	100
76	韓 榮芝	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	火	1	70	101
77	韓 榮芝	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	木	4	54	102
78	韓 榮芝	卒業研究	木	5	7	104
79	韓 榮芝	保健医療と福祉	木	5	65	105
80	足立 孝子	ソーシャルワーク演習(精神)Ⅲ	水	1	9	107
81	足立 孝子	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	木	3	41	109
82	浦 秀美	生活支援技術ⅣB	月	3	10	110
83	浦 秀美	介護概論ⅠA	水	2	44	112
84	中村 尚生	ソーシャルワーク実習指導(社会)Ⅰ	火	4	8	114
85	久田 貴幸	専門演習B	月	4	6	116
86	久田 貴幸	卒業研究	月	5	7	117
87	久田 貴幸	生活支援技術ⅠB	木	2	11	118
88	久田 貴幸	介護過程ⅡB	金	1	6	119
89	裴 孝承	社会福祉調査の基礎	木	2	51	120
90	丸山 貴志	ソーシャルワーク演習(精神)Ⅰ	金	3	11	121
91	針塚 緑樹	心理学	水	3	18	122
92	山下 彦	ソーシャルワーク演習(社会)Ⅳ	木	3	11	124
健康管理学部健康栄養学科						
93	野村 秀一	食品衛生学	火	2	79	126
94	熊井 まどか	栄養生理学実習	金	2/3	24	127
95	熊井 まどか	栄養生理学実習	金	4/5	29	128
96	古賀 貴子	調理学実習Ⅲ	火	1/2	23	129
97	古賀 貴子	調理学実習Ⅲ	火	4/5	21	130
98	古賀 貴子	調理学実習Ⅱ	金	2/3	35	131
99	古賀 貴子	調理学実習Ⅱ	金	4/5	33	133
100	林 俊介	臨床栄養管理学Ⅱ	金	1	49	135
101	廣田 昌彦	栄養学応用演習Ⅱ	木	1	8	138
102	松尾 嘉代子	応用栄養学Ⅱ	月	3	53	139
103	山口 留美	臨床栄養管理学Ⅰ	火	3	48	140
104	山口 留美	臨床栄養管理実習	金	1/2	38	141
105	山口 留美	臨床栄養管理実習	金	4/5	23	142
106	小田 和人	スポーツ栄養学	水	3	7	143

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
107	小田 和人	スポーツ栄養学	金	2	100	144
108	川内 美樹	生化学	月	5	42	145
109	川内 美樹	生化学	木	1	34	147
110	川野 香織	公衆栄養学Ⅱ	月	2	30	149
111	川野 香織	公衆栄養学Ⅱ	木	2	23	150
112	高江洲 有沙	栄養教育論Ⅰ	月	1	48	151
113	高江洲 有沙	国際栄養論	金	3	9	152
114	藤井 俊輔	食品学Ⅱ	火	1	79	154
115	宮原 恵子	公衆衛生学Ⅰ	月	2	69	156
116	吉村 亮二	基礎栄養学	木	3	71	157
117	射場 仁美	微生物学実習	水	2／3	34	158
118	射場 仁美	微生物学実習	木	4／5	40	159
119	菊地 優子	基礎化学実習	月	4／5	34	160
120	菊地 優子	基礎化学実習	金	2／3	33	161
121	吉永 奈津希	給食経営管理論Ⅱ	月	4	52	162
薬学部薬学科						
122	梶島 力	臨床薬物代謝学	火	1	97	163
123	梶島 力	薬剤学	火	3	114	164
124	市川 和洋	薬品物理化学Ⅱ	火	4	120	165
125	市川 和洋	物理学演習	木	1	34	166
126	宇都 拓洋	生薬学Ⅱ	火	2	112	167
127	大磯 茂	医薬品情報論	月	5	88	168
128	大庭 義史	分析化学Ⅰ	木	2	101	169
129	小川 由起子	公衆衛生学Ⅱ	水	1	101	170
130	小川 由起子	薬物治療学Ⅲ	木	1	110	172
131	小川 由起子	病原微生物学	木	2	89	174
132	岸原 健二	免疫学	月	2	107	176
133	隈 博幸	疾病学Ⅰ	水	2	101	178
134	黒川 健児	細胞生物学	火	1	115	179
135	小島 直人	医薬品化学Ⅱ	月	4	80	180
136	小林 秀光	病原微生物学	木	2	89	181
137	小林 秀光	微生物学	金	2	111	182
138	佐々木 茂貴	生物有機化学	木	1	110	183
139	高井 伸彦	放射線化学	月	1	89	184
140	長岡 寛明	公衆衛生学Ⅱ	水	1	101	186
141	西奥 剛	薬理学Ⅱ(末梢-1・前臨床)	金	1	133	187
142	深澤 昌史	機能形態・生化学演習	月	1	111	188
143	深澤 昌史	分子細胞生化学演習	火	3	58	189
144	室 高広	医薬品情報論	月	5	88	190
145	山口 拓	薬物治療学Ⅰ	水	2	99	191
146	山口 拓	薬物治療学Ⅲ	木	1	110	193
147	山口 泰史	有機薬化学Ⅰ	火	3	89	195
148	淀 光昭	医薬品化学Ⅱ	月	4	80	197
149	太田 一寿	医療生命倫理	火	1	88	198
150	神谷 誠太郎	製剤学	木	1	91	199
151	神田 紘介	病院薬学	月	3	86	200
152	田中 宏光	医療生命倫理	火	1	88	201
153	田中 宏光	分子細胞生化学演習	火	3	58	202
154	出口 雄也	地球環境論	月	3	241	203
155	出口 雄也	衛生化学Ⅰ	月	4	107	204
156	藤井 佑樹	機能形態学Ⅱ	火	2	89	205
157	藤木 司	専門演習Ⅰ	木	2	111	206
158	藤本 京子	生化学Ⅰ	金	1	92	207
159	山田 耕平	生物有機化学	木	1	117	208
160	石原 知明	細胞生物学	火	1	115	209

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
161	榎本 彩乃	物理学演習	木	1	28	210
162	大久保 伸哉	総合実習	火	5	104	211
163	川嵯 達也	臨床薬物代謝学	木	1	97	213
164	倉岡 卓也	生化学実習	水	4	98	215
165	末廣 真理恵	病院薬学	月	3	86	216
166	相田 美和	毒性学	月	1	87	217
167	相田 美和	香粧品学	金	2	80	218
168	高崎 伸也	臨床検査学	水	1	86	219
169	中村 沙織	機器分析学	月	3	105	221
170	縄田 陽子	薬理学Ⅳ(中枢)	火	2	89	222
171	吉田 達貞	物理学演習	木	1	30	223
172	北川 翔大	生薬学実習	木	5	98	224
173	中島 健輔	総合実習	火	3	112	225
174	波多江 日成子	コンピュータ基礎ⅠB	月	4	89	226
175	福森 良	コンピュータ基礎ⅠB	月	4	89	227

アクションプランシート

2024年度後期 月2

科目名 ホテル管理論

教員名 井上 英也

回答者数／履修者数 29／38

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	昨年度の満足度4.6から今年度は4.7に0.1ポイント良化する結果となった。評価ポイントが5の学生の比率が昨年より増えたことが、全体の平均0.1ポイントを押し上げることとなった。成績上位者の興味度をさらに高めると共に授業から落ちこぼれる学生への目くばせを継続していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	対象が3年生であるため、ホテル会社の経営、運営を糸口に就職に関わるテーマでのグループ討論、発表などを適時取り入れている。また、長崎における外資系ホテルやスタジアムシティの開業などメディアで取り上げられる最新のニュースを取り上げることにより、授業に興味を持たせることに奏功しているのではないかと思います。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	前回と変わらず4.6～4.7であった。学生の理解度合いを注視し、対応することの重要性を感じる。ホテルの管理手法は日進月歩であり、引き続き基礎的なことを固めると共に、現在進行中の最新情報をアップデートすることで、学生が時代の変化を実感できる内容を組み込んでいきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	回の4.3～4.9と昨年と比較すると項目ごとの評価の幅が広がった。項目の中での最低点(4.3)の項目(Q8)を注視し、学生の意見も取り入れながら更なる改善を図ることとしたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	ホテル関連科目の総仕上げとして、最新のホテル経営・運営を主題とした授業のため、社会経験のない学生にとっては難易度の高い内容となっている。授業への参加意識が高い学生には、意見表明の場があり、興味を継続させられる一方、理解不足から途中で単位取得を諦める学生が数人見られた。結果、アンケートへの回答率が76.3%と低い数字で会った。来年度に改善を試みたい。3年生を対象とした後期の授業であることから、学生の会社研究、仕事探求により役立つ内容に進化し、学生のモチベーション向上に努力したい。

アクションプランシート

2024年度後期 水2

科目名 観光リーダーシップ論

教員名 井上 英也

回答者数／履修者数 25／33

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	リーダーシップは、社会生活において常に身近な課題であり、その時々時代の状況や社会環境を反映して変化と進化を続けてきた。多様で変化の激しい現代においては、選ばれた少数のリーダーに集団を委ねるのではなく、誰もが個々の強みを活かしてリーダーになることが求められる。この授業では、リーダーシップの在り方を理解し、将来のキャリア形成において必須となるスキルを獲得することをねらいとして、昨期から開講した。評価の結果は昨年の4.8から0.2ポイント悪化した。また、受講者数が昨年の56名から33へと減少し、スポーツ系の学生の比率が増えたことも満足度に影響を与えたと考えられる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	リーダーシップを天賦の才能ではなく、誰でも獲得できるスキルであることを繰り返し伝え、学生の共通の意識醸成をした。そして、毎回の授業では、講義とグループワークによって、知識と実践でスキルの獲得を実感できるようにした。また、今年度の受講生にスポーツ系の学生が多かったことから、スポーツチームにおけるリーダーシップの事例を多く取り上げた。学修意欲が高いとは言えない学生へのアプローチ方法などを考える良い機会となったので、来年度以降に活かしたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	4.5～4.7の結果であった。昨年度から0.1～0.2ポイント悪化した評価となり、改善点の気づきも多々あったので来年度に向けて改善したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	昨年度から0.1-0.5ポイント悪化する結果であった。特にQ10の遅刻、私語などへの対応の項目が4.3と最も低い結果であった。来年度はら0.1-0.5ポイント悪化する結果であった。特にQ10の遅刻、私語などへの対応の項目が4.3と最も低い結果であった。来年度はしっかりと対応する。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	リーダーシップの考え方は社会環境と共に変化し、変化の激しい現在では、誰もが自らの専門、得意分野においてリーダーとなる覚悟が必要だと言われる。そのため、学生時代にリーダーシップの知識と実践の機会を持ち、発揮する経験が、卒業時の必要条件だと考える。開講2年目に受講生が減り、学生の構成も偏ったことから、来年度は時間割も含めて検討することとしたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名

TOEIC対策B

教員名

田中 誠

回答者数／履修者数 34／41

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度については、昨年度が4.5で、今年度は4.5という結果となった。今年度は、5または4と記入している学生の割合が85.3%であった。例年のことではあるが、なかなか全員を満足させることは難しいと感じている。TOEICの試験は非常に難しいし、学生の英語力の差が大きくなってきているだけでなく、年々下の方に振れているので、英語が苦手な学生にも満足できるような授業内容になるように常に工夫してはいるが、非常に難しい。今後とも、学生の英語力を最大限に伸ばすことができるような授業内容、参考資料の作成の仕方などを研究していくことで、さらに改善していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	コロナ禍も落ち着き、今学期も対面で授業をすることができたので、特にライブ感を意識した授業構成を意識した。授業外学修の時間を増やすために、例年通り毎回の授業でマナバを活用して、2種類の課題を出し、提出させる取り組みも実施した。授業中もアクティブラーニングを意識して、リスニング問題のトレーニングをすることで、単に講義を聞くだけの授業にならないような工夫もした。また、例年通り、毎回授業の終わりにマナバのresponの機能を使用したり、リフレクション・カードを使用し、授業の理解度やコメントなどを記入させた。そして、授業のコメントに対して、学生が疑問に思っていることや、授業で分かりにくかったと感じた事項に関して、次の授業で導入としてコメントをしたり、参考資料を作成して配布したりして理解度を高める努力をした。さらに、難しい中にも「楽しい」と思ってくれる学生が少しでもでてくるような授業も意識した。学生のコメントにも「TOEIC以外の話も聞くことができたので興味深かったです。」などのコメントが見受けられた。今後とも、様々な英語力の学生に対して、少しでも満足度を高めるような授業を展開していきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3に関しては、昨年度が4.5、今年度は4.6、Q4に関しては、昨年度が4.5、今年度が4.6、Q5に関しては、昨年度が4.3、今年度が4.5であった。全ての項目で4.5以上なので、ある程度良い授業が提供できたのではないと思う。英語のプレイスメントテストの結果からも、今年度も1年生の英語力の低さは、分かってはいたので、丁寧に指導をすることで、高いポイントを得られることができたのだと考える。これからも、高いレベルを維持していきたい。学生のコメントには、例年通り「内容もわかりやすく、私にとって分からない問題なども明確に教えてくれているので、ものすごく分かりやすかったし、別の問題資料にもなっていた時にすぐに解くことができた」というコメントも見受けられた。次年度以降も、より良い授業が提供できるように教材研究に時間をかけていくことで、どのレベルの学生にも対応できるような努力を続けていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11に関して、個別に見ていくと、Q6に関しては、昨年度が4.5、今年度が4.5、Q7に関しては、昨年度が4.7、今年度も4.7、Q8に関しては、昨年度が4.6、今年度も4.6、Q9に関しては、昨年度が4.5、今年度も4.5、Q10に関しては、昨年度が4.6、今年度は4.5、Q11に関しては、昨年度が4.2、今年度が4.3であった。Q11以外は4.5以上であるので、ある程度の評価は得られたものと認識している。しかし、Q7とQ8を除いて、2と評価した学生がいたことは、反省点である。Q6の「話し方は明瞭でしたか」については1名だけ、2と評価した学生がいた。自分では、明瞭に話しているつもりなのだが、少し早口で話をしてしまう傾向があるので、聞き取りにくい時もあったのかもしれない。この早口で話すということについては、毎回、反省している点であるが、さらに努力したい。Q7の「熱意の感じられる授業でしたか」に関しては、毎年常に意識して授業を展開しているので、4.7というポイントを得られたのは、こちらの熱意が授業を聞

項目見出し	コメント
	いている学生に十分に伝わった結果だと思うので、ほっとしている。今後とも、熱意の感じられる授業を展開していきたい。Q11については、講義型の授業でもあるので、ポイントを上げるのに苦労している。「授業参加を促すような工夫」はリスニングのトレーニングでは行っているのだが、他の項目では、どうしてもこちらの解説する量が増えてしまっている点を反省したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度の授業については、日本語力の低い学生も履修していたので、こちらの説明がうまく伝わらないことがあった。また、例年であれば、responを使用して、授業の最後に理解度などのアンケートを取るのであるが、こちらの指示が徹底できず、途中の授業からはリフレクションカードを使用し、紙ベースでのアンケートに切り替えた。英語力も高くなく、日本語力も低いという学生がいる中での授業展開は、非常に困難を伴うこともあり、manaba にアップする資料も動画等も含めて、様々なレベルに対応できるような資料をアップするように努めた。このような状況であっても、少しでも良い授業が提供できるように、教材作成の努力をしていきたい。このような努力もあって、学生のコメントには「プリントにも文法をまとめて配布してくださったおかげで理解度が上がったように感じます」のようなコメントが見られた。今後とも、学生の評価が高い点は、さらに良くなるように努力しつつ、改善すべき点には改善を加えながら、少しずつでもより良い授業が提供できるように努力をしていきたい。学生のコメントに関しても「非常にわかりやすく説明してくれた」などのコメントを励みに頑張りたい。また、英語力を伸ばすためには、授業外での学びが非常に重要なので、毎回、やればできるレベルと量の課題等を出すことを継続して実施することで、授業外学修時間の向上にも寄与していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火4

科目名 博物館実習B

教員名 落合 知子

回答者数／履修者数 13／13

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	この授業に参加して満足できたかの質問に対して、全員が満足と回答している。本実習は学芸員資格を取得するための必須科目であり、定員15名の少数対象の指導であることから、一人一人に丁寧に指導した結果といえる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学芸員資格を取得する学生は目的意識が高く、真面目な学生であることから、受講態度はいたって良好であり、学習意欲も高い。このような学生に対して、指導する側も常に真摯に向き合い、充実した内容の実習となるように心がけた。特に実物の歴史資料を使うことで、より一層の教育効果を得ることができた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業がよく編成され、まとまっており、分かりやすかったかという質問に対して、良いが100%、授業内容が興味のあるものであったかの質問に対しても良いが100%であった。また、シラバスと授業内容に整合性があつたかについては2名が評価4で、残りは評価5と高得点である。学芸員資格の取得を目指す学生の特徴ともいえる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	話し方が明瞭であったか、熱意の感じられる授業であったか、学生の授業参加を促す工夫がなされていたかは1名を除き評価5と高得点である。また、教科書、参考書、配布プリントの適切な使用、板書や機器の使用の適切さ、遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応しているかについては、2名を除き、同じく評価5と高得点である。このようなことから、特に改善する点は無いと思われる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	実習Bは楽しく、説明してもらいながら概論で学んだ内容を実際にやってみることで学習を深めることができた。先生の話はとても面白く楽しい授業だった。先生がとても生徒に寄り添ってくれるので楽しい実習になった。細かい豆知識をたくさん紹介してくれて、状況に合わせたやり方など一通りではなくいろいろな場合を想定してできて役に立ったなどの感想を受けた。授業が楽しいと感じることは学芸員の素質があるという証であり、より一層の向上が期待できる。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 博物館実習B

教員名 落合 知子

回答者数／履修者数 11／12

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	この授業に参加して満足できたかの質問に対して、全員が満足と回答し、評価5の高得点である。本実習は学芸員資格を取得するための必須科目であり、定員15名の少数対象の指導であることから、一人一人に丁寧に指導した結果といえる
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学芸員資格を取得する学生は目的意識が高く、真面目な学生であることから、受講態度はいたって良好であり、学習意欲も高い。このような学生に対して、指導する側も常に真摯に向き合い、充実した内容の実習となるように心がけた。特に実物の歴史資料を使うことで、より一層の教育効果を得ることができた
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業がよく編成され、まとまっており、分かりやすかったか、シラバスと授業内容に整合性があったか、授業内容が興味のあるものであったかの質問に対して一人を除き評価5と高得点である。学芸員資格を目指す学生は真面目な学生が多いという特徴を表している。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	話し方が明瞭であったか、熱意の感じられる授業であったか、教科書、参考書、配布プリントの適切な使用、板書や機器の使用の適切さ、遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応しているかについては、1名を除き評価5と高得点である。また、学生の授業参加を促す工夫がなされていたかは2名を除き評価5であった。このようなことから、特に改善する点はないと思われる
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	とてもわかりやすく、楽しく受講ができた。丁寧な指導がなされていたため、スムーズに実習が進んでいたとの感想を受けた。授業が楽しいと感じることは学芸員の素質があるという証であり、より一層の向上が期待できる

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 教育原理

教員名 乙須 翼

回答者数／履修者数 28／48

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する満足度は平均4.6であり、ここ3年間では最高であった（昨年と一昨年は4.4）。ただし、今年はアンケート回答率が58.3%とかなり低く、未回答の学生も多くいたため、相対的に授業に満足している学生が回答しているのではないかと考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年度新たに取り組んだことは特になく、今年度も毎回予習シートに記入させ、授業後にコメントを書いて提出させ、適宜フィードバックするという形式を採用した。評価対象であるコメント紙をほとんど提出しない学生や、半分の回ぐらしか提出していない学生、予習をしていない学生なども例年同様見られたが、質問を書いてくれる学生は昨年度よりも多かったと感じている。また、優秀コメントのスレッドへの書き込みも例年通り行った。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3～Q5については、4.5と4.6であり、これもこの3年間では最高値であった。授業内容やシラバスは教職コアカリキュラムの関係でほとんど変更していないため、今年度の評価の高さは、上述したように、回答した学生の層が関係しているのではないかと考える。ただ、そうであったとしても、授業内容に興味を持ってくれている学生が多数いることは喜ばしいことである。また、シラバスについては予習の際に確認が必要であるため、他の授業よりも見る回数が多いということも関係しているのではないかと考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11については、4.4から4.7であり、これも昨年度と同レベルか、やや良い結果であった。学生の授業参加については、授業中に当てて質問に回答させたり、教科書を読ませたり、数回グループワークをしたりといったことしかできていないが、コメントについては上述した通り、毎回提出させた。また、授業中の私語などはほとんどなかったが、教職課程では許容できないび逃げが数回確認されたことは残念なところである。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業は予備知識が必要であり、教職科目の中でも最も現場での教育実践から離れている科目である。そのため、そもそも教職への意識が低い学生や高校までの学習の蓄積がない学生にとっては単位取得が難しい科目となっている。それでも5年ほど前くらいまでは単位を落とす学生がほとんどいない科目であったため、やはり近年の教職履修学生の変化を感じている。1年生を中心とする学生の学修意欲を喚起したり、基礎的技能や知識を身につけさせながら、また大学でのアカデミックな授業に興味を持たせながら授業を行っていく難しさを感じている。

アクションプランシート

2024年度後期 土4

科目名 観光経済論

教員名 城前 奈美

回答者数／履修者数 92／145

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	今年度2024年度「観光経済論」の満足度評価は4.5、2023年度「観光経済論」の満足度評価は4.3、2022年度「地域観光研究A(アジア・オセアニア)」は4.3、2021年度「観光経済論」の満足度評価は4.2、2020年度「地域観光研究A(アジア・オセアニア)」の4.3であり、2023年度から0.2ポイント向上した。簡単な計算を伴う分析方法を、実践的に練習問題に取り組みながら学ぶことで、達成感や満足感を高められ、分析技術を修得できたと考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	各回の授業で、理論的フレームワークの解説は最小限に抑え、課題の作業時間を増やし、アクティブラーニングを最大限に活かすことを心掛けた。この課題への振り返りを授業の最後に行うことで、理解の修得につながったと考える。 また、ピー逃げ対策として、各課題のマナバでの提出時に、ランダムにキーワードを入れるように指示したところ、教室にいる学生が増えていった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3は4.4（昨年4.4）、Q4は4.5（昨年4.5）、Q5は4.4（昨年4.2）であり、前年度と比較し、今年度はQ5の授業内容の関心度を伸ばすことができた。ただ、全体平均と比較すると、まだ改善の余地がある。観光経済論の内容について、シラバスや授業の1回目のオリエンテーションにて、3コースのどの学生にも関心が湧くように、必要性を含む丁寧な説明を心掛け、前向きに学修に取り組むように仕向けたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6は4.6（昨年度4.4）、Q7は4.6（昨年度4.4）、Q8は4.6（昨年度4.4）、Q9は4.6（昨年度4.4）、Q10は4.4（昨年度4.4）、Q11は4.5（昨年度4.3）であり、概ねどの項目も向上した。Q6話し方の明瞭さ、Q7教員の熱意、Q8配布プリントの適切さ、Q9パワーポイント資料の適切さ、Q11授業参加を促す工夫について、昨年度から向上した。Q10遅刻や私語への対応については、まだ工夫が必要である。ピー逃げ対策として、課題のマナバでの提出に時間制限を設けるなどの工夫を入れることで、出席による参画を増やすことができたと考える。私語対策については、教室の見回りや指定席の検討を加えていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	この「観光経済論」の第1回目のオリエンテーションでは、とても食いつきが良く、関心を持って履修してもらえるが、授業を進めるにつれて、経済波及効果や価格弾力性など、計算やグラフを使用するような段階になっていくと、なかなかついてこられず、諦めてしまったり、嫌々ながら授業を受けている学生が、昨年度まで見られたが、今年度は練習問題の質問や相談にできる限り応え、なるべく履修生1人1人の疑問を残さないようにしたことが、アンケート結果に表れたと考える。課題は、私語対策と、自由記述にある授業のスピードについてである。私語対策については、教室の見回りを強化し、授業のスピードについては、講義と練習題の時間配分を、学生の修得状況を見ながら見極めていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 土5

科目名 資産管理とライフプラン

教員名 城前 奈美

回答者数／履修者数 13／20

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	野村證券寄付講座である「資産管理とライフプラン」は、昨年度の2023年度から実施された科目であり、Q13総合満足度については、4.2（昨年度4.6）と、0.4ポイント下落した。昨年度と比して、受講生は約半分に減ったが、履修生は国際観光学科だけでなく、社会福祉学科や健康栄養学科の学生も履修しており、全学的に関心があることが示された。しかしながら、最終的なQ13総合満足度では、今年度の学生の方が低く、この理由として難易度が予想よりも高かったと考えられるため、次年度の難易度に注力し、基礎的な専門用語をベースに理解を深めることに重点を置きたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	各回の授業の冒頭に、マナバで前回の授業内容の小テストを実施することで、出席率の向上につながった。また、各回の小テスト実施により、毎回復習を丁寧にする学生が多かったことから、Q1復習や予習4.2と全体平均より高い値を得ることができた。また、昨年度は講義型が多かったため、アクティブラーニング用のグループ課題を用意し、グループで課題に取り組むような試みがなされた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3は4.3（昨年度4.4）、Q4は4.3（昨年度4.5）、Q5は4.2（昨年度4.5）であり、どの項目も下落した。昨年と同様に、野村證券佐世保支店から各回の担当講師が持ち回りで講義するオムニバス方式であり、シラバスや授業ノートも昨年とほぼ変わらない内容で実施したが、今年度の履修生は難しく感じているようであった。次年度は、基礎的な専門用語を修得した上での展開にするよう改良を加えたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6は4.4（昨年度4.4）、Q7は4.5（昨年度4.3）、Q8は4.5（昨年度4.6）、Q9は4.2（昨年度4.6）、Q10は3.8（昨年度4.4）、Q11は4.2（昨年度4.3）であった。Q7教員の熱意は個々の学生への声かけを強化して上昇したが、Q8配布プリントの適切▲0.1ポイント、Q9PPT使用の適切さ▲0.4ポイント、Q10遅刻や私語への対応▲0.6ポイント、Q11学生の授業参加促進▲0.1ポイントと下落した項目が多い。毎回の配布資料とPPTは昨年とほぼ同様の形式であるが、配布プリントやPPT資料の解説を丁寧にして理解を深めることに、次年度は重点を置きたい。また、遅刻や私語への対応について、履修生20名と人数が少ないため、十分に対応できていると思っていたが、そうではないことに気づかされた。次年度は、注意を促し、確認を問っていく。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	この野村證券による寄付講座は、昨年度から実施され、今年度で2回目であった。昨年度は専ら講義形式で実施したため、今年度はグループワークを実践的に加え、アクティブラーニングを取り入れたのだが、自由記述に「いきなり学科を跨いだ履修生のグループ化がきつかった」とあるため、次年度から予兆を示し、グループワークに余裕を設けて、自己紹介やブレインストーミングを取り入れるなどの工夫をしていきたい。この寄付講座は、野村證券のご協力により、次年度も継続して開講されることとなった。

アクションプランシート

2024年度後期 木3

科目名 ビジネス文書

教員名 滝 知則

回答者数／履修者数 96／140

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13 4.4 当科目については、今年度初めて授業アンケートを受けた。今回は2024年度の評価結果のみを記載する。2025年度に再度アンケートを受け、改善の有無とその状況を確認する。 アンケートのほぼすべての項目について、全体平均なみの結果であった。2025年度の授業では、受講する学生にとってさらに学修のしがいがある内容になるよう、引き続き励む。その結果として、評価のさらなる向上を目指す。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	この科目では、職場でのコミュニケーションスキルの基礎を身につけてもらうことを目指している。話し方と非言語コミュニケーションを秘書検定の問題を解くことを通じて、書き言葉でのコミュニケーションをビジネス文書検定の問題を解くことを通じて学んでもらっている。 授業は次のア～エの4部構成とした。ア 前回授業の復習問題の解説、イ 当日の学修内容の説明（講義）、ウ 練習問題への回答、エ 当日の復習問題回答の指示、である。教科書を使用し、その中で特に重要なポイントを授業中に説明した。練習問題と復習問題はいずれもマナバに回答できるようにした。 なお今年度は秘書検定3級に1名、ビジネス文書検定3級に4名が、それぞれ合格した。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3 4.4 Q4 4.4 Q5 4.3 授業の編成・まとまり・わかりやすさ、ならびにシラバスと授業内容の整合性については、平均点並みの評価を得た。職場での話し言葉と書き言葉に関して、受講している学生の立場から知りたいことを理解して、授業内容を説明する。その結果として、授業内容がさらに興味あるものになることを目指す。 なお今年度は、社会人として望ましい言葉遣いについての説明についての補足説明を適宜行った。「…になります」や「…させていただけます」を、「…でございます」や「…いたします」と言い換えることができることなどである。今後も引き続き行う。 最終回の授業では、ビジネス文書の構成を念頭において話すと、聞き手に伝わりやすくなる可能性が高まることも伝えた。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6 4.4 Q7 4.4 話す文章を短くすること、文章と文章の間に若干の間をおいて、ややゆっくり話すことに努めた。教員が話したいことを自分のペースで（自分の都合で）話すのではなく、聞き手である学生に理解してもらいやすくなるよう、心掛けた。話すときには必ずしも大声ではないが、気持ちを込めて誠実に話すことに努めている。 Q8 4.4 Q9 4.6 授業プリントは、上述の4部構成に対応した内容にしている。また授業プリントを穴埋め形式にしている。パワーポイントで提示した回答を、プリントに記入してもらっている。板書の字は自分の手のひら大を目指した。常時この大きさで書くことができるよう、板書計画を

項目見出し	コメント
	さらに念入りに行う。 Q10 4.6 Q11 4.5 クラスルール（後述）を守ってもらうように求めている。授業中の私語はほとんどない。練習問題を授業中に解いてもらったり、授業後に復習問題を解いてもらったりしている。講義を聞いてもらう時間は、授業時間の半分以上である。他の半分では、受講している学生に自分で授業に参加してもらっている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	第1回の授業で、この科目の履修にあたり守ってほしいクラスルールを説明している。着席する列の指定、カバンを置く場所、脱帽、飲食不可、スマホ・イヤホン、私語・居眠り・内職などについてである。 受講している学生が落ち着いて授業に集中できる環境を、受講生全体で作ってもらうことと、社会人としてとってほしい行動を教室においても実行してもらいたいと考えて、このルールを説明している。 受講している学生は、このルールを理解してくれていると考える。その結果と考えるが、授業中に私語はほとんどない。この点については、授業アンケートで評価されていると考える。 一方で、クラスルールが毎週板書されることへの抵抗感、ならびにルールにもとづいて学生を指導する際の話し方について、否定的なコメントがあった。 ルールを周知し、これに基づいて授業を行うこと自体は、上述のようにすべての受講生にとってプラスになることと考える。しかしながら、周知のしかたならびに指導のしかたのために、受講する学生が負担に感じたり不愉快に感じたりすることになってしまった点を、反省する。指導すべきは指導するが、教室においてはすべての学生が落ち着いて、安心して授業に参加できるように環境を整備するのが、教員が行うべき役目である。 次年度からは、受講生の人たちが負担感を覚えない形でクラスルールを周知する。学生の指導をする際には、特定の学生に対して話すのではなく、教室全体に対してルールの再確認を求めるようにする。 メールでの問い合わせがあった場合は、速やかに対応する。授業での説明が速すぎると感じる人がいないかどうか、受講している学生の様子にこれまで以上に注目する。

アクションプランシート

2024年度後期 火4

科目名 スポーツ心理学

教員名 松山 博明

回答者数／履修者数 47／61

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	学生からある一定の評価をいただいているため、引き引き続き、満足度を向上させるために努力し続けていきたいと思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業の中で、一方通行の形ではなく、常に対話式で行った。また、アクティブラーニングを意識して、作業やグループワークを入れながら授業を展開した。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業を行う前に、何らかの課題を与えて、予習させることである。また、今回の授業で行った内容を確認するための復習する機会をより多く設けたいと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業を行う前に、何らかの課題を与えて、予習させることである。また、今回の授業で行った内容を確認するための復習する機会をより多く設けたいと思う。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	予想通りの評価であった。これまで行ってきた授業と違う方法や進め方であったと考えられ、学生にとって新鮮な面と困惑する部分も同時にあったと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 水3

科目名 保健体育科教育法Ⅲ

教員名 松山 博明

回答者数／履修者数 15／21

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	これまで実施してきた授業があり、後期から担当したため、進め方や手法が違った。そのことによって、新鮮に感じる学生と困惑する学生がいたと認識している。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業では、実際に教員で行う実践形式で行ったため、アクティブラーニング形式で実施していた。そのため、常に学生がグループで取り組む形で実施した。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	これまで実施してきた授業があり、新鮮に感じる学生と困惑する学生がいたと思う。しかしながら、今後は継続していくことで、学生たちも教員の手法に慣れて、スムーズに授業を進めることが可能になると考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	これまで実施してきた授業があり、新鮮に感じる学生と困惑する学生がいたと思う。しかしながら、今後は継続していくことで、学生たちも教員の手法に慣れて、スムーズに授業を進めることが可能になると考えられる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業において、学生の積極性に向け、受け身の学生が多くみられた。また、オープンマインドの姿勢がなく、教員になるうえで厳しい学生も見受けられた。今後は、将来、本当に教員を目指す学生が多く参加してくれることを心から望んでいる。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 専門演習ⅠB

教員名 松山 博明

回答者数／履修者数 6／11

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	専門演習に関しては、前期でほかの教員が担当していたため、進め方や手法が違うため、お互い難しいところもあったと思う。また、真面目に授業に参加しない学生も散見し、残念である。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業の最初は、学生主体の進め方を望んだため実施していたが、全く自主性に欠けていたため、途中から手法を変えて授業を展開した。スポーツや観光に関する資料を集めて発表会をすることによって、いろいろな見分を広めることができたと思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	後期から授業を担当して、前期と違う進め方や手法であった。今後は、継続していくことでスムーズに展開できると考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	後期から授業を担当して、前期と違う進め方や手法であった。今後は、継続していくことでスムーズに展開できると考えられる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	専門演習では、真面目に授業を受けない学生も散見した。また、出席が満たない学生もいることから、今後は厳しく対応していきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 金3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 松山 博明

回答者数／履修者数 8／12

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	後期から担当することになり、前期とは違う進め方と手法であり、お互い難しいところもあったと思う。しかし、卒業研究に向けて計画書を作成し、発表させることで、4年生の学びにつなげることができたと思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業では、常に考えさせ、自主的に学ばせることで責任感と実行力が身についたと思う。また、明確な目標を設定することで、逆算して考えることが可能になったと思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	後期から授業を担当して、前期と違う進め方や手法であった。今後は、継続していくことでスムーズに展開できると考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	後期から授業を担当して、前期と違う進め方や手法であった。今後は、継続していくことでスムーズに展開できると考えられる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	4年生まで持ち上がりの学年であるため、ある程度、先を見据えて対応していきたいと思う。また、全員が卒業論文を完成させれるために、日々の授業に対して真摯に取り組むよう教育していきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 月その他

科目名 スポーツ実習D（スキースノーボード実習）

教員名 松山 博明

回答者数／履修者数 3／3

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する満足度の評価結果は、非常に高く、学生のニーズに合っていたと思う。推移の明示、並びに向上策に関しては、今回の受講者が5名だけであった。札幌までの経費と年末の日程が大きく影響していると思う。したがって、学生にとって負担額を軽減し、年末以外の日程を設定することで大きく改善できると思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法に関しては、ボードを希望する学生が4名、スキーが1名であった。ボードに関しては、インストラクターが対応し、スキーに関しては、教員が対応した。それぞれ、レベルにあった指導ができており、学習意欲等の向上につながったと思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	改善が必要な授業の内容に関わる項目に関しては、予算面と日程くらいだと思う。それ以外に関しては、学生に目標と責任を持たせ、楽しく実習を行うことができれば問題ないと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	改善が必要な授業の内容に関わる項目に関しては、予算面と日程くらいだと思う。それ以外に関しては、学生に目標と責任を持たせ、楽しく実習を行うことができれば問題ないと思う。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業に対する満足度の評価結果は、非常に高く、学生のニーズに合っており、引き続き継続していきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 球技C

教員名 松山 博明

回答者数／履修者数 4／6

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策に関しては、学生の評価が高く、全く問題ないと思った。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業に関しては、教員が経験者でもあり、実践を交えて指導できたことが良かったと思う。また、レベルに合わせた指導も学習意欲等の向上につながったと思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策については、火曜日の1限であったため、5名の学生だけであった。今後は、曜日や時間の設定を調節する必要があると思った。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策については、火曜日の1限であったため、5名の学生だけであった。今後は、曜日や時間の設定を調節する必要があると思った。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感に関しては、学生の評価が高く、全く問題ないと思った。このまま継続して授業を展開していこうと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 日本事情 I
 教員名 山内 美穂
 回答者数／履修者数 56／76

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	質問13の平均結果をみると4.9だったので、学生は授業におおむね満足できたかと考える。毎回の授業には日本の文化や社会について留学生に興味をもつようなトピックを選んで、授業の中でもPPTの他、様々な動画、実物を見せるなど、説明が分かりやすくなるような工夫をした。毎回、紙に印刷した資料をその前の回に配布し、関連した予習課題を出し、学生が自主的に学習し、授業に準備できる工夫もした。大半の学生は真剣に授業に向き合っており、その結果がこの評価に現れたのだと思っている。今後もこの工夫は続けるつもりであるし、さらに日本の社会や文化を留学生が理解できるような授業を展開していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回、当該授業の前の回に教員が準備した印刷資料を配布し、関連課題を出し、次の週に学習する内容について予め準備できるようにした。配布資料には空欄を複数個所設け、授業を聞きながら自身で該当することばを書き込んでいく作業をさせた。大半の学生は聞き逃さないように懸命に聞いて書き込んでいた。なぜなら、次の回には前回の授業内容の小テストを課していたからである。授業では配布資料に関連したスライドとともに、時には動画の視聴や、実物を見せるなどをしながら日本文化や社会について紹介していった。さらに、毎回の授業の最後に「クイズ」タイムをとり、教員がその回の学習内容に関連したクイズを出し、早く手を挙げて答えられた学生には成績評価にも加えるポイントを付与することを伝えた。多くの学生は積極的に手をあげ、クイズのこたえを発表した。最後の回では数人のグループで各回のクイズの答えを考えて発表するなどを通して復習し、それまでの全ての学習内容の小テスト問題が含まれた「総まとめ小テスト」をした。このため、授業を聞くだけでなく、自身で深くテーマについて考えたり、クラスメイトと考えを共有したりすることを通して、学習意欲が向上したのではないかと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3～5についての平均は4.9ということだったので、授業の内容については大半の学生にとって興味のもて、分かりやすいものだったといえる。質問3～5の回答は4以上が多いが、3と評価したものも1名いることは、改善の必要があるということであろう。質問1の準備学習について聞いた質問でも2と答えたものが2名いたことは反省を要する。毎回、次の授業の資料を配布し予習を呼びかけたが、今後はそれだけでなく、予習の何らかのチェック体制も必要であろう。今回は履修者が76名で、日本語のレベルがかなり高い学生からまだ入門レベルの学生までさまざまであった。日本語レベルが高い学生は発言も多く積極的であったが、日本語レベルがあまり高くない学生は同じ国の学生といつも一緒に座り私語も少なくなかった。学生が多いため、席を決めて管理するのは難しい部分もあるが、いろいろな国の、また日本語レベルも様々の学生が混ざるようにグループ毎に席を決めて座らせることも必要かと考えている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6～11は平均で4.8～4.9であったが、細かく見てみると、9「板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切だったか」、10「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたか」、11「学生の授業参加を促すような工夫がなされていたか」の質問で3の回答もあった。パワーポイントの資料については改善の余地があるだろう。また、遅刻や私語に対しては最初の段階でかなり厳しく注意したため、遅刻はあまりなかったが、私語はしばしばあった。今後は席の指定も含めたクラス運営管理を実施し、日本語力が低く同じ国の学生同士の私語をさせない工夫をしていきたい。
(5) 授業アンケート評価を	留学生が日本の社会や文化について学ぶこの授業では、教員の話聞き

項目見出し	コメント
受けての授業担当者の所感	だけでなく、空欄になった重要語句を書き入れさせたり、クイズを取り入れたことで、学生の積極性が増し、満足度ではおおむね高い評価を得られた。しかし、質問1の予習、復習については4.7と他の評価より低くなっている。今後は授業前に必ず調べてこななければいけないタスクや語彙の予習課題を引き続き配布資料を用いてできるようにするとともに、その確認も授業の中に取り入れ、予習・復習を促す工夫をする必要があると考えている。また、全体的な満足度は低くなかったが、学生それぞれの日本語レベルにかなりの開きがあるこの授業では、レベル照準を合わせるのが難しく、毎回の授業展開で悩むことも多い。これから生活していく日本の文化や社会の様子を留学生に学んでもらうために、配布資料やPPTの改善を引き続きやっていきたい。また、同じ国の学生ばかりが固まらないようなクラス運営も必要であると考えている。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 観光政策論

教員名 池永 正人

回答者数／履修者数 159／180

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2023（令和5）年度：4.5（日本人学生4.5 留学生：4.5） → 2024（令和6）年度：4.5（日本人学生4.4 留学生：4.9） 履修者数は180名（昨年度150名）、単位修得者149（83%）（昨年度142名（95%））である。 毎回の授業は、重要な用語を記入させる穴埋め型のプリントを配布し、パワーポイントを用いて説明した。プリントの説明内容はパワーポイントと同じであり、挿入した地図・統計グラフ・表・写真などは、昨年度の内容を一層分かりやすくするために更新・改良に多くの時間を費やした。その結果、「配布資料など丁寧でとても分かりやすかったです。」「実際の写真や動画が多くあったのでわかりやすかったです！」などの良好な意見をいただいた。 また、履修者の毎回の課題提出と授業の復習に活用するために、毎回の授業終了後にパワーポイントをPDFに変換してマナバに掲載した。しかし、昨年度と同様の授業内容であるにも関わらず、昨年度に比べて単位修得率が低下している。その要因は課題の未提出者が増えたこと、授業内容の理解が困難な非漢字圏の履修者が急増したことが考えられる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	最近では授業中の私語はなく受講態度で問題になることはない。ただし、それはスマホを見て静かにしている学生が多いことにもよる。180名を対象としたこの授業では、授業中にこまめに注意することは困難であり、対策に苦慮している。また、授業の回数を重ねることに欠席者が多くなるので、その対策として昨年度同様に授業中2回の小テストを実施した。授業参加を促す一時的な効果はあるものの、やはり毎回の授業中に理解度テストを行って成績に加えることが得策と思われる。 学習意欲の向上に関しては、「観光名所の歴史や観光政策を学ぶことができました。」「日本各地の観光形態を学ぶことができました。」といった意見が出され、授業内容を理解させる効果はあったと認識している。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	2023（令和5）年度：4.4（日本人学生4.4 留学生：4.6） → 2024（令和6）年度：4.5（日本人学生4.4 留学生：4.8） 「わかりやすい深い学び」を意識して、授業の教材研究に多くの時間を費やし、パワーポイントの説明文・地図・グラフ・写真などは、最新の情報と統計数値に改めた。また、数年改善の指摘があった写真の使用枚数の多さと授業終了間際の説明不足は、写真選定と授業の展開方法を改めることで改善された。 成績評価については、昨年度同様に授業中に実施した2回の小テストの成績と、毎回宿題として与えた確認問題の解答得点を全体の6割の評価とした。また、最終回の総合テストは4割の評価を行い、専門知識を確実に習得させるように努めた。 なお、授業の最終回に実施している総合テストは、これも昨年度同様にマナバに掲載した問題に解答を入力する方式である。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	2023（令和5）年度：4.5（日本人学生4.5 留学生：4.7） → 2024（令和6）年度：4.5（日本人学生4.4 留学生：4.8） 出席カードリーダーに学生証をかざした後授業に参加しない、いわゆるピー逃げの対応については、コロナ禍まで行っていた別途紙媒体での出席票を提出させることを検討する。

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	「正確に、わかりやすく、興味をひく授業」、これは私の授業に対する信念である。時間を割いて十分な教材研究を行い、学生の意見を反映させた授業方法の改善に、引き続き真摯に取り組む所存である。

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 茶道文化ⅠB

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数／履修者数 41／44

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.8で、回答者数を見ると、満足が35名で、やや満足が4名、どちらとも言えないが1名、不満足が1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較でも、0.1ポイント高い。 本クラスは履修者が44名ということで自明堂を使用して、1班を7～8名の少人数に編成し、各班に1名の指導者を配置して授業を行った。点前に関しては、前期に学んだ薄茶点前（前半）の続きとして、薄茶点前（後半）を習得することを目標とした。道具の準備から片付けまでの一連の流れを習得することで、前期よりも詳しく茶道文化を学ぶことにつながり、満足度の向上に寄与したものと考ええる。また、後期には、茶の歴史に関する講義や、初釜、松芳忌といった儀礼を通じた学びの中で、日本文化への理解を深めることができたことも満足度向上の要因の一つと思われる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度については平均が4.8で、回答者数を見ると、熱心が33名、やや熱心が7名、普通が1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 前期は初めて茶道を経験する学生がほとんどであったが、前期に薄茶点前（前半）の実技確認まで行ったこともあり、後期は前期よりもスムーズに点前を覚えることができ、学生の様子を見ていると授業を楽しむ余裕が感じられた。また、初釜や松芳忌では、着物を着た補助員（SA）が点前をする姿を見る機会があり、茶道について広く、深く学ぶことができたことは受講態度や学習意欲の向上につながったものと考ええる。さらに、本クラスは、薬学科の学生が多く履修していることもあり、茶道文化の授業が心をリフレッシュする時間になっている。日頃の忙しい時間と異なる、ゆっくりとした時間を過ごすことができることも茶道文化の授業の魅力であり、学習意欲の向上に寄与している。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.9で回答者数を見ると、良いが35名、やや良いが6名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.9で、回答者数を見ると、良いが36名、やや良いが4名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較でも、0.1ポイント高い。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが35名、やや良いが5名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較でも、0.1ポイント高い。 すべての項目で全体平均よりも0.1～0.2ポイント高く、授業内容に関しては概ね良好な数値が出ている。茶道文化の授業では、毎回点て出しを行っており、お茶とお菓子を準備している。回を重ねるごとに、お茶を点てることが上手になる学生や、様々なお菓子に触れることで美味しさに気付く学生がおり、日本文化の楽しさを知る機会となっていることが考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが34名、やや良いが5名、どちらとも言えないが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。 Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが35名、やや良いが5名、良くないが1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。

項目見出し	コメント
教養セミナー Q4～Q7	Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.5で、回答者数を見ると、良いが29名、やや良いが5名、どちらとも言えないが6名、あまり良くないが1名である。昨年度との比較では、0.2ポイント低い。全体平均との比較でも、0.2ポイント低い。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが26名、やや良いが5名、どちらとも言えないが10名である。昨年度との比較では、0.2ポイント低い。全体平均との比較では、0.3ポイント低い。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかについての平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが30名、やや良いが8名、どちらとも言えないが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかについての平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが30名、やや良いが8名、どちらともいえないが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。 授業方法に関しては、昨年度および全体平均と比較しても同数が多く横ばいの結果である。しかし、茶道文化が実技を主とする授業の特性を持っていることから、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。そのため、Q9の板書や機器の使用については、低い数値となっていると考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生のコメントの中には、各班の指導者の説明が丁寧であることが多く挙がっており、少人数での授業体制が良好であることがわかった。特に、茶道文化Ⅰの授業ではSAを配置しており、より質問のしやすい環境を作ることができ、学生と指導者の相互交流促進のきっかけとなっている。後期に開講される茶道文化ⅡBでは、「茶の歴史と鎮信流」についての講義を取り入れており、茶道を通した日本の歴史の学びや地域の再理解や再発見の機会となっていることがわかった。さらに、初釜や松芳忌を執り行うことで、日本の年中行事である正月の意味や、創立者が茶道を教育に取り入れた由来などを知ることにつながっている。 本クラスは薬学部の学生が履修しており、学生のコメントには「忙しい日々を忘れ、心を落ち着ける時を持てたことは良かった」とあった。座学中心の講義が多い学生たちにとっては、茶道を学ぶことで心を落ち着かせることにつながっており、茶道文化の授業は新鮮で有意義な時間であったように見受けられる。将来、薬剤師となる学生にとって、茶道文化で感じた癒しの部分を患者に伝えていくことができるよう、茶道の魅力を今後も発信していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火2

科目名 茶道文化ⅠB

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数／履修者数 62／120

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.7（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、満足が45名で、やや満足が13名、どちらとも言えないが4名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均とも同数である。 本クラスは履修者が120名と多く、自明堂と不息庵、2101教室の3教室を使用して、1班を7～8名の少人数に編成し、各班に1名の指導者を配置して授業を行った。点前に関しては、前期に学んだ薄茶点前（前半）の続きとして、薄茶点前（後半）を習得することを目指とした。初めて茶道を学ぶ学生がほとんどであり、点前確認で良い点数が取れるか不安な学生もいる中、学生のコメントを見ると少人数での授業が大変好評であったと思われる。少人数教育は、学生にとって質問がしやすく、丁寧な指導を受けることができるため、満足度の向上に大きな影響を与えているものと考え。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度については平均が4.5（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、熱心が36名、やや熱心が21名、普通が4名、やや不熱心が1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。 前期は初めて茶道を経験する学生がほとんどであったが、前期に薄茶点前（前半）の実技確認まで行ったこともあり、後期は前期よりもスムーズに点前を覚えることができ、学生の様子を見ていると授業を楽しむ余裕が感じられた。また、学生は茶道を通して学ぶ礼儀作法や道具を大切に扱う心を、将来の生活でも活かすことのできるものとして意識していることが、学生のコメントから読み取ることができた。茶道と触れ合うことを前に向きに捉えていることが、受講態度や学習意欲の向上につながっていると思われる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.7（留学生は4.7）で、回答者数を見ると、良いが46名、やや良いが12名、どちらとも言えないが3名、あまり良くないが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.6（留学生は4.3）で、回答者数を見ると、良いが43名、やや良いが13名、どちらとも言えないが6名である。昨年度との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較では、0.2ポイント低い。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.5（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが40名、やや良いが14名、どちらともいえないが6名、あまり良くないが2名である。昨年度との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較では、0.2ポイント低い。 授業内容に関しては、昨年度との比較および全体平均との比較においても同数または0.1～0.2ポイント低い数値が出ている。学生のコメントを見ると否定的なものはなかったものの、「点前確認が難しい」との意見が挙がっている。学生の習熟状況を把握しながら、授業を進めていくと共に、予習・復習として茶道文化研究所作成の動画を活用して興味関心を高めていきたいと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.6（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが43名、やや良いが13名、どちらとも言えないが6名である。昨年度との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較でも、0.1ポイント低い。 Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.5（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが40名、やや良いが15名、どちらとも言えないが7名である。昨年度との比較では、0.3ポイント低い。

項目見出し	コメント
スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	。全体平均との比較では、0.2ポイント低い。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.4（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが34名、やや良いが16名、どちらとも言えないが12名である。昨年度との比較では、0.2ポイント低い。全体平均との比較では、0.3ポイント低い。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.3（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが34名、やや良いが12名、どちらとも言えないが16名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.4ポイント低い。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかについての平均は4.4（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが39名、やや良いが13名、どちらとも言えないが8名、あまり良くないが2名である。昨年度との比較では、0.2ポイント低い。全体平均との比較では、0.3ポイント低い。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかについての平均は4.5（留学生は4.5）で、回答者数を見ると、良いが37名、やや良いが16名、どちらとも言えないが9名である。昨年度との比較では、0.2ポイント低い。全体平均との比較でも、0.2ポイント低い。 授業方法に関しては、昨年度および全体平均と比べて低い数値となっている。特にQ8やQ9は低い数値が出ているが、茶道文化が実技を主とする授業の特性を持っていることから、配布プリント等がなく、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。そのため、Q8やQ9については、低い数値となっていると考える。また、Q10の対応については、指導者間で共有をして改善行きたいと思う。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業の構成に関しては、実技確認という一つの目標を設定したことで、目標達成のために学生の授業への取り組む姿勢がより積極的になったと思われる。一方で、指導者によって教え方が異なるとの指摘もあることから、指導者間の統一を図っていききたい。また、指導者をローテーションして欲しいという要望もあるため、指導者間での情報共有をしながら学生の授業環境を整えていききたい。後期に開講される茶道文化ⅠBでは、「茶の歴史と鎮信流」についての講義を取り入れており、茶道を通した日本の歴史の学びや地域の再理解や再発見の機会となっていることがわかった。さらに、初釜や松芳忌を執り行うことで、日本の年中行事である正月の意味や、創立者が茶道を教育に取り入れた由来などを知ることにつながっている。 なお、本クラスは、茶道文化ⅠBの中でも履修者が100名を超え最多数である。少人数での指導体制を組むために3会場を使用したことは、学生に対して良い授業環境を提供することができたのではないかなと思われる。また、補助員（SA）の学生と交流ができたことは学生にとって良い刺激となり、学習意欲の向上につながったと思われる。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 茶道文化IV B

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数／履修者数 5／10

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.6で、回答者数を見ると、満足が3名、やや満足が2名である。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。 本クラスは、前期の茶道文化IVAで学外での波佐見茶会を経験していることもあり、後期は卒業茶会ということで学外からお客様を迎えての茶会を開催した。正式な茶事とまではいかないものの、懐石料理を含めた形式で、4年間の集大成として卒業茶会を開催することができたのは、満足度の向上に大きく影響していると思われる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度についての平均は4.0で、回答者数を見ると、熱心が2名、やや熱心が1名、普通が2名である。全体平均との比較では、0.6ポイント低い。 全体平均よりも低い数値が出ているが、学生の授業の様子を見てみると、卒業茶会に向けての練習を一生懸命に取り組む姿があった。また、懐石料理の扱いについては初めてで、出す順番や出し方に苦戦しつつも、メモを取りながら学生同士でコミュニケーションを取りながら対応している様子が見受けられた。卒業茶会は学生全員が、それぞれの役割を担うことで成り立つもので、卒業茶会の練習や本番を通して、学生自身のモチベーションを上げることにつながったのではないかとと思われる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分かりやすかったですかにについての平均は4.2で、回答者数を見ると、良いが1名、やや良いが4名である。全体平均との比較では、0.5ポイント低い。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが2名、やや良いが3名である。全体平均との比較では、0.4ポイント低い。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが3名、やや良いが2名である。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。 授業内容に関しては全体平均よりも低い数値が出ているが、否定的な回答はないため良好と思われる。茶道文化IVBの授業は、卒業茶会を成功させることが目標であり、亭主や接待の動きのみならず、茶会で使用する道具の組み合わせについての説明をすることで茶会のテーマ等を共有した。茶会を通してホスピタリティを学ぶことにつながっており、学生にとって有意義な時間となっていることがわかる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが3名、やや良いが2名である。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。 Q7の熱意の感じられる授業の平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが3名、やや良いが2名である。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが2名、やや良いが3名である。全体平均との比較でも、0.3ポイント低い。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は3.6で、回答者数を見ると、良いが1名、やや良いが1名、どちらとも言えないが3名である。全体平均との比較では、1.1ポイント低い。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたかの平均は4.2で、回答者数を見ると、良いが1名、やや良いが4名である。全体平均との比較では、0.5ポイント低い。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの平均は

項目見出し	コメント
	4.2で、回答者数をみると、良いが1名、やや良いが4名である。全体平均との比較では、0.5ポイント低い。 授業方法に関しても全体平均よりも低い数値が出ているが、否定的な回答はないことは良好である。Q9については、茶道文化の授業の特性上、板書や機器の使用がないことから、全体平均よりも大幅に低い数値が出ていると思われる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	後期は、4年間の集大成として懐石料理を含めた簡略した形式での卒業茶会を計画し、学内外より客を迎え、もてなしの実践を行った。授業では少人数であったため、担当者との交流も盛んに行われ、熱心な対応が授業の理解度や満足度につながっていることがわかった。また、クラスの仲間と協力して茶会を作り上げるという達成観も良い評価につながっているものと考え。学生のコメントからは、4年間茶道を続けたことで、より茶道に向き合える自分に出会えたことに感動している学生の様子が見受けられた。 卒業後、社会人の即戦力となることができるよう、今後も茶道を通じたもてなしの心を持った学生の育成を引き続き行っていきたいと考える。

アクションプランシート

2024年度後期 水1

科目名 茶道文化Ⅲ B

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数／履修者数 5／5

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は5.0で、回答者数を見ると、満足が5名である。昨年度との比較では、0.2ポイント高い。全体平均との比較でも、0.3ポイント高い。 茶道文化ⅢBでは、5年ぶりに錦秋茶会（観月茶会）を開催することを大きな目標として設定し、茶会を成功させるために練習や本番に取り組んだ。初めて地域の方々を迎えて、学生が主催者側になり錦秋茶会を開催できたことは、学生にとって大きな達成感につながっているものと思われる。また、茶会以外にも、中風炉点前や雪吹点前の習得も目指し、これまで学んできた薄茶点前や濃茶点前を基本として、様々な点前にも挑戦できることが満足度の向上に寄与していると考えられる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度については平均が4.8で、回答者数を見ると、熱心が4名、やや熱心が1名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 昨年度および全体平均よりも高い数値が出ていることは良好である。本クラスは受講者数が5名と少なく、少人数で授業を行うことができた。担当者にも質問がしやすい環境で、細かな点まで指導を受けることができるのは、学生の学習意欲の向上につながっていると思う。また、少人数で他学科の学生とも交流することができたことは、楽しく受講することのきっかけとなっているようである。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが5名である。昨年度との比較では、0.2ポイント高い。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが4名、やや良いが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが4名、やや良いが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。 授業内容に関しては、全体的に高い数値が出ており概ね良好である。中風炉点前や雪吹点前といった新しい点前、錦秋茶会開催というフィールドワーク、茶道文化Ⅳに向けての茶事の流れの講義等、多岐にわたる内容を取り入れたことで、これまでの茶道文化よりも深く学ぶことにつながっていることが、高い数値が出ている要因だと考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが4名、やや良いが1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較でも、0.1ポイント高い。 Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが5名である。昨年度との比較では、0.2ポイント高い。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが4名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.2で、回答者数を見ると、良いが3名、どちらとも言えないが2名である。昨年度との比較では、0.4ポイント低い。全体平均との比較では、0.5ポイント低い。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたがについての平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが3名、やや良い

項目見出し	コメント
	が2名である。昨年度との比較では、0.2ポイント高い。全体平均との比較でも、0.1ポイント低い。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかについての平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが4名、あまり良くないが1名である。昨年度との比較では、0.3ポイント低い。全体平均との比較でも、0.3ポイント低い。 授業方法に関しては、全体的に低い数値が出ているが、Q7については5.0と高い数値が出ており、特に5年ぶりの錦秋茶会開催に向けての授業では、各担当者が熱意をもって学生と接していたことが結果につながっていると思われる。一方で、Q9については茶道文化の授業の特性上、板書や機器の使用がないため、低い数値となっている。また、Q11について、あまり良くないとの回答が1名いることは改善点である。各担当者が授業参加を促すよう声掛けをしていくと同時に、授業の出席状況なども管理して、学生のフォローアップ体制を整えていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は、5年ぶりに錦秋茶会（観月茶会）を開催することができた。学生が主体となって授業を実施することができ、学生の満足度の向上につながったと考えられる。また、実際に客をもてなす行為を通して、これまでの学びの成果発表の場となり、達成感を感じていた様子が見受けられた。さらに、自分自身の役割を考えながら行動し、学生同士でよくコミュニケーションを図っている状況であった。茶道文化ⅡBの学生とも協同して錦秋茶会を成功させることができ、大寄せの茶会を経験する子ができたのは教育的効果のある内容であったと思う。 次のステップとして茶道文化Ⅳでも、学内で学んだことを茶会として表現する機会を多く設け、学生が主体的に学ぶことができる環境づくりを徹底したいと考える。また、茶道文化Ⅳへの導入として、茶事の流れを部分的に実施できたことも大変効果的であった。

アクションプランシート

2024年度後期 水2

科目名 茶道文化ⅣB

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数／履修者数 3／5

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は5.0で、回答者数を見ると、満足が3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。満足度に関しては、大変高い数値が出ており良好である。 本クラスは、前期の茶道文化ⅣAで学外での波佐見茶会を経験していることもあり、後期は卒業茶会ということで学外からお客様を迎えての茶会を開催した。正式な茶事とまではいかないものの、懐石料理を含めた形式で、4年間の集大成として卒業茶会を開催することができたのは、満足度の向上に大きく影響していると思われる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度についての平均は5.0で、回答者数を見ると、熱心が3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.4ポイント高い。 学生の受講態度や学習意欲等については、昨年度および全体平均よりも0.4～0.5ポイント高い結果が出ている。卒業茶会の練習や本番を通して、学生と指導者のコミュニケーションが密に行われ、指導者の熱意が学生に伝わったことも良い結果につながった要因であると考えられる。茶会を何度も経験したことによって茶道の奥深さや魅力について実感できたと思われる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分かりやすかったですかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、0.3ポイント高い。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 授業内容に関しては、全体的に概ね良い結果が出ている。卒業茶会開催に向けての内容が主であり、亭主や接待の動きのみならず、茶会で使用する道具の組み合わせについての説明をすることで茶会のテーマ等を共有した。茶会を通してホスピタリティを学ぶことにつながっており、学生にとって有意義な時間となっていることがわかる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 Q7の熱意の感じられる授業の平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、0.7ポイント高い。全体平均との比較でも、0.3ポイント高い。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、0.7ポイント高い。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたかの平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。

項目見出し	コメント
	Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの平均は5.0で、回答者数をみると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 授業方法に関しては、全体的に良い結果が出ており、良好である。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	後期は、4年間の集大成として懐石料理を含めた簡略した形式での卒業茶会を計画し、学内外より客を迎え、もてなしの実践を行った。授業では少人数であったため、担当者との交流も盛んに行われ、熱心な対応が授業の理解度や満足度につながっていることがわかった。また、茶会を何度も経験することで臨機応変な対応や周りを見る力も培うことができていると思われる。学生のコメントからは、4年間茶道を学ぶことが有意義であることを学生自身が感じている様子が見受けられ、充実感を得ている。 卒業後、社会人の即戦力となることができるよう、今後も茶道を通じたもてなしの心を持った学生の育成を引き続き行っていきたいと考える。

アクションプランシート

2024年度後期 水3

科目名 茶道文化Ⅱ B

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数／履修者数 14／16

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.9で、回答者数を見ると、満足が13名で、やや満足が1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 本クラスは履修者が16名で、自明堂を使用して、少人数グループを編成して授業を行った。各班に1名の指導者を配置しており、学生が質問等をしやすい環境を整えており、点前の習得につながっていることが満足度の向上に寄与しているものと考ええる。また、茶道文化ⅡBでは、各種お茶会（開国祭の茶席、錦秋茶会、大学茶会など）のサポートをフィールドワークの一環として授業に取り入れた。水屋として裏方のサポートを通して、茶会の運営について学ぶ機会となっている。本クラスは、茶道文化ⅢBの錦秋茶会の水屋を担当し、地域からいらしたお客様に出すお茶を点てた。100名を超えるお客様に如何に美味しいお茶を出すことができるかを実践的に学ぶことにつながり、満足度の向上につながっていると思われる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度については平均が4.8で、回答者数を見ると、熱心が11名、やや熱心が3名である。昨年度との比較では、0.2ポイント高い。全体平均との比較でも、0.2ポイント高い。 昨年度との比較、また、全体平均との比較においても0.2ポイント高い数値が出ているのは良好である。茶道文化ⅡBでは、濃茶点前の習得を主とした授業内容を計画しているが、着付けや生け花、絵手紙の中から学生が希望する内容を行うオプション授業も設けている。点前以外にも日本文化を体験する時間を設けることで、楽しみながら日本文化に触れ、理解を深めることにつながっていることも受講態度や学習意欲の向上に影響しているものと考ええる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.9で、回答者数を見ると、良いが12名、やや良いが2名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 Q4のシラバスと授業内容に整合性がありましたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが11名、やや良いが3名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが11名、やや良いが3名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較でも、0.1ポイント高い。 授業内容に関しては、すべての項目において高い数値が出ており概ね良好である。茶道文化Ⅰでは点前の習得が主であったが、茶道文化Ⅱでは濃茶点前の他にオプション授業や錦秋茶会のサポートというフィールドワーク、炭点前等の多岐にわたる内容が計画されていたこともあり、学生の興味関心を惹いたのではないかと考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6の話し方は明瞭であったかの平均は4.9で、回答者数を見ると、良いが13名、やや良いが1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 Q7の熱意の感じられる授業であったかの平均は4.9で、回答者数を見ると、良いが13名、やや良いが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切であったかの平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが9名、やや良いが4名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.2ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切であったかの平均は4.3で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが

項目見出し	コメント
	4名、どちらとも言えないが3名である。昨年度との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較では、0.4ポイント低い。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応したかの平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが11名、やや良いが3名である。昨年度との比較では、0.3ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの平均は4.9で、回答者数を見ると、良いが13名、やや良いが1名である。昨年度との比較では、0.2ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。 授業方法に関しては、概ね良好な数値が出ている。やはり少人数で、質問がしやすい環境は学生にとって有益であることがわかる。一方で、Q8とQ9については全体平均より低い数値となっている。しかし、茶道文化は実技を主とする授業の特性を持っていることから、配布プリント等がなく、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。そのため、Q8やQ9の項目については、低い数値となっていると考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	茶道文化Ⅱは選択科目となり、必修科目である茶道文化Ⅰに比べると履修者が減少する。そのため、少人数での班編成を組むことにつながり、指導者の目が行き届き、各班で充実した点前の稽古ができていくことは大変良好な点である。また、薄茶点前を基本として、濃茶点前や炭点前の理解を深めることで、茶道文化ⅡB終了時に鎮信流初歩伝免許状を申請することができるのも、学生にとっては大きな付加価値となっている。さらに、着付けや生け花、絵手紙といったオプション授業も毎年好評で、様々な日本文化を経験することが新鮮で、魅力的な授業内容となっている。そして、今年度は、茶道文化ⅢBの錦秋茶会のサポートをフィールドワークとして位置付けて、茶会の運営補助を行った。その中で、茶会の流れや亭主と客のやりとりを学ぶことができ、茶道文化Ⅲへの履修の足掛かりとなっているのではないかと感じられる。学内で学んだことを地域の方々を呼んだお茶会にて表現できる機会を設け、学生が主体的に学ぶことができる授業を組み立てていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火4

科目名 宿泊業論
教員名 落合 和昭
回答者数／履修者数 107／177

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2022年度実施時には4.4であったため、微増傾向を認めたい。特に理解度と満足度の合計（質問12～13）が、前回5評価43.0%に対して今回は58.4%と、格段に成長していることを評価したい。今回は4～5評価合計で92.5%に達している（前回90.9%）ことから、一定の水準と判断している。但し、留学生に1名最低評価の学生がいる点が懸念事項にあげられ、今後の学習指導に留意していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業中にレスポンスを使った無記名での意見交換を行うほか、前回授業で提出されたレポートのうち共有に値する事例を無記名で紹介して、ホスピタリティ産業における特性理解や産業研究を実践した。直接的な討議や主導的な活動を促してきたものの、学生の参画意欲が乏しく活性化に至らなかったため、無記名（一部回答）でのシステム活用により、やる気のある学生は周りの目を気にすることなく発言でき、高い評価を掲示することが可能となった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	4.5～4.6の評価で、合計95.0%（前回90.9%）が4～5評価にあるため、今後もこの水準を維持できるよう研鑽を続けていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	4.5～4.7の評価で、合計94.2%（88.8%）が4～5評価にあるため、今後もこの水準を維持できるよう研鑽を続けていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	前回に比較して最も改善を行いべき点として、回収率の向上が挙げられる。前回78.8%の学生から回答を得ているのに対し、今回は60.5%と目標を達成することが出来なかった。授業中はもとより、マナバなどでも積極的な回答を促した結果であるが、一部授業時間を割愛しても回答を促すなどの工夫を行いたい。また予復習や受講態度にも課題が見受けられ、併せて検討を行っていく。

アクションプランシート

2024年度後期 水2

科目名 専門演習Ⅱ B

教員名 落合 和昭

回答者数／履修者数 10／13

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	評価4.9のため、高い満足度が得られたものと判断する。前回は2021年度でコロナ禍の影響もあって回答率が33.3%（今回76.9%）のため参考値（5.0）である。前回は「発言の場が少ない」「みんなと会話をして質問したい」などのコメントがあったが、多くの改善を経て現状の高い満足度が得られたものと思われる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	ゼミで経験したい内容を自由に提案させ、結果として「事業計画の策定と文化祭模擬店出店」、「観光やホテルを題材としたディベート」、など観光学習に相応しいプログラムを開発、実践することができた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	積極的な学生はより実践的な活動を行うことができたが、活動内容により学生間で若干濃淡が生じたことは否めず、サブプログラムを用意するなど今後の改善課題としたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	評価4.8～5.0で高い水準にあり、今後もこの維持に努めていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生の発想を尊重したため、一部シラバスとは異なる活動も含まれていたが、相応の満足度は得られたものと思われる。今後も学習目標を堅持しつつ、参加学生の希望や発想を活かして、積極的なゼミ活動を行っていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 コンピュータ基礎ⅠB

教員名 尾場 均

回答者数／履修者数 63／69

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	数年前まで自由記述に見られた『授業内容が難しい』という意見は、2年連続で寄せられていない。 一部の学生からは、ゆっくり説明しても授業スピードが速く感じるとの声があるため、授業内容を繰り返し説明するようにしている。 広い教室ですが、学生の画面を注視しながら進捗状況を確認する方法が、学生の理解度向上に繋がったと考えられる。 今年度も課題提出率はほぼ100%、テスト結果も良好であり、学生の理解が深まっていることが伺える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業改善の一環として、前回の授業内容を冒頭で復習する形式を導入した。さらに、授業中に学生同士が意見交換や理解度確認を行える時間を設けたところ、学生の積極的な参加が見られ、学習意欲の向上に繋がったと考えられる。 学生のニーズを把握するため、授業ごとにアンケートを実施し、寄せられた意見には迅速に対応しました。その結果、学生の満足度向上に大きく貢献できたと感じている。 授業内容に関しても、教科書の内容に加えて、実際の業務で活用できるデータ分析や事例を取り入れたことで、学生からの評価が向上しました。特に、佐世保市の人口推計データを用いた分析演習は、レポート内容から高い満足度が確認できた。 今後も、実務に役立つ実践的な授業内容を充実させるとともに、ICT関連の講義や時事問題を取り入れ、学生の学習意欲を高めていきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3 4.3 Q3 4.4 Q5 4.3 (2023年度 Q3 4.3 Q3 4.4 Q5 4.2) 学生のスコアQ5が向上した。毎年の授業内容を改善した結果である。 授業はシラバスに準拠して進めたが、一部の演習では進捗に遅れが生じたが、学生一人ひとりの進捗状況を丁寧に確認し、学生アシスタントと協力してきめ細やかなサポートを行った結果である。 アンケート結果は、全項目で昨年度を上回る高評価とな、過去のオンライン授業時に寄せられた学生からのフィードバックを反映させたことが、満足度向上に繋がったと考えられる。 学生アシスタントと連携した個別指導が、より高い学習効果だったと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	前年度の指摘であった熱意に関する学生評価が向上した改善に努めた結果である。 授業内容や方法については、説明スピードの改善や授業構成の見直しにより、学生からの評価は向上した。学生の満足度向上に貢献した。 シラバスの進捗状況に柔軟に対応しつつ、授業内容の質を維持することを重視している。 また、これまで同様に学生が質問しやすい環境、別の時間での研究室での個別指導も、学生の理解度向上に繋がっていると思われる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生のキャリアに役立つ授業を目指し、データ・AI活用や最新動向を取り入れている。データリテラシーも組み込み、学習意欲向上に繋げ、自由記述の雑談と書かれている点はデータ・AI活用や最新動向の話であり、それを具体的に説明している。 高評価を頂き、今後も学生の状況を注視して授業を進める。 自由記述で指摘された「授業中のスクリーンが見にくい」という点は

項目見出し	コメント
	、設備の改善が必要である。

アクションプランシート

2024年度後期 火5

科目名 情報処理論

教員名 尾場 均

回答者数／履修者数 45／65

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業では、教科書の内容に加えて、情報関連の最新ニュースや社会情勢を分かりやすく解説し、学生にとって身近な事例を積極的に紹介した。その結果、授業で学んだ知識を自ら行動に移し、その感想を報告する学生が多数見られた。実際に体験することで、授業内容への満足度が向上したと考えられる。体験学習や社会生活に関連する内容を充実させたことが、学生の満足度向上に繋がったと考えられる。教科書の陳腐化に対応するため、常に最新の情報を取り入れた授業準備を行った。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	昨年度と同様に、学生からの評価は高く、「授業内容への興味」に関するスコアは向上した。これは、学生の興味を持てる内容と授業方法の結果だと考えている。AIやスマートフォン関連の話題は、学生からの質問も多く、高い関心を集めた。スライド資料についても、情報デザインの原則に基づいて作成し、視覚的な分かりやすさを追求し、本来の情報デザインに関する説明も、学生たちの関心を得た。今回は包括連携となった企業とのDX関連の授業を取り入れたことも学習意欲の向上となった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業では、話し方や熱意はもちろん、昨年度から学生からの要望を踏まえ、必要な資料を事前に配布するようにした。また、PCの持ち込みを許可したことで、学生が授業中に疑問点をすぐに調べられるようになり、学習効果の向上が期待できます。どの科目もだが、説明の早さに関する意見がなくなったことは、授業内容と方法の両面において、改善がされたと思われる。特に最新のテクノロジーを学生に触れさせることは有意義だと思う。 教科書に留まらず、学生が授業内外で実践的な体験を通じて学びを深めることを重視しました。その結果、学生の受講態度と学習意欲が著しく向上しました。昨年度は見られた授業中の居眠りも減少し、学生が積極的に参加する様子が見られました。講義内容が実社会と密接に関連していること、そして学生自身が体験を通じて理解を深めることが、学習意欲の向上に繋がったと考えられます。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	特に感じていない。遅刻に関しても遅刻が少ない、そして私語も少ない授業である。事前に準備やデモを忘れず機器トラブルもなく、時間内に予定すべての内容を伝えることができた。PCの持ち込み等を許可することで、授業中に内容の関することを確認したり、改善ができたと思われる。授業内容も方法も含め、良い方向に改善できたと思われる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	始めて外部企業の協力による授業を複数取り入れた。授業内のアンケートでは学生への情報関連の資格への意識が高まったことを感じている。学生には常に社会の情報にアンテナを張り多角的な視点を持つことの重要性を指導した。現代社会では、インターネットを通じて容易に情報を取得できる一方で、情報が偏りがちになる傾向があります。特に、新聞やテレビに触れる機会が少ない若年層に対しては、架空請

項目見出し	コメント
	求、詐欺、仮想通貨、ネットカジノなどの賭博など、実際に起こりうる社会問題を授業で取り上げ、正しい知識を身につけさせることが重要だと考えている。履修後も、この分野への関心を継続し、社会で活躍できる人材へと成長してくれることを願っている。

アクションプランシート

2024年度後期 金3

科目名 英語ⅡB

教員名 川上 直彦

回答者数／履修者数 23／27

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	履修学生のこの授業に参加しての満足度は、4.5と高かった。そのため、来年度に向けて特に講義内容等を変更する必要はないと考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業中における学生への問いかけ、毎週の宿題、小テストと15回の授業をつうじて色々なことをやらせて学生に飽きさせないようにしたことが良かったと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3-5についても、それぞれの評価が、4.8、4.7、4.5と非常に高かったので、非常に良く15回の授業内容が構成されていたといえる。来年に向けて、特に改善する必要はないと考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6-11についても、それぞれの評価が、4.6、4.5、4.8、4.3、4.8、4.6とすべて高かったので、非常に良く15回の授業方法についても構成されていたと自己評価できる。来年に向けて、特に改善する必要はないと考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は、非常にまじめで英語に興味を持っている学生が多数いたとかんじている。それが良い評価へと繋がったと考える。

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 専門演習ⅠB

教員名 佐野 香織

回答者数／履修者数 7／8

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	ほぼ満足したという回答であったので学生に適したものであったと思われる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	論文や本を読む、というアプローチは難しい学生たちだったため、実践とふりかえりからの経験学習を中心とした。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	留学生と日本人学生の共修の方法
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	コミュニケーションを必死にとる、という点では大きな学びにつながったが、マジョリティが日本人学生のため、どうしても自分たちだけの理解ですすめようとするところは難しかった。留学生にインタビューする、留学生のことばを学ぶ、という方向をとりながら行った。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	ほぼ想定した通りであるが、レポート執筆などに取り組む準備の時間もかなり必要であると感じている。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 海外観光資源A

教員名 竹田 文雄

回答者数／履修者数 152／215

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度平均は4.6pt。留学生以外が4.7pt（前年差▲0/2pt）、留学生が4.8pt（前年差+0.2pt）。履修学生数が200名を超え、また留学生がその内のおよそ3割を占めているため、いずれの学生にとっても判りやすい授業の実践を心掛けた。留学生以外の満足度平均を前年差で0.2pt落としてしまったが、これは全体最適を重視した結果として受け止めたい。総じて努力の甲斐が評価されたと思料するとともに、今回の評価結果については概ね満足している。しかしながらここで留まることなく、評価結果のさらなる向上を目指して各評価項目を確認していく。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	【留学生以外】と【留学生】の評価結果の間には0.3ptの差異がある。この差異の理由のひとつには日本語理解力を意識しての授業展開が関与するものと思料する。一言で語ると「難易度を若干下げた」授業展開の結果である。観点を変えると、必要以上に難しい表現の使用を回避するとともに、努めて視覚素材を多用したことで、留学生に受け入れられたのではないかともし考している。話し方や資料の展開などの講義スピードが速くなりすぎないことに留意していた点が、結果的に留学生以外の学生に対してもプラスに作用すると考えていたが、深掘りして学びたい学生には物足りなかったことも推定できる。次年度に向けては、さらなる手法を検討し、評価の向上に結び付けたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3については、授業中盤頃からの言語の壁を意識して学生の理解度を鑑みながら授業を進めてみたことが裏目に出てしまい、留学生以外の学生に物足りなさを感じさせてしまったことが一因として想定される。質問4のシラバスと授業内容の整合性については毎回の授業で最も留意している点のひとつであるが、次年度に向けて再度確認していく。また質問5の評価結果を受けて、学生に興味や関心を持たせ、さらにその意識を向上させるための手法を検討していく。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問8と質問12が次年度に向けての課題であると認識している。各回の授業では教科書とパワーポイント資料を併用しているが、その使用バランスを再考することで、これらの評価結果の向上を試みる。質問9については、「レスポンス」の使い方に難があった回が2～3回あったことを指摘されていると思われる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	自由記述の評価が総じてポジティブな内容であることに安堵している。なおコメントにも挙げられている、1101教室での200人超の授業でのディスカッションの実践については次期に向けて検討していく。ネガティブ評価に対する改善に真摯に努めていくことは無論のことだが、さらに、ポジティブな評価に対する一層の向上と研鑽に努めてまいりたい。

アクションプランシート

2024年度後期 水3

科目名 Practical English II B

教員名 Thom W. Rawson

回答者数／履修者数 16／21

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	I was very happy with the 4.4 out of 5.0 for this course.
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	There is nothing new that needs to be done. The course has many activities for getting students to use their English in an active learning environment.
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	The average of 4.6 out of 5.0 in this section is very satisfying.
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	This section also has an average of 4.6 out of 5.0. I'm very satisfied.
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	The only thing to say is that I've enjoyed being a part of the Global Tourism program for the past 11 years. I learned a lot and tried hard to get students to improve their abilities and confidence in using English.

アクションプランシート

2024年度後期 月2

科目名 地域産業の魅力

教員名 森尾 真之

回答者数／履修者数 73／128

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	例年通りのスコアです。特にコメントはありません。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本年から「観光まちづくり論」への名称以降にあわせて、もともとキャリア講義だった講義内容から大きく見直しを図った。加えてグループワークを取り入れ、地域観光の専門的な領域にも落とし込んだ。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	(2) で述べたように大きな改編を行いました。出ているスコアとの関連性はわかりません。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	グループワークが楽しかったというコメントが1名ありました。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	毎回本講義は評価が高く、講義内でのレポートもかなり文字数が多く、手ごたえのある内容のも多くみられる講義です。しかしアンケートとしては毎年スコア的には大きくかわるものではなく、解答方法も単に5段階で評価するものであることから、その結果について毎回コメントするというのは意味があるのでしょうか。

アクションプランシート

2024年度後期 月5

科目名 旅行業論
教員名 森尾 真之
回答者数／履修者数 39／66

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	例年通りのスコアです。特に満足度を左右する新たな取り組みもしておりません。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本年度からテキストを内製化して配布することで、テキスト代（約2,500円）の軽減にはなっているが、受講者が増えたわけでもなく、効果としてはほとんどなかった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	外部講師の起用など例年通り精査したカリキュラムであったと考えている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業態度については、年々講義に対する関心が薄れていることが実感としてある。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートの回収率については、WEBでの実施になってから低くなっているが、これを向上させるための方法は現在のところない。またアンケートの回答内容やこのアクションプランは、大学としてどのように活用するつもりなのかを是非聞きたい。たとえば教室の設備などについてなど、もう少し設問項目を見直すことなどを考えることはないのか。評価対象でもないのであればかなりの手間である、というのが所感である。

アクションプランシート

2024年度後期 水2

科目名 MICE論
教員名 森尾 真之
回答者数／履修者数 24／41

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度の評価については、毎回述べるが実務の講義なので興味のある学生とそうでない学生とで当然満足度が分かれる。例年ほぼ同じようなスコアでもあり、この評価だけで述べるべきことはない。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎年スポーツはジャパネットからNSC（長崎スタジアムシティ）について話をしてもらっていたが、NSCのオープンもあり、外部講師の依頼を断られた。そのため佐賀の国スポに関して取材を受けた記事をもとに、スポーツイベントを取り上げる講義を代替設定したが、いつも顔を挙げない学生が聞いていた印象がある。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	講義の新設から5年が経過し、ほぼ講義の内容は固まったが、新しい要素が入ってくるのでアップデートしながら進めていく。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	設問とは直接関係ないが、これまで教員が国際会議場の現場に赴き、撮影した動画をつかったオンディマンド講義などを行ってきたが、労力の大きさと効果について検証した結果、講義の中で現場での研修を入れた方が良いという結論となり、次年度以降出島メッセ長崎での現地視察と座学を実施する。このことでより関心のある学生に対しての効果が期待できると思われる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケート調査については、できるだけ実施期間の最後に講義の時間内でアンケートに回答するように指示はしているが、回答率が上がらない。期間の前半に実施し、次週にもリマインドする方が回答率のアップにはつながるが、講義のまとめなどを最後に行って、この講義の意義などを説明した上でアンケートの回答をしてもらうべきだと考えているので、今後の取り扱いについては今のところ見直すつもりはない。またコメントの数が少なくなってきたおり、この点はわざわざコメントするほどではないという学生の評価であるとするなら、何らかの見直しを考えなければならないが、今のところ策となるアイデアはない。

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 Practical English II A

教員名 井畑 敦子

回答者数／履修者数 19／23

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	全般的に高いものとなっている。メインで進められていた大渡先生によるところが大きいと思う。私は担当が初ということで勝手がわからずずっとやってきた方法は買えずに主導権を渡すよう指導がありアシスタントに徹した。授業前後の打ち合わせはしっかりし、意見交換は積極的にできた。 毎回思うが、質問が広すぎ漠然としているので何をもって評価しているのかが結局読み取れず、毎回思うがアンケートの意義を感じれない。Q13に関しては学問において満足度を聞くという設問自体を再考しないと、学生が教育をサービスと完治以外する一因となる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	English Centralなど宿題を30分とり授業でさせるので、サボり癖がついている学生は喜び満足度が高くなると思うが、本気で英語力を上げに来ている学生は疑問に感じていた。しかし少数派であり、いわゆる満足度を考えるなら、そうせざるを得ないことがあるのだと観察した。授業で取り上げないと重要と感じないから宿題もやらないので慣習としてそうなったと理解した。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	英語力0で入ってくる多数派にとっては良いかもしれないが、英語特待で真剣に英語に向き合ってきた層のことをもっと大事にすべきであると考え。尚、この層と極端に学習態度がよくない学生はGTを次年度より離脱する。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	学生の特性を見てのことのなので難しいとは思いますが、メインプロジェクトをより増やし、調べたりプレゼンする機会が増えるとよいと考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	留学に向けて、リスニングになれるのは良いと思うが、スピーキングにもっと時間が割かれてもよいのではと考える。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 専門演習Ⅱ B

教員名 浦郷 淳

回答者数／履修者数 9／9

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	9人中6名が満足という回答を寄せており、内容としては充実していたものと判断できる。全員が満足できるように、次年度の改善に活かしたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生が単に話を聞くだけではなく、自分たちで立案したものを外部のイベントで活用する学修に取り組んだ。そのことによって、自分たちの取り組んで来たことの自信につながったと思われる。単にインプットになることなく、アウトプット型の授業展開を行っていききたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」についての項目に3があり、この部分の改善ができるようにシラバスの工夫や実際の授業展開の工夫を行っていききたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	「板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたか」「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたか」の項目が4、7と他の項目よりも低かった。これらの点を授業の際に気を付けるように今後留意してきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業態度についてバラつきがあるため、学生自身がきちんとした態度で臨めるよう、また、自覚できるような工夫を行っていききたい。さらに、授業の構成等も含めて次年度は改善していききたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 専門演習ⅠB

教員名 浦郷 淳

回答者数／履修者数 15／15

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	全員が5ないし4を付けているため、満足度は高かった。自分たちが作ったものを発表する授業形態であったため、とりくみや学修の成果を発揮できたものと思われる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生が授業を創り、実際の学生に行う展開であったため、学生も意欲的に取り組むことができたと思われる。また、外部との連携もあったため、学生も就活前に充実したものであったと思われる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	どの項目も5か4であり、今後も同様の結果が維持できるように工夫していきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	どの項目も5か4であり、今後も同様の結果が維持できるように工夫していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学修の準備の部分で3をつけている学生がいたものの、後は4ないし5であったため、今後さらに授業の形態等を工夫していきたい。本科目の内容は外部との連携も含むため、来校頂く方のご意見を伺いながら展開していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木4

科目名 ダイバーシティとグローバル市民論

教員名 浦郷 淳

回答者数／履修者数 155／173

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度については半数近くの学生が5という評価であるものの、3・2・1といった回答を行っている学生もいるため、わかりやすい授業を工夫したい。特にゲストスピーカーへの質問の方法等についての記述も見られたため、工夫を行っていききたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	様々な学生が受講をしていたため、資料を早目にマナバにアップするようにした。さらに、質問をレスポンスを使って受け付けることで、学生が主体的に話を聞くことができるようにした。さらに、質問の一覧なども整理して提示することで、問い方についても工夫するようにした。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	大人数の受講であったため、それぞれのニーズに応じた展開ではなかったと反省している。様々な受講生が何を求めているのかを把握した上で展開を工夫する必要がある。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	多くの学生が5ないし4を付けているものの、数名が3や2を付けているため、大教室でのマイクの使い方、配布物の仕方、受講の方法などを工夫し、さらに、学生自身にこれらができている場合は自覚できるような工夫を行っていききたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	15回を通した大教室での授業は、単独では本科目が初めてであったので、様々な戸惑いもあった。一方で学生は主体的に参加してくれたため、自由記述の内容も含めて今後改善を行っていききたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木5

科目名 教育方法論

教員名 浦郷 淳

回答者数／履修者数 40／50

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度としては、4.7と過去2年と同様の結果であった。概ね変化がないが、3と回答している学生が2名いることから、この層の学生がいなくなるように改善に努めたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教育方法論は、学生の予習をもとに授業を展開している。その学修を事前に行っていない学生については質問1の項目の回答が低かったことが想定される。一方で、「授業を受けた態度」についてはこれまでの評価では過去の結果と比較しても一番良い結果であったことから、学習方法が十分浸透したのだと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	メディアルームの使用の都合や模擬授業が受講人数によって決定するため、シラバスの内容との整合性が若干ズレた所があった。この点は学生に対してもう少し詳しい説明を行いたい。併せて、授業内容に対して興味をもてるように、学生自身の問いを大切にしていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	それぞれに3と回答している学生が見られることから、授業改善を行っていききたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	例年と比較すると良い結果となっている。一方で3とつけている学生が一定数見られることから、普段の授業改善を行っていききたい。特に教職科目でもあるので、学生自身が使えるものとしての教育方法を指導していききたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月2

科目名 武道
教員名 江島 弘晃
回答者数／履修者数 22／23

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本実習の武道では、学生の授業に対する満足度は良いに達していたのは4.2であったため、学生は満足に達していたと推察している。とくに設問のQ10に限らず、Q1からQ13にかけてすべてが1-5に乱雑しており、学生の授業態度も熱心だった者とそうでなかった学生に分かれていた。また、数名の留学生が本実習を受講していたが、留学生の授業態度も教員の予想よりもよく、本人達からの満足度もアンケートを見る限り、高かったことから双方満足いく結果になったと考えられる。留学生に対しては武道自体が日本人に比べて武道に対する理解も不足しているが、導入性が高いであろう柔道よりも剣道を主体とした授業展開を実施した。今回、有段者はおらず、他は未経験者が多数ということから、大半が資格取得のため、または留学生は単純な興味ということから、学生が授業に導入しやすいように、剣道の初歩から、基本技へと段階を追って実施したことがアンケートの結果につながったと考える。その一方で、自由設問には不平をのべる意見もあったが、単に学生の不満にすぎないものとしてとらえ課題にはしない。学生がアンケートに回答している際、自由設問に記述するように促したが、とくに意見などの記載はなかったため必ず記載させることが授業の今後のさらなる向上につながると考えられる。ただ、記載はないということは次年度の授業も同様の手順で実施していけば学生の満足度も得られると考える。この点は要注意であり自由設問の記入を促していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	(1) に記載したように留学生も2名参加していたこと、日本人の学生は資格取得の意識が強いため受講しているように感じた。そのため、双方納得のいくよう創意工夫したが、あくまでも授業であるということ認識させた。具体的にはまず、道着の装着方法からすり足の仕方などの基礎中の基礎となる基本技術を習得させるため、2～3コマ分の授業を用いて学生に指導するような形で授業展開を実施した。その結果、中盤以降の授業では大半の学生が基本技などの習得が容易に感じられた点、スポーツの実技に見られる試合形式の授業を多用せず、段階を追って授業展開を行ったことで学生の学習意欲につながったと考えられる。また、授業に対して熱心さに欠ける学生も一定数いたが有段者による試合を履修生の学生たちに観戦させた点は剣道のダイナミックな動きがあることを承知させることで迫力のある試合が出来る点や模範を示す点で学生の受講態度の向上につながったと考えられる。また、今年度はICT活用として、学生自身の動作確認を動画で撮影してポートフォリオに視聴させた工夫を実施した。剣道は素早い動きを行うことが試合での有利な展開につながると考えられるが、動きを取り入れた指導を行うことで、学生の興味がある、理解しやすい、意図がある授業展開につなげることが今後の課題と考えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	受講した学生の半数が「良い」の5であったが、授業の編成、シラバスとの整合性、そして学生が興味を引くような授業展開を実施した結果だと考える。その一方で数名ほど評価が3の学生もいた。最低の1の評価だった学生が今回いたが、この学生がどのような考えで1にしたのか疑問がのこる。そのため、履修学生が満足の内容にするためには学生一人一人に対しての密な教育指導が必要になる。また、本実習は学生の履修生も少なく、学生を特定することが出来るが、公平性を持って授業を展開する必要がある、個別性を理解した配慮が必要であると感じている。例えば、履修していた学生の中に今回有段者はおらず模範となる学生一人に対して学生一人ずつ稽古を実施した工夫を取り入れることができず素人同士で稽古をつけることがむずかしかった。また、学習意欲も低く、剣道を学びたいという学生は留学生に多く見受けられた。この点は終盤に学生同士で技能の差が中盤以降から明確になっていたため、技能が低かった学生に対してもう少し親切丁寧に指導すれば有意差は改善でき、アンケート結果も変わったである。

項目見出し	コメント
	うと推察している。そのため、次年度からの課題として全履修者の技能レベル向上できるように学生一人一人の密な指導による授業展開が必要であると認識している。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	アンケートの結果では、話し方、熱意は「良い」が10名と多く、4が3名程度で3が2名という評価であった。配布プリントを各授業で配布したことで授業の理解浸透度を高めるよう、また復習・予習の武道に関して事前学習を行うなどの創意工夫をしたが、なかなか評価しない学生がいたことが前年度の課題であったため、今年度はICT活用として動画撮影を実施した。機器の使用を頻繁に使用したことや授業の妨げにならないように学生に問いかける授業展開を行うことで学生自身もその対応を理解してくれていたと考えている。そして、学生が授業参加に積極的に介入するように試合形式を取り入れたり、団体戦での試合を実施したことが学生自身もその創意工夫を理解し、アンケートでの評価として表れたと考えられる。全体的に履修した大半の学生が「良い」と評価してくれており、次年度も今年度と同様の授業展開を実施していく計画にある。しかし、また次年度から学生の様相も変わるであることが予測されるため柔軟に対応していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケートの結果を閲覧し、率直な感想は満足のいく内容と感じている反面、授業時間が片付けを延長しての不満を述べている学生がいるようだったため、学生に対する配慮なのか、単に学生のががままなのか見極める必要がある。授業を行う際、配布プリントを多く使用し、またパワーポイントの使用、ときにはインターネット上での学生が理解しやすい剣道に関するルールの公開、そしてビデオでの有段者による試合の閲覧を実施するなどの工夫を凝らした。しかし、評価の低い学生は資格取得のための授業という認識しかなく、学ぶ姿勢はあまり感じられない。また、留学生に対しても時にはマンツーマンでの実技指導などを徹底することが出来たので双方満足のいく授業展開が出来たと考えられる。マナバ上での課題提出などの授業を展開したが、楽しい、学べた、という評価を述べた意見もあった一方、上記の不平を述べる意見もあったため、今後の課題として、有段者の試合の動画を授業冒頭に見せるなど、創意工夫を行うようしたい。さらに、自由設問に記入する学生は不平をのべる学生もいたため、次年度はより多くの学生に良い意見が記載してもらえるように記述時間の確保や記載の際に積極的に介入する必要があると考える。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 専門演習Ⅲ B

教員名 江島 弘晃

回答者数／履修者数 8／8

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する理解度・満足度は6名が「できた」と評価し、学生達が満足いく専門演習を実施してくれたと感じている。またQ12の授業内容の理解に関しても納得のいく「できた」と評価してもらった。自由記述の記載に関しても学生1名から「とても勉強になった」という記載には教員としての満足のいく結果である。この評価は次年度も尊重して学生との介入を増やしていきたい。今年度は学生が8名と昨年度は6名と人数が少なかったため、各学生個人にある程度の学生指導が出来たとも感じ、次年度は学生数が10名と若干増加する分、教育的指導を増やし、学生一人一人の専門性を高めるよう個別指導を積極的に展開したいと考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	専門演習ということで主に卒業研究の論文制作に注視した。学生には目標課題を各自達成させるとともに共通の条件も設けた。共通の条件は規定にあるように2万字の文章に達していない場合は卒業研究の論文を満たしていないというものである。この共通条件は各自が目標達成出来るように学生の意欲向上につながったのではないかと考えている。そして最も工夫した点は一度、学生全員で進捗報告を設定したことになると考える。これは各自がどの程度進捗しているのか把握できる点や自分自身の位置状況も把握できる点が効果的だったと考えられる。確かに進捗状況を発表した後は学生の受講態度の変化も見られたと考えられる。卒論発表会でもその成果が表れたと感じている。内容は次年度でも展開させ、内容自体の良さであるのか本年度の学生のみ適用できたのかを検討したい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業の内容に関して8名の大半は設問の3つに対して「良い」の評価を得たため、授業内容に関心を持って受講してくれたものだと考えている。その一方で、1名のみ授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったのかは「4」、1名はシラバスとの整合性および授業内容に興味はありましたかは「4」と平均的な回答だったため、今後は履修学生全員が5と評価してもらえるように改善する必要がある。改善策としては主に個別での指導を積極的に導入していく点やシラバスでの内容を教員と学生双方で相互確認し合うことで改善が期待できると考えている。次年度は人数が若干増加するため、各学生にマンツーマンで指導し適切な課題を解決できるように指導していきたい。平均的な数値は4.8以上であったためこれまでの評価と比較しても満足のいく結果だと捉えている。次年度では学生も変わり、授業の内容を適時修正しながら対応していく予定である。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業の内容に関して8名の大半は設問の3つに対して「良い」の評価を得たため、授業内容に関心を持って受講してくれたものだと考えている。その一方で、1名のみ授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったのかは「4」、1名はシラバスとの整合性および授業内容に興味はありましたかは「4」と平均的な回答だったため、改善する必要があるようである。改善策としては主に個別での指導を積極的に導入していく点やシラバスでの内容を教員と学生双方で相互確認し合うことで改善が期待できると考えている。次年度は人数が増加するが、専門演習Ⅱで卒業論文の制作を進めており、十分な指導が実行できると考えている。平均的な数値は4.8以上であったため概ね満足のいく結果だと捉えている。次年度では学生も変わり、授業の内容を適時修正しながら対応していく予定である。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業の方法に関しては(1) (3)と比較して十分なアンケート評価が得ることが出来なかった。話し方の明瞭は平均が4.8であり、最大評価の5にするためにも事前に話す内容を事前練習し要改善する必要があると考える。熱意の感じられる授業の問いには8名全員が「5」を記

項目見出し	コメント
	載していたため、熱意のある授業展開にするためにも方法を見直す必要があると考えている。教科書、参考書、配布プリントの使用の適切さは7名が「5」だった点や板書や機器の使用の適切さに関しては6名が「5」であったため、プロジェクタースクリーンやスライドを用いての進捗状況の各自の発表方法が良かったと考えている。また遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応をしていたのかの問いに関しては6名が5と評価しており、昨年度はこの項目はばらつきがあったため、私語厳禁を学生に指導することを次年度での課題としていたが、概ね改善されたと考えている。

アクションプランシート

2024年度後期 月その他

科目名 卒業研究
教員名 江島 弘晃
回答者数／履修者数 8／8

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する理解度・満足度は8名が「できた」と評価していた。そのため、満足度は100%という結果だったが、履修者数が少ないため評価のしがいがないが、学生達が満足いく卒業研究を実施してくれたと感じている。また設問12の授業内容の理解に関しても納得のいく「できた」が7名だったため、全学生が同様の結果と評価していた。自由記述の記載はなかったが専門演習Ⅲbと同様の評価であると捉えている。平均は4.9と最高得点の評価であった。これは学生も満足のいく結果だったととらえており、今後も次年度の卒業研究制作でも同等の評価を得る必要があるように創意工夫していきたい。しかし、専門演習Ⅲbと同様に学生が6名と今年度は人数が少なかったため、学生個人に十分な学生指導が出来たことがその要因であるとも捉えることが出来る。次年度は学生が8名と今年度より人数が増加するため制作に関しても細部に拘って指導していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	卒業研究は8名がこれまでの担当教員の専門による内容であり、主に野球や運動、運動不足などに関心がある学生達であったため教員自身の専門性のある動物実験を用いた解析による研究を卒業研究とした。その際、前者は学生が理解しやすい内容である一方で研究倫理書の作成に注視させた。動物実験に関する卒業研究を担当した学生はまず実験などに関する理解・知識が圧倒的に不足していたため夏季休業中に個別指導を実施した。以上のように学生達には公平性を保つようにばらつきがないように指導を実施した。結果として卒業研究発表会では全員が満足 of 発表を行ってくれたと捉えている。卒業研究を執筆する際にも規定を満たすように設定したことは学生自身が目標を持って取り組む姿勢になると考えており、学習意欲の向上につながったと考えている。反省点としては、短い期間での卒業研究の制作になってしまったため、実施することが限られていたことである。この点は次年度から解消できるため対応できると捉えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては6名がよい、2名が4という評価であったため授業内容といえる卒業研究に関心を持って取り組んでくれたものだと考えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、同様に6名がよいという最高の評価であり、実際整合性のある卒業研究制作に取り組めていくことが出来たと考えている。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、6名がよい、2名が4という評価であった。次年度は履修生全員が5となるように反省点として改善していきたい。次年度では学生も810名と増加するため、学生一人に対する指導の時間を増やすことができるため内容の適時修正しながら対応していく予定である。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が6名と平均が4.8、熱意の感じられる授業でしたかとの問いもほぼ同様であり、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは質問6と同様の数値であった。これらの問いは概ね平均が4.8の満点であり学生は方法に関して最高評価を行っていた。とくに、配布プリントは最近の研究論文を提示することで学生主体の考察力などを育くんだ結果、良い回答に繋がったのではないかと考えている。板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかの問いは、6名が最高の5にしており、実際パワーポイントを多用することで理解促進につながった点と学生たちの現状把握につなげていった。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が4.8と昨年よりとても良い評価となった。これは学生たちの意欲も関係していたと考えられている。学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの問いには、熱意と同様の回答結果であった。これらの回答結果を統合すると、学生の回答はすべてが4.8以上であり、授業

項目見出し	コメント
	展開を継続すれば学生にも満足いく評価になってくれると考えている。次年度は学生も10名と人数が増加する一方で、今回のアンケート結果の数値が向上維持できるよう柔軟に対応したいと考えている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	卒業研究に関しては、学生からのアンケートを見る限りは8名全員が満足いく結果であったということで専門演習Ⅲbと同様な回答結果と捉えている。また、専門演習Ⅲbでは授業の方法に関しては改善する必要があると考えていたが卒業研究はとくに改善する必要はなさそうで、授業展開を創意工夫すれば、おのずと卒業研究で満足いく結果になるのではないかと考えている。専門演習同様、授業の内容に関しては概ね「良し」のアンケート回答が多いという結果と捉えている。本年度から担当した専門演習の学生たちは担当期間が1年と期間が短い学生は前年度と比べて少なく、次年度の学生は専門演習Ⅰから履修しているため、より深い専門的な卒業研究の制作が可能と考えている。学生の自由記述はとくに記載がなかったため、その点を改善できるよう積極的に記載を促すようにしたい。

アクションプランシート

2024年度後期 水1

科目名 運動生理学

教員名 江島 弘晃

回答者数／履修者数 104／125

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	運動生理学では講義形式のため、125名の受講者数に対して104名の回答（83.2%）があり、全受講者のアンケート回答を反映しているものととらえている。設問の授業に対する理解度・満足度は、53名が満足の「5」であり、37名が4と平均が4.4という結果であった。設問12の授業内容を理解出来たかに関しては、設問13とほぼ同様の結果となったことから平均が4.5以上となるアンケート結果は受講した学生が満足のいくものとなったと捉えている。実際、自由記述に関しては大半の学生が、理解しやすかった、スライドが分かりやすいと記載しており、学生も納得のいく授業展開が出来たのではないと考えている。専門演習と異なり、学生一人一人との面談を重ねて個人の状況を把握するということは出来ないが、学生が履修しやすいような学習環境を整える必要があると感じている。円グラフ上では、理解度・満足度は5の評価は半分以上、4の評価は4分の1以上と全体制で見ても満足のいく結果だったため、評価結果には満足している。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	まず、学生の理解の浸透度を高めるために各授業毎にノートでスライドの部分を記載するよう設定した。これはスライドの内容と同様のもので学生にはスライドを見ながら、自身のノートで記述確認する形式をとった。これは授業の教室が広く、学生はスライドを確認できない恐れがあったこと、聞き逃しがあるかもしれないがそのような意見はなく概ね良い結果になった考える。結果的には学生から好評だったようで自由記述に記載があったため、学生の学習意欲の向上につながった方法であると考えている。実際、プリントがないとの意見もあったが、授業後に学生がしっかり理解できているかどうか課題を設けるなど確認することが出来たため学生の受講態度も評価することが出来ると考えている。テストの際にノートの持ち込みも設定し、良い評価になった。また教科書の使用を今後頻繁にするなど教員自身の改善すべきものとして次年度に生かしたい。また、運動生理学の講義を行う際、身体のごきなどはイメージがしにくいいためスライドの中で図示を多用することで学生の理解、学習意欲の向上を促した。これが学生の分かりやすかったという評価の回答になったと思うので次年度も活用していきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては69名がよい、48名が4と平均が4.4以上の良いという評価だった。専門演習と異なり、履修学生もある程度多人数の中での数値は授業内容に問題はないと考えられる。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、68名がよいの5、48名が4とこちらも平均が4.4以上という同様の回答結果であった。実際、授業展開としてはシラバス通りに展開した結果が評価につながったと考える。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、上述の問いとほぼ同様の65名がよい、24名が4と平均が4.5以上の結果となった。(3)に関しては3つの設問ではすべて4.3以上の数値という結果となり、授業の内容自体は学生たちは関心があると感じた。反省点は、出席状況が良くない学生はいないなかで、課題のみ集中している学生が数名いた気配があったことから、次年度では授業の講義途中や出席を厳格にすることで授業の内容を把握できているのか試すなどを行うことで、授業の内容を発展させていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11	話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が68名、平均が4.5、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは平均が4.5と同様の数値であった。したがって平均が4以上と学生は方法に関してとても良い回答を行っていた。板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかの問い71名が最高の5にしており、スライドの出来の効果が大きかったのではないかと推察している。遅刻や私語が授業の妨げ

項目見出し	コメント
スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	にならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が4.6という評価を得たがこれは学生が基本的に私語厳禁にした配慮が大きかったと考えている。これは履修した学生全体の意欲にもつながるため、継続していきたい。学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの問いには、平均が4.5と他の設問とほぼ同様または若干減少した結果となった。まとめとして、学生の回答はすべてが4または4.4以上であり方法に関しては多数の学生が履修した講義の中で良い評価の回答結果だったと考えている。次年度はこのアンケート結果と同等の数値またはそれ以上となるように継続性を保つことで学生の意欲を向上させていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートの結果を見る限りでは学生は満足のいく講義を履修してくれたと考えている。昨年度は実行しなかった定期試験を慣行し、それに向けての勉強やノートをまとめるなど学生は授業外の時間に復習の時間を設けてくれたと考えている。このことから次年度も定期試験を実施し、自主学習ができるよう工夫したい。アンケートでの評価を詳細に検討すると授業の内容は4.4、授業の方法は4.5前後、理解度、満足度は4.4と学生の満足度が明確になったのではないかと考えており、この評価を継続できるようつとめていきたい。一方で、態度に関しては平均が3.6と非常に数値が少なく、自己評価は平均が4と他の項目よりも数値が低く、より多くの学生が予習・復習を行えるように復習を行ったか確認するなどの対策を講じたい。毎授業開始時に復習の時間を設けているがその際に学生がきちんと履修できているのか実施する予定である。

アクションプランシート

2024年度後期 金2

科目名 専門演習ⅠB

教員名 江島 弘晃

回答者数／履修者数 9／9

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	専門演習Ⅰbでは、主に二年生9名を対象に専門演習を展開した。二年生ということで専門的な学習を導入した。教員が専門とする運動生理学に関する研究を紹介しながら、各自興味のある研究や論文を輪読する作業を実施した。学生9名に対して、授業に対する理解度・満足度は8名が「できた」に値する5と評価し、1名が4のアンケート評価を回答した。平均は4.9と他の専門演習と比較すると、数値は高く、学生が授業構成に何らかの理解感を得られていると思われる。他にはこの授業に対して満足出来たかの問いには9名が満足の5と評価し、平均が5.0と高い数値だった。つまり学生の理解度は高くそれなりの満足感を得ていることとなる。本授業の履修した学生8名は全員が十分な単位を取得しており、次年度では卒業研究の作成の準備段階になるため、専門演習Ⅱと同様に教員自身の専門性のある授業を展開していくことが必須と捉えている。円グラフ上でも理解度・満足度は5の評価は半分以上、4の評価は30.0%以上と全体的に見ても学生は満足していると考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	専門演習Ⅰbでは学生がどのような研究に興味があるのかサイトなどを活用して自分自身で調査させた。この際に学生の取り組みの姿勢などを伺ったが、熱心に取り組む学生と熱心に欠ける学生と分かれる印象もあった。しかし、課題を授業後に実施させるなど課題をやり遂げるということを終始徹底させたことは次年度での専門演習で活用できると考えている。学生の受講態度は私語などはせず、よく質問してくれる学生が多い印象を持った。また、学生の理解の浸透度を高めるために授業に教員作成のスライドでのプレゼンテーションを視聴させることで理解促進につなげた。結果としては理解度にばらつきはなく、満足度は高かったため、学生自身は満足していると捉えている。また、学生に体力測定を実施させることで自身の運動能力を把握させる実践的な取り組みを行うことで学生には良い勉強になったなどの意見をもらい学習意欲の向上につながったのではないかと考えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	専門演習Ⅰbでは他の専門演習と同程度の人数のゼミ生ということもあり、他の専門演習との比較も検討した。授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては7名がよい(5)、2名が4、と平均が4.8以上の良いという評価であり、他の専門演習とほぼ同様の値から概ね良いの評価であったと考えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、8名がよい(5)、1名が4と平均が4.9以上という上述の設問と近似した回答結果であった。授業展開としてはシラバス通りに運動処方の理解や運動する意義などを理解させるような授業展開が評価につながったと考える。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、8名がよい(5)、1名が4と平均が4.9以上の授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いと同様であった。これらを踏まえると、専門演習Ⅱbの授業の内容自体は学生たちは関心があると感じた。反省点としては、課題が少なく学生によく復習予習などの時間を設けさせるなどを行わせることを次年度の課題としたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	各設問に対する回答結果を考察していく。話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が8名、4が1名と平均が4.9、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問い、板書や機器(OHP、パワーポイントなど)の使用は適切でしたかの問いは5が8名、4が1名と平均が4.9とこれ以外の上記2は3つは同様の数値であった。それ以外は平均が4.8以上と学生は方法に関して良い回答を行っていた。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応してしましたかの問いに関しては、平均が4.8と若干他の問いより数値が低下したが、これは学生に基本的に私語を厳禁

項目見出し	コメント
	にした配慮と遅刻だけはしないように終始徹底させたことが大きかったと考えている。学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかの問いには、平均が4.5と他の設問とほぼ同様の結果となった。まとめとして、学生の回答はすべてが4.8以上であり方法に関しては学生は概ね良いという評価の回答結果だったと考えている。次年度は9名の学生が新規にゼミ配属となることから、このアンケート結果と同等の数値またはそれ以上となるように学生の意欲を向上させていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートの回答結果では、学生は他の専門演習と同様に内容の理解や満足のいく演習を履修してくれたと捉えている。その一方で、設問1または2の学生自身の復習・予習、態度はよい数値の評価を下しておらず、平均は4.4という値であった。このことは、学生自身の根本的な学習意欲を変える必要があると捉えている。予習や復習を徹底させることは他の授業にも活用できる行為であることを学生自身に理解させ、次年度から実施を試みたい。各設問の評点が5を記入した学生の比率は、授業の内容は40%、授業の方法は40%、理解度・満足度については60%と回答しており、総じて5と評価した学生の平均比率は50%を超えているのは他の担当授業と比較しても教員自身は満足のいく結果ではなかったと考えている。一方で、学生による自由記述はなかったため、次年度よりより積極的に記載の促しを強化したいと考えている。

アクションプランシート

2024年度後期 金3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 江島 弘晃

回答者数／履修者数 10／10

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	専門演習Ⅱbでは、主に三年生を対象に卒業研究の制作に向けた準備段階として専門的な演習を展開した。学生10名に対して、授業に対する理解度・満足度は7名が「できた」に値する5と評価し、2名が4と4.6のアンケート評価を回答していた。これは授業の理解に関しても同様であった。したがって評価は平均が4.6となる結果であり、専門演習Ⅲと同様に4.5以上の概ね学生からは満足 of いく回答結果だと考えている。今後、評価をさらに向上させるためには学生の要望を聞きながらも教員自身の専門性のある授業を展開していくことで数値も向上し、評価も最高に達すると考えている。評価が高まれば良いわけではないが、学生一人一人との面談を重ねて個人の状況を把握する必要があると考えており、双方納得のいく専門演習を通して卒業研究の制作につなげていくのが良いととらえている。円グラフ上でも理解度・満足度は5の評価は半分以上、4の評価は10%以上と全体制で見ても満足 of いく結果だったのかもしれない。他の授業と比較しても専門演習では比較的 student から満足 of いく回答が得られているととらえている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度をよくするために個別での授業展開を導入した。グループを作成し、そのグループで課題を行う形式を実施した。その課題は卒業研究につながる課題とし、達成することは自身のためであると理解させることで学習意欲の向上を図った。今年度の専門演習Ⅱでは比較的学習意欲の高い学生で構成されているが、全体的に学習意欲を向上するためのグループ編成を行った。結果として、全員が卒業研究のテーマを設定することが出来た。今後は、グループを設けるものの、1対1で進捗状況を話し合い、集団での進捗状況を発表しあうことで自主性のある卒業研究を実施していけるように指導していきたい。次年度での授業内容の課題としている。また、学生自身が卒業研究に向けて大まかなテーマを決めることが出来たのは学生の学習意欲の向上につながるものであり、次年度での専門演習と卒業研究に今後生かしていけると捉えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては6名がよい、4名が4と平均以上の良いという評価であったため授業内容に関しては理解などの下回ることはなかった回答結果であったことから専門演習に関心をもって取り組んでくれたものだ と捉えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、同様の回答結果であった。実際、授業展開としても整合性のある専門演習に取り組めていくことが出来、平均を上回ることが出来た。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、上述の問いとほぼ同様の7名がよい、2名が4と平均が4.6と高い値という結果となった。このことから、授業の内容自体は学生たちは関心があるように見受けられる。反省点としては、欠席が目立つ学生が一定多数いたことから、次年度で毎回出席させるように改善していきたい。これは前年度の課題と同様であった。次年度では履修する予定の学生も10名と増加するため、内容の適時修正しながら対応していく予定であり、この点は卒業研究でも記載した。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が6名、4が2名と平均が4.4、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは4.4の数値であった。したがって平均は4.4であり、昨年度より弱化的低下が見られた。とくに配布プリントは各学生が関心のある論文を提示し、読ませることで、学生主体の考察力と論文を執筆する上での技法を学ばせる意図であると認識させる方法がアンケートの回答結果に繋がったと捉えている。板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかとの問いは、5名が最高の5にしておき、専門演習Ⅲおよび卒業研究

項目見出し	コメント
	に比べてばらつきが多少見られた。これはパワーポイントを多用することで理解促進につなげる方法をとったが、パワーポイントではない別の方法を模索する必要があると考える。具体的には板書を用いるなどの代替を用いることで方法の手法を変更すれば学生の理解も高まると考えている。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が4.3という評価を得たがこれは最高に近い点数だったため今後も維持していきたい。学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの問いには、熱意とほぼ同様だが、平均が4.6と他の設問と比べて最高に達した結果となった。回答結果を統合すると、学生の回答はすべてが4.8以上であり方法に関しては他の授業アンケートと同様に満足のいく結果になったと捉えている。次年度は学生が10名と成績も良い学生が集まり集団が異なるため、学生一人一人に対して積極的に指導する方法を行うことで学生の意欲を向上させていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	設問のあなたの授業を受けた態度については、問1は平均が4.3と概ね良い評価だったと考えている。また、授業中のあなたの態度（積極性、私語、遅刻、途中退出、居眠りなど）を自己評価してくださいの問いには、平均が4.3と他の授業回答と比べると概ね良い点数であった。授業内容や方法、理解度、満足度の回答と比べて平均が下回った点は改善するよう課題を常に設定する、態度を改めさせるよう終始徹底指導することに努めていきたいと考えている。今後は、専門演習Ⅲbを履修する予定の学生は卒業研究の制作に携わってくるためより専門のある知識習得に向けた授業展開を実施していく予定である。

アクションプランシート

2024年度後期 火4

科目名 生徒指導論

教員名 川上 知子

回答者数／履修者数 27／29

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	学生の満足度は概ね良い傾向にはあった。引き続き、実態に応じて本授業の目標・狙いが達成できるよう、教材の工夫など行っていきたいと考えている。教職の学生は、教師を目指す、目指さない、迷っている、などある意味実態が多様である。本授業の特性を生かしつつ、教職の学びだけに特化せず、人生を通じて重要なポイントとなる点も押さえながら、充実した授業展開を目指していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	そのポジティブな要因としては、学生一人一人にファイルを配布し、毎回の授業のワークシートを保管、毎回ワークシートを確認し、学生の気づきやコメントを次時にフィードバックする。これらの一連の流れを毎回行ったことで満足度の安定を図ることができたのではないかと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業内容について、学生の関心に沿い、当然ながらカリキュラムの狙いも達成することができたように考える。しかしながら本授業の本質理解は、教育実習を経ることで見えてくる部分が大きい。今回の教育実習事後指導においても、生徒指導の本質理解は、危うさが感じられた。その背景に自身が受けてきた生徒指導つまり自身が経験によって理解している生徒指導があまりにインパクトが強いことによると考えている。この点の課題を改めて受け止め、今後の授業展開でさらなる工夫を検討したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	予習・復習に関する項目において課題が感じられる。授業の学びが今後の教育実習、そして教職に就いてからまで息づいていく知識、学びになっていくために、今一度、予習や復習の在り方については、私自身の課題として検討を重ねていきたいと考えている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	同じ教職を目指す学生でも、毎年学生の実態は異なっている。大まかに、教員を強く希望している学生、迷っている学生、教員にはならないと決断している学生、の主に3群に分かれるが、どの学生においても充実した学びとなるよう、授業展開を検討していきたい。教職の学びは人を理解し人の育ちに大きく関わる領域で、特に本授業は、密接に関連する内容といえる。私自身も学びを深めながら精進していきたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度後期 水1

科目名 進路指導論

教員名 川上 知子

回答者数／履修者数 26／28

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	学生の満足度は概ね良い傾向にはあった。引き続き、実態に応じて本授業の目標・狙いが達成できるよう、教材の工夫など行っていきたいと考えている。教職の学生は、教師を目指す、目指さない、迷っている、などある意味実態が多様である。本授業の特性を生かしつつ、教職の学びだけに特化せず、人生を通じて重要なポイントとなる点も押さえながら、充実した授業展開を目指していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	そのポジティブな要因としては、学生一人一人にファイルを配布し、毎回の授業のワークシートを保管、毎回ワークシートを確認し、学生の気づきやコメントを次時にフィードバックする。これらの一連の流れを毎回行ったことで満足度の安定を図ることができたのではないかと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業内容について、学生の関心に沿い、当然ながらカリキュラムの狙いも達成することができたように考える。しかしながら本授業の本質理解は、教育実習を経ることで見えてくる部分が大きい。進路指導において学生自身が経験によって理解している進路指導のインパクトが強いこともあり、この点の課題を改めて受け止め、今後の授業展開でさらなる工夫を検討したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	予習・復習に関する項目において課題が感じられる。授業の学びが今後の教育実習、そして教職に就いてからまで息づいていく知識、学びになっていくために、今一度、予習や復習の在り方については、私自身の課題として検討を重ねていきたいと考えている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	同じ教職を目指す学生でも、毎年学生の実態は異なっている。大まかに、教員を強く希望している学生、迷っている学生、教員にはならないと決断している学生、の主に3群に分かれるが、どの学生においても充実した学びとなるよう、授業展開を検討していきたい。教職の学びは人を理解し人の育ちに大きく関わる領域で、特に本授業は、密接に関連する内容といえる。私自身も学びを深めながら精進していきたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度後期 月1

科目名 英語ⅡA

教員名 John Patrick Owatari-Dorgan

回答者数／履修者数 23／35

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	For Q13, students gave me a score of 4.8. While this score is good and shows that students were very satisfied with the class. Students expressed a satisfaction with the reading and writing experiences in the class. I believe that they were able to easily understand the homework in the class. I think I need to improve how well I focus on making sure that the class is more engaging for the students.
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	In order to improve student satisfaction, I will work to better explain the independent study elements of the class and make sure that all of the students understand how to complete the work and use the tools needed for the class. I will also try to give students more opportunities to communicate during the class to improve satisfaction.
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	For Q3-5, students gave me pretty good scores. I believe that students were satisfied with the content of the class and were able to complete the work without too much difficulty. Students seemed to be especially satisfied with the opportunity to use reading to improve their English skills. To improve this part of the class, I will work to spend more time explaining the required tasks for the class and try to communicate more clearly with the students.
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	For Q6-11, the students gave me good scores. I believe that the students were satisfied with the materials and style of the class. Of course, I will continue to work to improve student satisfaction with the element of the class. I will try to provide students with better explanations of the tools and tasks used in the class. I will also try to give students more complete explanations using Japanese to help them understand the materials.
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	Overall, I am satisfied with the results of this survey. I feel that it provided me with significant insight into the needs of the students. I look forward to making changes to the class next year based on the information in the survey. I will also work to improve the changes made to the class to increase overall student satisfaction.

アクションプランシート

2024年度後期 金5

科目名

English Reading Skills II

教員名

John Patrick Owatari-Dorgan

回答者数／履修者数 17／21

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	For Q13, students gave me a 4.4 which is a good score but unusually low for this class. As such, I believe that students were satisfied with the class but it could use some improvements. Specifically, I think I can make the class more interesting by introducing more interactive activities to the class. I think the students enjoyed the class in general.
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	To improve student satisfaction with this class, I will try to make the activities more engaging and use more active learning techniques. Since students didn't provide any specific comments about problems with the class, I will attempt to determine ways to improve on my own. Specifically, I think that students might want a wider variety of activities to do during the class. I will also do my best to give the students more useful feedback to increase their satisfaction. Finally, I will try to reduce the amount of work that students must do outside of class. In recent years, I have reduced the amount of outside homework. I will also find ways to incorporate reading into the students' everyday lives.
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	For Q3-5, the students gave me very good scores but I think they can be improved in various ways. These scores were slightly lower than the scores from previous years. Overall, I believe that most students were satisfied with the content of the course. Of course, I will work to improve student opinions of the content. Since this class is a high-level English communication class (Global Tourism), it is natural that the material was difficult for students. Many students seemed to enjoy the content of the class but I think that making the content of the course more engaging and having more variety will make student happier.
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	In Q6-11, student gave me scores that show they were very satisfied with the materials and teaching style. These scores are lower than the scores from last year. Based on this, I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, materials and teaching methodology in class but there is room for improvement. As a result, I will try some new and interesting materials for next year. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with my materials or methods. Moreover, I will try to give the students even more opportunities to express their opinions in class.
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	I found the results of this survey very helpful and I now have a clear understanding of what I should do to improve this class and student satisfaction with this class. I am pleased to see that the changes I have made to the class have made the students happy. In my mind, the student survey process is vital and I am very pleased with the results of this survey. I am very pleased with the number of comments that students made on the survey. I also hope that I can continue to improve my classes to make them better for students.

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 スポーツ実習B

教員名 末永 貴久

回答者数／履修者数 35／40

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	平均4.9であり、学生の満足度が高かったことは良好な結果だと捉える。実施する種目の準備や教材研究に時間を割いたため、授業では専門以外の種目ばかりだが、ある程度自信を持って取り組むことができた。今後もこの結果を維持できるよう、学生のニーズを捉えながら意欲を高く持たせることを心がけた授業を続けたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	実技科目であるので、元気が出るような言葉かけや雰囲気を感じさせた。授業では用具の準備や、準備運動などから学生に担当させるが、まずアイスブレイク的に楽しく実施させることから始める。授業の本論では理論を明確に伝え、直ちに実践に移すことで、学生自身が変化を直ちに感じ、「できた」「上手くなった」という達成感・満足感を得ることが、さらなる意欲の向上につながると考える。 また、細かい技術よりも、基本的な動作ができるようになり、楽しむことができることに主眼を置いているため、ポイントとなる言葉を繰り返し使用し、意識して取り組ませることが、意欲の向上にもつながっていると考えている。 さらに定期的に実施した内容や、その種目に関する課題を提出させるが、その様式の中にも授業で伝えたポイントを記載し、考えさせることが復習にもなり、継続、変化、達成感へとつながったのではないかと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスに照らし合わせているが、実施する種目や内容は、天気や気温、参加人数などで調整して行った。なるべく状況に左右されない内容を考えていくことも必要である。また、スポーツ系学生と一般の学生との体力差や、今年度は留学生が多数在籍していたため、日本人学生との経験の差が大きく、バランスを重要視したが、できるだけ多くの学生が主体的に参加できる環境作りが必要だと感じた。 後期の開講であり、暑さよりも寒さへの対応が必要であったが、ウォーミングアップや、授業の前半部で体を温めていき、後半しっかり動くような展開を心がけていたので、大きなケガやトラブルはなかった。しかし逆に学生が水分を準備しておらず、途中で買いに行かせることもあった。これからの温暖化を考え、あらゆるリスクを考えた対応をとりたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業の方法についても全て4.8であった。十分に準備し、自信を持って指導することが熱意にもつながるため、種目の研究には時間をかけている。学生への接し方や質問対応は特に意識をしていなかったため、自分の言動を振り返り、質問や声をかけやすい環境を作っていきたい。時間配分については、基本的な動作を実施している時には計画的に進むが、点数制のゲーム時には展開や勝敗によって予測と異なることが多いので、時間制にするなどの工夫を行った。 着替えや体育館からの移動の時間もあるので、より注意しながら取り組みたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全ての評価が4.8であり、全体的には学生のニーズにあったものになっていると考える。これからの励みにしたい。しかし、授業をしている主観としては、学生の積極性はまだ高いとは言えず、学生がより主体的に楽しくスポーツに参加させることは大きな課題である。教員としては授業全般で十分に準備し、実施し、定着させているつもりであるが、学生が受け身になっていると感じることが多い。実技でもあり

項目見出し	コメント
	、より積極性を高めていく手段として、何らかの発表の場の設定や、大会の企画など、スポーツの運営面の内容を含めることも検討していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火5

科目名 テーマパーク論

教員名 張 美慶

回答者数／履修者数 101／144

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本授業を受けた学生たちの満足度は5点満点で平均4.5点を取得した。 授業の満足度が高かった背景には教室での理論と業務現場でのアルバイトを並行して行う点であると考えます。後、現場の担当者が直接授業に参加し、学生とのコミュニケーションを通して 学生たちのアルバイト先、ひいては就職先を同時に解決することができた。 今後も学生たちと現場担当者の意見を聴取して、授業満足度を維持する。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本授業と学内のコンテストを結び、学生たちの積極的な参加を促し授業に活かした。その結果、コンテストで学生が奨励賞を受賞した。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	本授業に対する質問内容、取得点数は以下の通りである。 「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」 4.2点 「シラバスと授業内容に整合性がありましたか」 4.3点 「授業内容は興味あるものでしたか」 4.4点 今後も、授業の満足度を高めるためにアクティブ・ラーニングの学習方法を実行する。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6-11に対する授業評価点数が全て同じ4.4点を取得した。しかし「熱意の感じられる授業でしたか」という項目にもっと重点を置いて授業を引っ張っていかねばならないと思った。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業は観光科目でも実務が重要な授業である。基本ベースの観光理論を重視しながら、学生たちの理解力を高めたい。

アクションプランシート

2024年度後期 金3

科目名 地域振興論

教員名 張 美慶

回答者数／履修者数 72／106

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本授業を受けた学生たちの満足度は5点満点で平均3.9点を獲得した。今後、さらに学生たちの授業に対する理解力、満足度を高めるためには、学生が、いかにわかりやすい授業内容にするかが、大事だと思います。授業資料などにもっと工夫をします。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本授業の趣旨は、地域振興のために授業を受け、学生自ら地域振興のための観光企画商品を作ることである。企画商品を作るために必要な理論、事例をもとに地域の観光コンテンツの開発、チームワーク、地域の課題、地域のブランディング、発表態度など多様な活動を通じて学生のモチベーション向上につながる事が出来だと思ひます。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」という項目で5点満点で一番低い3.8点を獲得した。毎回授業内容をもっと整理して構成力を高め、学生たちの授業理解度を高めるために努力をします。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	全般的な平均点数は高いが、以下の授業評価項目に対しては改善の必要性を感じる。 「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたか」どうしても受講生が多くて、生徒一人一人の授業態度について詳しく対応ができなかった。 今後は、授業中にクイズを出し学生たちが授業に集中するようにする。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業は地域振興のために観光産業が必要な政策の在り方について重点を置いた。できるだけ多くの地域観光関連機関、事業者を招待して学生たちに現場の声を聞かせて授業の理解度を高めた。ただ、残念な点は多様な観光産業で学生たちがそれぞれ希望する分野が異なり、どの分野にフォーカスを合わせて授業を進めるべきか難しかった。次は学生たちに事前に進路に役立つ分野について意見を聞いて進行するようにしたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 日本語コミュニケーションB

教員名 東出 朋

回答者数／履修者数 16／18

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	概ね高評価を得ている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	グループワークをたくさん取り入れた点 毎授業、学生一人一人への声かけを心がけた点
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	概ね高評価を得ている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	概ね高評価を得ている。 学生の授業参加を促すように、アンケートやゲームなどを取り入れる工夫をする。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	他者の授業の工夫を学ぶ。

アクションプランシート

2024年度後期 金4

科目名 民俗学

教員名 小泉 優莉菜

回答者数／履修者数 81／140

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業の評価としては、概ねほとんどの学生が満足し受講いただいたことがわかった。 授業難易度については、学生の興味関心に合わせる形で進めたため、過不足のない授業運営ができたと考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	民俗学と言う言葉だけで見ってしまうと、難しそうに感じるが、日常の習慣や各地域の祭礼など、身近な事例を多く出すことで、理解の深化につながった。 また、日本人学生にとっては身近な事例を挙げることで、より日本文化についての再考をする機会を創出したほか、外国人留学生にとっては、日本の文化についての興味関心を広げる機会とした。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	予習・復習を行った学生の割合がとても少ないことが目立った。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	予習・復習については、明確に指示を出すことで、「何を」「どのように」「いつまでに」調べ、自身で思考を広げれば良いのかということについて進めていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体の所感としては、満足度の高い授業運営ができたと考えている。しかし、シラバスとの互換関係についてマイナス評価の学生も一人いた。なぜそのような評価となったのかということについて、今一度、自身の中でも再考し授業運営に役立てていきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 火5

科目名 専門演習Ⅲ B

教員名 長津 恒輝

回答者数／履修者数 8／9

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本結果以上の評価は望めないが、専門演習なのでゼミ生1人1人に対しパーソナルな指導をすることが満足度の向上策になると考える。主に卒論執筆のための実験計画や測定、分析、文章の添削が内容であったが、各学生の進捗状況により向き合う時間に差が生じたため、ある程度は仕方がないが全員に対し、手厚く指導できるようにする。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	卒業論文執筆が主な内容であった。専門演習Ⅲ Bの位置づけとしてそうせざるをえないが、各学生がこれまでの専門的な学びを活かしつつ、測定や分析といったこれまで体験していない新たな境地を進んだことにより、高い興味関心を持って取り組んだことが学習意欲の向上につながったと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	評価は良いものであったが、授業の展開は改善の余地があると感じている。卒論執筆に関しても進捗が遅くなってしまい大半の学生が締切に追われるスケジュールとなった。専門性の高さを維持することで興味関心を引き立てつつ、スピード感を出すことで展開としてもまとまりを作っていく必要がある。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q9のみ評価4がみられた。必要に応じてパワーポイントや板書を行ったつもりであったが、思い返せばもっと詳細に示すべき場面もあった。学生の理解度向上には視覚的なインプットは影響が大きいいため、こちらが考えている以上に板書等を増やしていきたい。また、その内容も重要であるため、各課題に適したものを提示できるように努める。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートの評価は低くなかったことについては安心材料にはなった。担当者が今年度着任であったため、受講学生は新しい環境で卒業論文を執筆することになった。そのため、彼らの不安は大きかったはずであるが、ある程度考慮しつつも担当者の進め方で授業を展開した。よって、アンケートの評価は部分的に気になるところであったが、少なからずアンケート結果にはネガティブなことは表出されなかった。ただし、改善点はあるため今後も邁進していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 金3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 長津 恒輝

回答者数／履修者数 7／9

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は高い評価を得ることができた。専門演習ということで担当者の専門性を生かした内容を行うことで、一般の授業とは異なる面白さを発揮できたと考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	主に科学論文の抄読会や運動生理学的な実験を行った。ディスカッションや測定、分析など主体的に動かなければ始まらない内容が多く、その際には学生の学習意欲は顕著に高まっていたように思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスとの整合性は図りつつも、専門演習であることを活かし自由度高く展開した。その場、その時にあった内容を実施することで学生の興味関心に即した授業となったはずである。また、初回や途中でその都度、スケジュールを確認することでまとまりある展開ができるように気をつけた。ただし、半期を通して編成が整っていたかという点と疑問が残るため、臨機応変に対応しながらもはじめから先を見通した授業を実施する。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	少人数かつ自由度がある専門演習だからこそ私語やよろしくない授業態度への注意がおざなりになっていた部分がある。1人1人と向き合っていくことができる授業だからこそ、ルールや規則を徹底していきたい。また、学生との距離感がいい意味で近いがために、互いに言葉遣い等がよくない方向へ進んでいたこともあった。時代的なことも含め、配慮する必要がある。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケート結果には満足している。専門演習なので担当者の研究分野に即した内容を展開したが、それが学生の興味をくすぐった面もあれば、拘りが強く出てしまったばかりに学生が遠ざけてしまう反動も多少あったように感じている。少人数だからこそ、学生の態度や表情から様々なことを読み取って、濃密な時間になるように展開していくことを心掛けたい。

アクションプランシート

2024年度後期 金4

科目名 保健体育科教育法Ⅰ

教員名 長津 恒輝

回答者数／履修者数 18／32

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は非常に高い評価を得ることができた。本授業は保健体育の教員免許取得に必修であり、その根幹のような役割を孕んでいる。保健体育科教育法はこの後Ⅱ～Ⅳと続いていくため、この授業で躓くことの影響を大きい。そのため丁寧かつ学生の興味関心を引き立てられるように努めた。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度は更にいいものにできると感じている。保健体育の免許取得を目指す他学年の学生と比較するといまいち学生の意欲を向上させられなかった。前のめりになっていた授業は模擬授業など主体的な学びの回であった。もちろんすべての授業を模擬授業にするわけにはいかないが、主体的な活動はどの授業回にも組み込むことが可能である。次年度はそのように修正していきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3～Q5の数値は低くないが、担当者としては改善が必要だと考えている。授業の組み立て方としては、序盤に「体育とは」「学習指導要領とは」「体育の授業で気をつけるべきこと」など知識として学習してもらい、後半に模擬授業やその振り返りを行うといった流れであった。序盤のところで、学生の主体的な学びを損なってしまっていた。そこでも、毎回のように学生からの意見の抽出や、グループディスカッションを行っていたが、学生の態度や反応は予想していたものとは遠かった。改善できるように、(内容は同様でも)問いかけ方の変更や、席順、グループの組み方に工夫を加えたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	アンケートで気になったのはQ9の「教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたか」の項目において評価を4とした学生が多いことである。本授業では、教科書を必須としておらず、学習指導要領を各自準備するように指示していたのみであった。グループワークや模擬授業の準備段階では、必要に応じてプリントや資料を配布したものの、通常授業時には原則配布物はなかった。基本的にスライドを用いて授業を展開しているが、学生はメモを取る程度であり、知識の習得に対しても効果があるか懐疑的である。ペーパーレスの時代なので、配布するかどうかは難しいところであるが、スライドを提示するにしても学生の学びを促進できるように改善する。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的に評価は低くなかったためマイナーチェンジしながら少しずつ改善していきたい。しかし、今回はアンケートへの回答率が芳しくなく、非回答者の評価は低かったことも考えられる。また、アンケート時には成績を学生は知らないが、授業内容と成績等の評価が一致しきれていないことが改善点としてあるため、その辺りの改善も図っていく必要がある。

アクションプランシート

2024年度後期 月5

科目名 スポーツ実習B

教員名 長津 恒輝

回答者数／履修者数 42／45

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	平均でみるとわるくないが、評価3の学生もあり、もっと満足度が高い授業ができたと考えている。スポーツは誰もが、いつでも、誰とでも楽しめることが特色であり、全員が評価5となることを目指していい授業でもある。1人1人の様子をみながら、何に対して不安を覚えているのか、やりにくさを感じているのかをその場で読み取り、すぐに対応できるようにしたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	スポーツ実施時に学習意欲が高まっていないと怪我につながるため、本授業では非常に重要な要素である。体格や運動能力に個人差が大きい集団であったため、レベル別や男女別などに配慮して競技を実施した回は学習意欲が高まり、授業態度も良かった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	評価2がついている項目が2つある。1つ目は「実技の内容は興味あるものでしたか」の項目であった。本授業では、何のスポーツをしたいか数回アンケートをとりながら決めていた。基本的には多数決に従いながら選択していたため、少数派の意見を取り入れることができなかった。授業中や前後にコミュニケーションを取り、内容にも可能な限り反映させたい。2つ目は、「これから先もスポーツ・運動を継続したいと思いますか」の項目である。大学のスポーツ授業における意義として、大学生、社会人と身体を動かす機会が減少していく傾向がある中で、運動習慣を身につける礎を作るといえることがある。運動をする面白さや心地よさを感じてもらおうと同時に、健康への効果なども伝えていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q8の「学生の質問に適切に対応していましたか」について評価を3としている学生がいる。もらった質問には答えていたが、そもそも質問を受ける機会が少なかった。もっと学生の声に耳を傾けられるように質問を受ける場や時間を設けたい。また、時間配分について、スポーツの授業は着替えや準備片付けなどに時間を要するため余裕を持って管理する必要がある。数回時間ぎりぎりに終了した回があったため、念頭において取り組みたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	スポーツ実習は全学の授業であり、受講学生のプロフィールは多種多様である。学年や性別、所属学科は様々であり、スポーツ関連の特待生もいれば運動習慣がない学生、留学生もいる。彼らが共にプレーをする意義は大きいので、それらを互いに理解しつつ取り組む場面を多く取り入れたい。ただし、安全性等を考慮した場合、そうでない場面もあるため、競技によってはそれらを考慮したグルーピングをしたうえで実施することで満足度も向上すると考えている。

アクションプランシート

2024年度後期 月その他

科目名 スノースポーツ

教員名 長津 恒輝

回答者数／履修者数 2／2

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	評価が二分された。本授業はスキー選択者とスノーボード選択者で分かれて主に活動したため、把握しきれていない部分も多分にあるため具体的なことがわからないが、満足度が1の学生がいてはいけない。4泊5日の集中講義であり、ある意味特別感のある授業である。同じような機会は二度とない可能性があるため、学び損ないようにしなければならない。学生に寄り添った内容としたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	スキーにしてもスノーボードにしても長崎県では感じる事ができない雪山で活動するということ自体が学習態度や意欲の向上につながったはずである。単に「ゲレンデで運動をしている」で終わるのではなく、いかに非日常を感じ、いかにチャレンジさせられるかが肝となるので、そこを重点的に捉えられる内容を増やしていくといいのかもしれない。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスと授業内容の乖離を感じている学生が存在している。本授業は北海道での野外集中講義であり、天候などによっても内容が左右される。その場、その時に最適な内容となるように心掛けているものの、シラバスとのずれは生じてしまう。そこに関して学生に理解してもらおうような説明が足りなかったのかもしれない。次回からはそのことも念頭においてガイダンス等で伝えていく。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q8の項目において評価1の学生がいる。少人数だからこそ、もっと1人1人と向き合っていくことができたのではないかと感じている。また、実技に関して評価1がついているのは、私が担当したスキーの学生かどうか不明であるが、明瞭な説明を心掛けたいと同時に、私のスキルが不足しては応えられない。私自身の技術的なレベルアップと指導方法の更新を常に図っていききたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	私自身、初めて行くゲレンデで実習の主担当も経験がなかったので、準備不足は否めない授業であった。スノースポーツは1歩間違えば大変危険なことに遭遇するため、入念な準備が必要であるし、学生1人1人の詳細な情報を事前に得ておく必要があった。次回は精神的にも余裕を持って授業を展開できるようにしたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月2

科目名 社会保障Ⅱ

教員名 余 乾生

回答者数／履修者数 41／44

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	社会保障Ⅱの科目は、今年から初めて行いました。総人数44名のうち41名が回答しました。満足度は4.0です。うち日本人学生35名の満足度は3.9で、留学生6名の満足度は4.8です。日本人学生の満足度の引き上げが課題です。ちなみに、前期の社会保障Ⅰの科目の満足度は3.8でしたので、前期より満足度が少し上昇しました。 向上策としては、①予習復習を明確に促していきたいです。②授業参加を促すために、授業中適度に受講生の名前を呼び、答えさせていきたいです。③授業中の私語などについて注意喚起の声掛けを明確に行いたいです。④内容的には、もう少し具体例を入れていく予定です。⑤PPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにするなどもう少しわかりやすいものにしたいです。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の授業後は、小テストの形で確認問題を用意しました。出席の確認とともに、授業の振り返りを行いました。そして、次回の授業でこうした確認問題を説明し、受験勉強も兼ねて行いました。こうして授業の復習と試験との関係性を意識させることによって学習意欲の向上を図った。 授業レジュメは穴埋めの形にしました。毎回のレジュメには10個程度の穴埋めを用意し、授業中に確認する形でした。見やすくするために、授業中レジュメを適宜に拡大しつつ受講生に見せました。また、見逃しの場合があると考えて、別資料として、穴埋めの結果もPDFで添付しました。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3わかりやすさは4.1です。うち日本人学生は4.0で、留学生は4.7です。前期の社会保障Ⅰのわかりやすさは3.8です。前期と比較すると点数は微上昇しました。そして、日本人学生にとってのわかりやすさは課題です。改善策としては、もう少し具体例を入れていくことと授業レジュメやPPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにする予定です。 Q4シラバスとの整合性は4.3です。うち日本人学生は4.2で、留学生は4.7です。前期の社会保障Ⅰの整合性の点数は4.1です。前期と比較すると点数は微上昇しました。そして、日本人学生にとっての整合性は課題です。改善策としては、授業中に第1回で示したシラバスの内容を、後の授業でも適宜に示して、今は全体の中にどこまで進めたのかを復習する予定です。 Q5授業への興味は4.1です。うち日本人学生は4.0で、留学生は4.7です。前期の社会保障Ⅰの授業への興味は3.8です。前期と比較すると点数は微上昇しました。そして、日本人学生の授業への興味は課題です。改善策としては、もう少し具体例を入れて、授業中に受講生の回答を求める予定です。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6話の明瞭さは4.1です。うち日本人学生は4.0で、留学生は4.7です。前期の社会保障Ⅰの話の明瞭さは3.9です。前期と比較すると点数は微上昇しました。そして、日本人学生にとっての話の明瞭さは課題です。改善策としては、NHKのラジオを聞き、話し方を真似するなど、自分の日本語の会話力を向上させる予定です。 Q7熱意は4.4です。うち日本人学生は4.3で、留学生は4.8です。前期の社会保障Ⅰの点数は4.2です。前期と比較すると点数は微上昇しました。そして、日本人学生にとっての熱意は課題です。改善策としては、授業中に受講生の回答を求めるなどして、授業参加を促す予定です。 Q8教材使用は4.0です。うち日本人学生は3.9で、留学生は4.7です。前期の社会保障Ⅰでは3.7です。前期と比較すると点数は微上昇しました。そして、日本人学生にとっての教材使用は課題です。改善策としては、紙媒体のレジュメをプリントアウトする予定です。 Q9機器使用は4.3で、うち日本人学生は4.2で、留学生は4.7です。

項目見出し	コメント
	前期の社会保障Ⅰでは3.8です。前期と比較すると点数は微上昇しました。そして、日本人学生にとっての教材使用は課題です。改善策としては、紙媒体のレジュメをプリントアウトする予定です。 Q10私語対応は4.3で、うち日本人学生は4.2で、留学生は4.8です。前期の社会保障Ⅰでは4.2です。前期と比較すると点数は微上昇しました。そして、日本人学生にとっての私語対応は課題です。改善策としては、授業中私語に対してははっきり止める予定です。 Q11授業参加は4.0で、うち日本人学生は3.8で、留学生は4.8です。前期の社会保障Ⅰでは3.9です。前期と比較すると点数は微上昇しました。そして、日本人学生にとっての授業参加は課題です。改善策としては、授業中に受講生の回答を求めるなどして、授業参加を促す予定です。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	社会保障Ⅱは理論的な授業です。内容が多くて難しいです。したがって、授業参加を促すことも難しいです。しかし、一方的に授業を行うのも、受講生の理解度の向上につながらないことが理解できました。今後はもっと授業参加について工夫して、わかりやすい授業にしておきたいです。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 貧困に対する支援

教員名 余 乾生

回答者数／履修者数 58／62

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	貧困に対する支援の科目は、今年から初めて行いました。総人数62名のうち58名が回答しました。満足度は3.9です。満足度の引き上げが課題です。 向上策としては、①予習復習を明確に促していきたいです。②授業参加を促すために、授業中適度に受講生の名前を呼び、答えさせていきたいです。③授業中の私語などについて注意喚起の声掛けを明確に行いたいです。④内容的には、もう少し具体例を入れていく予定です。⑤授業レジュメやPPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにするなどもう少しわかりやすいものにしたいです。⑥紙媒体の授業レジュメを配る予定です。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の授業後は、小テストの形で確認問題を用意しました。出席の確認とともに、授業の振り返りを行いました。そして、次回の授業でこうした確認問題を説明し、受験勉強も兼ねて行いました。こうして授業の復習と試験との関係性を意識させることによって学習意欲の向上を図った。 授業レジュメは穴埋めの形にしました。毎回のレジュメには10個程度の穴埋めを用意し、授業中に確認する形でした。見やすくするために、授業中レジュメを適宜に拡大しつつ受講生に見せました。また、見逃しの場合があると考えて、別資料として、穴埋めの結果もPDFで添付しました。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3わかりやすさは4.0です。わかりやすさの向上は課題です。改善策としては、もう少し具体例を入れていくことと授業レジュメやPPTの内容を工夫して、1頁の内容を少なめにする予定です。 Q4シラバスとの整合性は4.2です。整合性の向上は課題です。改善策としては、授業中に第1回で示したシラバスの内容を、後の授業でも適宜に示して、今は全体の中にどこまで進めたのかを復習する予定です。 Q5授業への興味は3.8です。授業への興味の向上は課題です。改善策としては、もう少し具体例を入れて、授業中に受講生の回答を求める予定です。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6話の明瞭さは4.1です。話の明瞭さの向上は課題です。改善策としては、NHKのラジオを聞き、話し方を真似するなど、自分の日本語の会話を向上させる予定です。 Q7熱意は4.2です。熱意の向上は課題です。改善策としては、授業中に受講生の回答を求めるなどして、授業参加を促す予定です。 Q8教材使用は3.7です。教材使用の向上は課題です。改善策としては、紙媒体のレジュメをプリントアウトする予定です。 Q9機器使用は4.0で、機器使用の向上は課題です。改善策としては、紙媒体のレジュメをプリントアウトする予定です。 Q10私語対応は4.2で、私語対応の向上は課題です。改善策としては、授業中私語に対してははっきり止める予定です。 Q11授業参加は3.9で、授業参加の向上は課題です。改善策としては、授業中に受講生の回答を求めるなどして、授業参加を促す予定です。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	貧困に対する支援は理論的な授業です。内容が多くて難しいです。したがって、授業参加を促すことも難しいです。しかし、一方的に授業を行うのも、受講生の理解度の向上につながらないことが理解できました。今後はもっと授業参加について工夫して、わかりやすい授業にしておきたいです。

アクションプランシート

2024年度後期 水3

科目名 Japanese Economy

教員名 余 乾生

回答者数／履修者数 21／22

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Japanese Economyの科目は、今年から初めて行いました。総人数22名のうち21名が回答しました。満足度は4.6です。うち日本人学生13名の満足度は4.7で、留学生8名の満足度は4.5です。向上策としては、予習復習をもっと明確に促していきたいです。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	Japanese Economyの科目では、留学生と日本人学生を混ぜる形でグループ分けし、このグループも定期的にメンバーを変更していました。こうして英語の練習も兼ねて、もって日本人学生と留学生の交流を図りました。 そして、授業全体は受講生自身が英語の経済関連のニュースを自分で見つけて、授業で投票の形で、受講生の一番関心のあるテーマを選んで授業を進めました。こうして受講生の参加意欲の向上を図りました。 それぞれのテーマについて、受講生一人一回の英語でのプレゼンテーションを求めました。こうして復習も兼ねて、学習意欲などの向上を図りました。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3わかりやすさは4.7です。うち日本人学生は4.8で、留学生は4.5です。 Q4シラバスとの整合性は4.7です。うち日本人学生は4.8で、留学生は4.5です。 Q5授業への興味は4.6です。うち日本人学生は4.8で、留学生は4.3です。 改善策としては、今までのやり方の維持と予習復習をもっと明確に促していきたいです。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6話の明瞭さは4.8です。うち日本人学生は4.8で、留学生も4.8です。 Q7熱意は4.6です。うち日本人学生は4.8で、留学生は4.1です。 Q8教材使用は4.9です。うち日本人学生は4.9で、留学生は4.8です。 Q9機器使用は4.9で、うち日本人学生は4.9で、留学生は4.9です。 Q10私語対応は4.6で、うち日本人学生は4.5で、留学生は4.8です。 Q11授業参加は4.7で、うち日本人学生は4.8で、留学生は4.5です。 改善策としては、今までのやり方の維持と予習復習をもっと明確に促していきたいです。また、私語や遅刻に対しては、もう少しはっきり注意喚起を行う予定です。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	日本人学生と留学生が混ざっている状態で、全部英語で経済学を教える授業は、いろいろ難しいところがあると思いました。結果的にはうまく授業が進みましたようで、来年度も頑張りたいです。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 道徳教育論

教員名 木村 勝彦

回答者数／履修者数 26／30

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	道徳教育論の授業に対する理解度、満足度に関する設問の内、授業内容の理解度についての質問項目Q12の平均評価値は4.8で、評価5をつけた者が21名、4が5名で、3以下をつけた者はいなかった。この科目は教職課程の教職に関する科目で、中学校教員免許の取得を希望する者にとっては必修であるため、受講生の取り組む姿勢は極めて熱心かつ真摯であり、理解度の高さもそうした受講生のあり方を反映したものである。受講生全員が中学校2年生の道徳の授業を想定して作成した学習指導案を発表し、それに対する質疑応答を展開するというこの授業が、受講する学生たちの理解度向上に資するものとなっていたと考えられる。またこの授業に対する総合満足度についての質問項目Q13の平均評価値も4.8で、評価5をつけた者が22名、4が4名で、3以下をつけた者はいなかった。すべての学生による発表とそれに対する質疑応答をから成るこの授業を通して、中学校での教育実習に参加する際には必ず担当することになる道徳についてさまざまなアプローチが可能であると認識し得たことが、この授業をほとんどすべての学生にとって満足いくものとしていた要因であると思われ、授業担当者としても喜ばしい限りである。総じて、Q12及びQ13を合わせて評価5をつけた者が82.7%、4をつけた者が17.3%となっており、今年度のこの授業に対する評価は高いレベルに達していたと総括することができる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度、学修意欲等に関する設問の内、何らかの準備学習を行ったかについての質問項目Q1の平均評価値は4.4で、評価5をつけた者が15名、4が7名、3が4名で、2以下をつけた者はいなかった。この授業では受講生全員が道徳の授業のための学習指導案を作成し、それを発表日までに提出することを義務付けていたため、なんらかのかたちで準備学習は進められていたものと思われる。ただし学生によっては取り掛かりが遅かったり、内容の推敲を十分に行わない者も見られたが、そうした差が自己の学修活動に対する評価として反映されていることが推測される。授業中の受講態度についての質問項目Q2の平均評価値は4.7で高い水準を示しており、5をつけた者が19名、4が7名で、3以下をつけた者はいなかった。学習指導案の作成・発表と並ぶこの授業のもう一つの眼目は、発表に対するコメントの記述とそれに基づく質疑応答であるため、全員が他の受講生の発表を真剣に観察せざるを得なかったことが評価に反映しているものと思われる。実際に、このような授業のあり方は全員が履修すべき教育実習の現場を想定したものであり、教師を目指す受講生は自ずと真剣にならざるを得なかったものと考えられる。挙手して意見を述べるという場面では必ずしも積極的ではない学生にしても、コメントそのものはしっかりとポイントを指摘した記述を行っており、全員が真剣に授業に取り組んでいたと評価することができる。積極的に挙手するのをためらった受講生の自己評価が、評価5と4との差として現われているものと思われる。総じてQ1及びQ2においては、評価5あるいは4をつけた者が92.2%となっており、道徳教育論の授業を履修していた学生の準備学習を含めた受講態度は良好であったと言える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業の内容に関する設問の内、授業の構成、まとめ、わかりやすさについての質問項目Q3の平均評価値は4.8と高い水準に達しており、評価5をつけた者が21名、4が5名で、3以下をつけた者はいなかった。まず最初の数回で道徳学習指導案の作成の手順と要点を解説した後、毎回当番を決めての個人発表とそれをめぐる質疑応答を行うという内容で、実際の教育実習における研究授業を想定しての構成としていたため、高い評価を得ることができたものと思われる。また個々の発表に対する小職のコメントも、基本的には肯定的な立場に立って学生のモチベーションを高めながら、修正すべき要点を指摘するものであったため、受講生からは好意的に受けとめられたと言えよう。シラ

項目見出し	コメント
	バスとの整合性についての質問項目Q4の平均評価値も4.8で高い水準に達しており、5をつけた者が21名、4が5名で、3以下をつけた者はいなかった。毎年同様の手順で授業を展開しており、そのことがシラバスに明確に記載されているため、シラバス通りに授業が進行しているとの評価を得られたものであろう。受講生もシラバスの内容をよく把握して授業に臨んでおり、そのことが評価に反映していると思われる。授業内容が教務あるものかについての質問項目Q5の平均評価値は4.7で前2項と比べるとやや低くなっており、評価5をつけた者17名、4が8名で、3をつけた者も1名見られたが、2以下をつけた者はいなかった。この傾向は道德あるいは道德教育というものの理解し難さ、アプローチの困難さに起因するものであり、それぞれの教科の専門性と比較するとやや取組みにくく感じられたことが反映していると推測される。日本の学校教育において道德教育はすべての教育活動の要と位置づけられているため、道德に対するそうした苦手意識を克服する必要がある。今後の道德教育論の授業においては、そのような意識啓発を十分に行うことと並行して進められるべきであり、これが小職のこの授業を担当する上での課題である。とは言え、総じてQ3からQ5において評価5及び4を合わせて98.7%となっており、きわめて高い評価を得ることができたと総括することができる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業の方法に関する設問の内、話し方の明瞭さについての質問項目Q6の平均評価値は4.8と高い水準に達しており、評価5をつけた者が20名、4をつけた者が6名で、3以下をつけた者はいなかった。教職課程の授業である以上、教員として必要な資質を授業担当者自身が示さなければならないが、その意味では明瞭な語り口は必須の条件であり、この評価はそれを十分に満たしたものと受けとめることができる。授業担当者の熱意に関する質問項目Q7も平均評価値4.8と高い水準に達しており、評価5が20名、4が6名で、3以下をつけた者はいなかった。前の質問項目と同様に、授業担当者として道德の授業に取り組む熱意を示すことができたものと判断できるであろう。教科書、参考書、配布プリントの使用についての質問項目Q8の平均評価値は4.7と高い水準を示したが、5が20名、4が5名で、3をつけた者が1名おり、前2項目よりもやや低い値を示した。これは発表者の学習指導案をコピーして配布する際に、何度か印刷ミス（コピー機に起因するが、確認不足）のトラブルがあって、発表に困難を生じたことに起因するものと思われる。同様に板書や機器の使用についての質問項目Q9の平均評価値も4.7で、5が20名、4が3名、3が3名となっているのも、発表者が動画を見せる際にトラブルが発生し、それに小職が適切に対応できないということが何回かあったためであると考えられる。いずれも授業担当者として適切な対応が必要な事態であり、反省点として受けとめているところである。遅刻・私語への対応についての質問項目Q10の平均評価値は4.6で高い水準にあるとは言え、今回のアンケートでは最も低く、5をつけた者が19名、4をつけた者が4名、3をつけた者が3名であった。後期の1限目ということもあり、冬季になると遅刻する者がやや増加したり、授業途中でトイレに立つ者が出るようになったりしたが、必ずしも授業進行の妨げにはならないと判断して格別の注意を行わなかったことが要因であろうと思われる。学生の授業参加の促しについての質問項目Q11の平均評価値は4.8で高い水準に達しており、5をつけた者が22名、4が4名で、3以下をつけた者はいなかった。総じてQ6からQ11において、評価5と4を合わせて95.5%であり、高い評価を得ることができたと総括し得るであろう。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度の道德教育論に対する授業アンケートの結果は、総じて高い水準に到達することができていたものと判断している。教職課程の教職に関する科目として必修となっていることもあり、例年この授業の履修者は熱心かつ真摯な受講態度を示す者がほとんどであるが、今年度の履修者は近年でも優れて真面目な受講態度を示していたという印象があり、アンケート結果にもそのことが表れていると言うことができるであろう。ただし受講者は当初30名であったが、そのうちの1名が発表直前に出席しなくなり、発表予定週の授業の時間に一部穴が開くという事態が出来たことは痛恨の極みであるが、この学生は恐らく教職課程の履修そのものを断念したものであると思われる。またアンケート実施当日に3名の欠席があり、その学生たちが期間中にアンケートの回答をしなかったことも、授業担当者として意識啓発が不足していたものと捉えて反省している。とは言え、総じてどの項目でも4点代後

項目見出し	コメント
	半の数値を示しており、道徳教育論の授業における所期の目的はほぼ達成されたものと自己評価をしている。本学に教職課程が設置されて以来、道徳教育論（前身の道徳教育研究）は小職が一貫して担当してきたが、来年度以降は中堅教員にその任を継承してもらうことになったため、小職にとっては今年度が最後の授業ということになった。できれば総合満足度を満点の5評価で終えたかったというのが実感ではあるが、それに少し足らぬとは言え、高い評価で終えることができたことは幸いであった。今後も本学の教職課程において、多くの優れた教員が輩出していくことを念願している。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 哲学
教員名 木村 勝彦
回答者数／履修者数 79／107

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	今年度のこの科目に対する理解度、満足についての設問の内、授業内容の理解に関する質問項目Q12の平均評価値は4.3で、評価5をつけた者が41名、4が25名、3が12名、2が0名で、1が1名であった。ほぼ例年並みの評価値といえることができるが、高度に抽象的な概念とそれを巡る思弁を本質とする哲学という学問の特質を考慮すれば、一定程度の理解度は得られたものと考えられる。ただし、1という評価をつけた学生は日本人であり、日本語能力が必ずしも十分ではない留学生が3以上の評価をつけていることと比較すると、当該学生のこの授業における学修意欲や態度とも関わることが予想される。このような学修意欲の低い学生の理解度を向上させ、哲学という学問分野への興味・関心を惹きつけるためにはどのような工夫を講ずればよいかをさらに検討していく必要がある。一方、この授業への総合的満足度に関する質問項目Q13の平均評価値は4.5で、評価5をつけた者が48名、4が23名、6が3名、2が2名で、1をつけた者はいなかった。この数値は履修者が多い講義形式の科目としては十分に高いと評価できるであろうし、必ずしも授業内容の理解が伴わない学生であっても、哲学の授業において取り上げられる問題やテーマには純粋に知的関心を有していることが窺われるといえることができよう。当然のことながら、理解度が向上すれば総合満足度も比例して向上するはずであるから、授業内容や方法の精選によって受講者の理解を深めることができるよう不断の努力を継続する必要がある。総じて、Q12及びQ13について評価4以上をつけた学生が約87%であることから、哲学の授業に対する評価は良好なものであったと自己評価することができる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講生の授業を受けた態度についての設問の内、準備学習に関する質問項目Q1の平均評価値は3.7で、評価5をつけた者が25名、4が25名、3が19名、2が1名で、1が9名であった。この授業に対する評価においてQ1のみが3点台に留まっており、しかも1と2をつけた者が10名に及びことはまことに遺憾であり、小職の担当する講義科目全体の課題であると認識している。他の講義科目と同様に、哲学においても毎回の授業の後にmanabaの小テスト機能を利用して復習のための確認テストを課しており、その提出を評価基準の一つとすることを学生には周知しているが、それでも一定程度の受講生については提出状況が芳しくないという事態と連動しているものと思われる。評価基準の内訳における確認テストの比重を高めることにより、準備学習をしなければ高評価を得られないという認識を学生にもたせることが必要であると考える。他方、授業中の受講態度に関する質問項目Q2の平均評価値は4.2で、評価5をつけた者が33名、4が31名、3が14名、2が1名で、1をつけた者はいなかった。実際に全15回の授業を通して私語を注意したことはなく、途中退出（暫時後に教室に戻ってきたことから推測すると、恐らくは用便のため）もほとんど見られなかったことから、受講態度そのものは非常に良好であったと言えることができるであろう。Q1とQ2において4以上の評価をつけた者が約72%であり、3をつけた者も加えれば90%以上に上ることから判断すると、ほとんどすべての受講生は熱心かつ静粛に授業を受けていたと自己評価することができる。ただし先述のように、何らかの準備学習や関連する図書の講読など、授業外学修の必要性を啓発し、それを実践させることが授業そのものの質を向上させるためにも不可欠である。この点について一層の努力を継続していきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問	授業の内容についての設問の内、授業の構成、まとめ、わかりやすさに関する質問項目Q3の平均評価値は4.5で、評価5をつけた者が46名、4が25名、3が6名、2が2名で、1をつけた者はいなかった。2000年以上の長い伝統を有する哲学という学問自体が難解な概念を含む学説史を本質とするものであるため、どの哲学者や学説を取り上げて紹介するかを授業担当者は常に検討し、構成とわかりやすさに注

項目見出し	コメント
一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	力する必要があるが、この結果からは高い評価を得られたものと判断することができよう。またシラバスとの整合性に関する質問項目Q4の平均評価値は4.5で、5をつけた者が44名、4が29名、3が5名、2が1名で、1をつけた者はいなかった。構成とわかりやすさに配慮した授業内容はシラバスに反映されるべきものであり、学生に予め予告しておいた順序と内容で授業を実施することができたものと思われる。さらに授業内容が興味あるものであったかに関する質問項目Q5の平均評価値は前二者よりも若干低い4.3で、評価5をつけた者が40名、4が28名、3が9名で、2が2名であり、1をつけた者はいなかった。概ね高い評価を得られたものと言うことができるが、3と2をつけた受講生がやや増えた理由としては、哲学が高度に抽象的な思弁を特徴とするもので、実用的に役立つという実学ではないというところに違和感を覚える者もいたためであろうと推測される。しかしながら総じて、授業内容に関するQ3からQ5において評価4以上をつけた者が約90%に上ったことから、哲学の授業内容に対しては高い評価を得ることができたものと考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業方法についての設問の内、話し方の明瞭さに関する質問項目Q6の平均評価値は4.5で、評価5をつけた者が53名、4が18名、3が6名、2と1がそれぞれ1名であった。概ね高い評価を得られているが、3以下をつけた者が8名存在したことは、アンケートの自由記述における「声が大き過ぎる」「声量を落してほしい」という意見と連動しているものと推測される。受講者数が多く、しかも階段教室における授業であるため、教室内に声を明瞭に行き渡らせるべく努力しているが、授業に熱が入る時にともすれば声が大きくなり過ぎるという傾向があることを自覚している。今後も留意して改善に努める所存である。熱意に関する質問項目Q7の平均評価値は4.6で、評価5をつけた者が51名、4が23名、3が4名、2が1名で、1をつけた者はいなかった。授業実施に当たっての熱意は十分に評価を得られているものと思量する。教科書、配布プリント等に関する質問項目Q8の平均評価値は4.5で、5が50名、4が23名、3と4がそれぞれ3名で、1をつけた者はいなかった。教科書・参考書は使用せず、重要語句を空欄にした配布プリントを用いており、それ自体は評価を得られていると考えるが、やや空欄が多くなっていることが若干の低評価につながっていると推測されるので、プリントの内容を再検討したい。板書や機器使用に関する質問項目Q9の平均評価値は4.6で、5が54名、4が18名、3が5名で、2と1をつけた者がそれぞれ1名であった。パワーポイントで資料を提示するという方式自体は高い評価を得ていると思われるが、宗教学や倫理学と異なりスライドの内容が単調になりがちなのが数値に反映していると推測されるため、スライドの内容を再検討したい。遅刻や私語への対応に関する質問項目Q10の平均評価値は4.4でやや低くなっており、5が43名、4が26名、3が9名、2が1名で、1をつけた者はいなかった。授業担当者としては注意の必要性を認めなかったが、学生の間では障害となるような事態があったものと思われるので、今後は把握に努めたい。授業参加に関する質問項目Q11の平均評価値は4.3と低くなっており、学生の主体的な授業参加の促進が授業担当者の課題である。総じて授業方法に関するQ6からQ11において、4以上をつけた者は約90%であり、高い評価を得ることができたものと考ええる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度の哲学の授業については、受講生から総じて高い評価を得ることができたものと自己評価することができる。上にも記したように全学共通教育科目群の中でも哲学は、高度に抽象的な思弁によって生み出された概念から成る学説の理解を追求するものであり、受講する学生にもそうした抽象的思考や概念の論理的構成に対する知的関心と理解が求められる。そうした意味では受講生にも忍耐強い受講態度と意欲が求められる一方で、授業を担当する教師の側にも難解な概念・学説を可能な限り平易に解説し、受講する学生の理解を促すための内容・方法が求められる。必ずしも完全なたちではなかったにせよ、ほとんどすべての評価項目において平均4.5の数値を得られたことからすると、授業担当者としての所期の目的は一定程度達成されたものと判断してよいであろう。その一方で、準備学習など学生自身の受講態度に関する項目の数値や、いわゆるアクティブラーニングに類するような学生の積極的な授業参加に関する項目の数値が低いことは小職の課題であり、その改善向上は今年度も十分に実現することができな

項目見出し	コメント
	った。多様な学科に属する多くの受講者を対象とする全学共通教育の講義科目で、内容も一人一人の主体的思考を求めるものである哲学（広く哲学関連分野に属する倫理学・宗教学も含め）において、どのようにアクティブラーニングを充実させていくかは困難な課題であり、今後ともその解決に向けた試行錯誤を継続していく必要がある。とは言え、カリキュラム改革により哲学は、本学の全学共通教育科目群から今年度限りで削除される。本学において哲学という科目そのものを担当する機会が失われることになったが、今後も担当する予定の倫理学及び宗教学において、小職の課題を克服すべく努力する所存である。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 専門演習B

教員名 柳 智盛

回答者数／履修者数 5／5

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	専門演習Bの授業満足度の結果は、4.0の平均であった。4年次の卒業研究論文の執筆に向けての内容を中心に授業を進めた。特に、論文の書き方や先行研究の資料集めなどを中心に受講者が必要とする内容を中心に進めた。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講生の授業態度や学習意欲などの向上のため、卒業研究論文の執筆に向けての指導などでは、理解が難しい学生もいたため、個別指導などを通して、全員が授業の到達目標に近づけるために工夫をしながら授業を行ったが、学生によっては負担にも感じる部分があったと思う。また、授業の進め方においては具体的な課題を提示し各自の卒業研究論文を自ら取り組めるような工夫しながら授業を行った。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	各受講生の卒業研究論文の進捗状況に合わせて毎回の授業を展開する形式であったため、学生の個々の能力や進むペースが違いう中、受講生全員が授業の到達目標に近づけるかが課題でもあり、授業の内容においては4.0から4.6の結果であった。各学生の卒業研究論文のテーマに合わせて授業内で発表を行い、それに対してディスカッションを行うことで授業を進めるなどの工夫を行った。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業の方法については、4.6から4.8の評価結果であった。授業では、テーマにもよるが基本的に自分の考え方をまとめ全員で共有する形式として、各自の卒業研究論文を進めながらゼミ内でのディスカッションを通して自分の考え方と他の学生の考え方をまとめ、教員を含めた学生同士のコミュニケーションの練習の場として、今後も工夫しながら進めていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回の専門演習Bの授業は、ゼミ生としての指導も含めて行う必要があり、ゼミの中には修学上の配慮が必要とする学生もいることから、授業だけではなく関わる時間が多かったことから、授業時間内でも関係性が作りやすかった。個々の学修能力を踏まえて、大学生活・学修を含めた指導をしていく必要があると考える。

アクションプランシート

2024年度後期 月5

科目名 卒業研究

教員名 柳 智盛

回答者数／履修者数 5／5

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	卒業研究の授業満足度の結果は、4.8の平均で全体の平均より高い結果であった。大学での学びを総まとめするような卒業研究論文を完成することが授業のねらいである。特に、卒業研究論文のテーマは、3年次から学生自分の興味関心のあるテーマで執筆を進めて、教員からの指導として論文の書き方や先行研究の資料集めなどを中心に行う授業である。クラス内での授業に合わせて個別指導を細かく行う工夫した。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講生の授業態度や学習意欲などの向上のため、卒業研究論文の完成に向けての指導などでは、理解が難しい学生もいたため、個別指導などを通して、全員が授業の到達目標に近づけるために工夫をしながら授業を行ったが、学生によっては負担にも感じる部分があったと思う。また、授業の進め方においては具体的な課題を提示し各自の卒業研究論文を自ら取り組めるような工夫しながら授業を行った。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	各受講生の卒業研究論文の進捗状況に合わせて毎回の授業を展開する形式であったため、学生の個々の能力や進むペースが違っており、受講生全員が授業の到達目標に近づけるかが課題でもあり、授業の内容においては4.8から5.0という結果になったと考えられる。各学生の卒業研究論文のテーマに合わせて授業内で発表を行い、それに対してディスカッションを行うことで授業を進めるなどの工夫を行った。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業の方法については、4.4から5.0の評価結果であった。授業では、卒業研究テーマにもよるが基本的に自分の考え方をまとめ、全員で共有する形式として、各自の卒業研究論文を進めながらゼミ内でのディスカッションを通して自分の考え方と他の学生の考え方を述べる形式で授業方法を進めてきた。教員を含めた学生同士のコミュニケーションの練習の場として、今後も工夫しながら進めていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回の卒業研究の授業は、ゼミ生としての指導も含めて行う必要があり、ゼミの中には修学上の配慮が必要とする学生もいることから、卒業研究論文の執筆においても配慮をしながら指導したことで、全ての受講生が卒業研究論文を完成することができた。そのようなこともあり受講生と関わる時間が多かったことから、授業時間内でも関係性が作りやすかった。個々の学修能力を踏まえて、大学生活・学修を含めた指導をしていく必要があると考える。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 福祉特論H

教員名 柳 智盛

回答者数／履修者数 20／22

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本授業の満足度は平均4.7で受講生の多くは授業に対して概ね満足している結果であった。社会福祉学科専門科目で国家試験要件科目ではないが社会福祉を目指す学生が児童の発達に関連した知識をより深く学べるように展開している授業内容でもあり、受講生も授業において積極的に参加する科目である。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本授業は、子どもの発達に関する知識修得後に各自で授業内容をまとめて、社会においての問題点や改善点を自ら調べ、提案する形の評価方法である。さらに、受講生同士でディスカッションを通して内容をより深める作業を行う。振り返り作業を通して作成した各自の発表資料・発表態度などを受講生同士で評価表を作成した上で、担当教員の評価と照らし合わせる授業展開をすることで、学習意欲の向上にもつながったと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業の内容については、4.7～4.8の評価であり、受講生が興味を持って授業を受けていたと考えられる。受講生は、子どもの発達に関する知識を修得後、プレゼンテーション資料作成や発表を通して、受講生自身が興味関心のある子どもの発達に関する諸問題を自ら調べること、受講生の授業内容への関心度がより高くなったと考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業の方法については、4.4～4.8の平均で、多くの受講生において授業の方法は的確であったと考えられる。しかし、本授業は、自ら課題設定や課題解決をねらいとすることが多い授業であることから、受講生が作成し発表したプレゼンテーション内容について一人ひとりへのコメントと指導を行った。さらに、受講生が行ったプレゼンテーションがそれぞれ異なることからお互いに共有できるような内容でまとめていくことについてさらに改善していく必要があると思う。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業は社会福祉の分野の中でも、主な授業内容が社会福祉専門職養成において、児童に関連する知識をより深く修得するために設けた科目である。授業の評価方法において、プレゼンテーション及びディスカッションを中心とした授業展開であることから受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいた。そのため、授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に共通する話題に対してディスカッションを通して学生個々の意見を述べさせることでより授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。

アクションプランシート

2024年度後期 木5

科目名 社会学

教員名 大島 啓

回答者数／履修者数 173／242

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業評価の満足度は、平均とほぼ同値であった。内容や話し方、熱意、資料の使用法については評価が高い。自由記述もすべて肯定的意見（話の内容や話し方が面白い、とても興味深い、この授業に参加しなければ知る機会のなかった考え方を知ることができた）であった。授業の内容や方向性に関しては、おおむね妥当であると考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生に興味を持ってもらうために、配布資料に多くの画像や図、関連知識などを配置し、無味乾燥な内容にならないよう努めた。授業の冒頭に前回の授業内容に関する質問や感想を紹介し、それにコメントを付けるようにしている。これが一番楽しみであるという学生の感想は多い。またレジュメに学生が書き込む部分を多数用意し、常に手を動かす機会を作ることによって、集中力の低下を防ぐよう努めた。各回の内容が対象の小テストを授業の最後に行い、答え合わせとセットで授業内容の確認を行っている。資料に書き込む用語等は、パワーポイントで大きな文字で出している。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業編成はシラバスに従い、整合性を持たせ、シラバス通りに進行している。内容も教科書をなぞるだけの形を避けるために、時事的、歴史的なトピックを適宜挿入し、興味関心を高めるよう努めた。学生の反応としては、例年内容は難しいが解説が分かりやすい、時代背景等の話が興味深い、話が面白く情報量が多いとの評価が例年多い。社会福祉学科以外の学生には内容の難易度が高く、その知識の必要性が伝わらない恐れもあるが、今年度はそのような反応は見られなかった。国家試験対応用の「硬い部分」と、興味関心を引くための「やわらかい部分」のバランスをいかに取るかに、例年注力している
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	話し方や熱意、配布資料や文献の使用法については、一定の評価を得ていると考えている。ウィークポイントである早口への指摘は1件あった。留学生の受講について意識する必要がある。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	この授業は、国家試験を受ける社会福祉学科の学生と、それ以外の一般学生が合同で受ける授業である。前者の学生のために内容は国家試験対応の専門的なものとなっていることから、「なぜこんな必要のない硬い内容の授業を受けなければならないのか」という疑問を、後者の学生が持っても無理はないのが現状である。この課題の克服を念頭に置いて、この数年授業スタイルの構築を試行錯誤してきたが、その努力は徐々に報われてきていると考える。ただ、制限時間内にどの程度の情報量の知識を伝達するのが適切なのかについては、適切な答えを得ておらず試行錯誤が続いている。引き続き改善に努めたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月5

科目名 卒業研究
教員名 大町 いづみ
回答者数／履修者数 6／6

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	3年次の専門演習より、引き続き、各自テーマを明確にしたうえで、研究の目標、研究の方法についてイメージできるように、具体的に示しながら、主体的に取り組んでいけるように、個別に計画し実施していった。データの収集が終了したところで、解析方法の説明を行い、意味、読み取りについて、一緒に学生が理解できるように、取り組んだ。自ら、結果の表作成ができるように教授していった。考察は、ゼミ生全員で、できるだけディスカッションを行い、研究に興味関心が持てるように取り組んだ。そのようなプロセスが、授業満足度につながったものと考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	ゼミメンバー間の関係性向上のための、ボランティア参加や交流会、食事会なども、タイミングをみながら計画し実施した。そのような授業以外での交流が、ディスカッションやメンバーシップ向上につながった要因の1つとして考えられる。また、具体的に進め方がわかる講義や資料を教員が作成して、説明を取り入れながら遂行していった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	先行文献を検索しても、よく理解ができない学生がいた。ともに、読み込みながら意味を解説していったが、ある程度は、研究を遂行しながら、あと振り返りで、理解を進めていくことも有効だったと推察する。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	今回は、当初より、メンバーシップの向上を図るために、意図的に教員がかかわりを持って行った。学生個々に能力がある程度あり、メンバー間の関係性がよい状態であれば、今回のような取り組みが可能であると考え。学生個々の、特性や個性を早期からよく見極めて、取り組む必要があるため、様々な選択肢や方法を柔軟に取り入れながら、今後も、取り組んでいきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	ゼミ活動の全体を通して、ゼミ生全員で、ディスカッションを多く取り入れ、他のメンバーの研究内容でも、よく理解していけるように3年次より取り組んだ。文献検索の時点より、検索の仕方からまとめ方、整理の仕方の教授後、主体的に、自ら調べ、まとめフォームに要約し、発表や他のメンバーへ質問をすることを取り入れ、全員で取り組んでいった。先行論文は必ず、10篇以上の読み込みをして、研究計画書を作成していった。全員調査研究に取り組み、倫理審査委員会への提出から、アンケートの依頼、収集時も、自分の研究以外でも、他のメンバーを助けながら取り組むことができた。その結果、結果の読み込み、データ入力、結果の解析についてもディスカッションができるようになった。その後の論文作成においても、主体的に、ディスカ

項目見出し	コメント
	セッションをしながら、能動的に取り組むことができた。研究プロセスを大変だったが楽しむことができたこと、そのような、取り組みプロセスが、結果的に、満足感、達成感につながったものとする。

アクションプランシート

2024年度後期 金4

科目名 認知症の理解 II

教員名 大町 いづみ

回答者数／履修者数 7／20

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本年度の当該授業において、2年生のコミュニティコースの学生がほとんどで、留学生が4名履修しており、興味、関心を持つための工夫のある授業の組み立てについては、非常に苦労した。学生が主体的に授業に取り組めるように、演習の工夫に今後も務めていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	グループ演習時は、楽しく、発言でき、主体的に取り組むことができていた。発言の機会を多く取り入れていくことは、有効だと考える。授業初めに、前の週の授業まとめを取り入れたことは、理解の定着につながったと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	学生にとって、イメージがつきにくい科目内容でもあるため、予習学習の取り組みについて、何らの工夫が必要である。まとめシートの活用、小テストの実施等工夫して取り組んでいきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	いつも居眠りをする学生がおり、クラスの雰囲気壊していたと考える。発問や、小テスト等の取り組み、演習を途中で入れるなど、工夫をしていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートがwebとなり、協力を促したものの、回収率が低かった。次回は、授業内で、アンケート回答時間を設け回答してもらうように工夫したい。

アクションプランシート

2024年度後期 月1

科目名 国家試験基礎演習

教員名 梅野 潤子

回答者数／履修者数 35／38

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する満足度は平均4.7と概ね良好であり、前年度の4.3と比べて0.4点向上した。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	グループ学修により能動的な学びを促すとともに、SAを導入して学修についていくことが難しい受講生への声掛けや、具体的な学修への助言を提供できたことが影響したと思われる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	各設問ともにおおむね好評である。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	各設問ともにおおむね好評である。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験希望者3年生を対象とした授業であったが、授業内容としては各設問ともに4.5点以上の高評価を得た。予復習については4.3点とやや不十分と自己評価する学生も見られ、授業外での学修を促す取り組みを今後行っていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火4

科目名 スクール（学校）ソーシャルワーク演習

教員名 梅野 潤子

回答者数／履修者数 4／4

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する満足度は受講者全員が5点を付けている。下記(2)の授業方法が功を奏したと捉えており、次年度も引き続き実践していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業開始時期には、受講生同士で話し合っ授業計画の詳細を決定し、各学生が3コマを担当して模擬研修会を実施した。受講生の興味関心のあるテーマを設定し、主体的に情報検索やディスカッション・レポート作成を行う実践的学修内容が満足度や学修意欲向上に貢献したと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	各項目ともに高い評価を得ており、今後も継続して分かりやすい授業編成や授業展開に努めていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	板書や機器使用、授業中の遅刻・私語への対応については他の項目と比べて点数が劣るため、今後留意していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	受講生はスクールソーシャルワーカー資格取得を目指す学生であり、もともと学修意欲は高かったが、能動的に受講生同士で協力しながら学びを深めるプログラムを実施することにより、さらに学修効果が高まったと捉えている。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）

教員名 野田 健

回答者数／履修者数 47／59

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13の項目は4.6点であり、一定の評価はできると考える。昨年度は本科目を他教員に譲ったことから、1年間のプランはあったが、点数に変化がなかったことを踏まえると、特に1年間のプランは問題なかったと考える。 一昨年と同様、できる限りDVD映像等を用いて、少しでもソーシャルワークに関心を高めてくれたらと努めた。また、できる限り双方向の授業にしていけるように、毎回の授業後の課題（予習）に対するコメントを次回授業時にできるよう心掛けた。 今後も上記他、双方向、対話型の授業にできたらと考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	DVDと小テストが最も学生の学習意欲等の向上につながったと考える。 ソーシャルワークという言葉自体が、他資格よりもイメージしにくいものであることから、どのような仕事をしているのかを前期の科目同様、後期でも伝えていく必要があると考え、DVDを選んでいる。 小テストに関しては、国家試験の問題も活用し、将来どのような試験を受けて有資格者になるのかのイメージを付けられるようにしている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3～Q5の評価は、一昨年度は概ね4.5点であったが、今年度は0.1～0.2ポイント上がった形となった。 プログラム自体を大きく変えていないため、私自身の努力というよりも、受講者の受け取り方が大きく影響したものと考える。 ただ、3点がそれぞれ2～4名いたことを考えると、こうした学生にもわかりやすく、整合性があり、興味が持てるようなものに変えていく必要がある。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11に関しては、一昨年度が4.4～4.6点であったため、Q3～Q5と同じような結果となった。これもまた、項目の内容に関して特段一昨年度と変えていないため、受講者の受け取り方による変化であると考え。 今後、資料に関しては、新カリキュラムがはじまって4年が経っているため、細かな修正だけでなく、抜本的な修正をしても良い頃なのかもしれない。今の学生や新カリキュラムの国家試験に合わせたものに切り替えたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケートの「学生からのコメント」を読むと、「わかりやすい」という表現が多く見られた。この言葉は非常に嬉しい。 ソーシャルワーカーは、クライアントに対し、どうやってわかりやすく伝えるかが問われ、相手の感覚を理解しながら表現を変える術を持たなくてはならない専門職である。そのことを踏まえると、その専門職養成の教員である以上、学生もクライアント同様に、そこに意識を持つ必要があると考えている。 今後もこの意識をしっかりと持って授業に取り組みたい。

アクションプランシート

2024年度後期 水1

科目名 専門基礎演習B

教員名 野田 健

回答者数／履修者数 9／11

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	専門基礎演習（2年ゼミ）は、大学生活をより良くしていくことを通じて、大学を好きになり、3・4年次に自分自身の方向性を決めてもらうためのゼミだと考え、学生には主に「外での活動」「交流」をテーマに授業を実施した。その意図を理解してもらえたのではないかと感じている。 また、今年度は、私自身も学生に助けられた面が大きい。なぜなら、今回のゼミ生は誰もが私が考えるプログラムに「主体的」であり、また全員がゼミの一員としての意識を持ち、ファミリー感があったからである。とても良いメンバーに巡り合えたと感じている。 メンバーによってゼミの運営は大きく変わるが、できれば来年度以降も今年度と同じような一体感のあるゼミにしていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	いずれの学生も3福祉士を目指す学生であったため、普段の履修科目で十分に学修はできている。ただ、知識を得るだけでなく、外に出て、実際に「見る」ことや「実践する」ことに特化した授業は少ない。そのため、今回のゼミはそこを重要視したが、その意図がすべての受講生に届いたのか、全員が前向きにプログラムを行っていた。 机の上で勉強しない「実践ベース」だったためか、メンバーの雰囲気や関係性が良かったためか、実際にはわからないが、きっとその2つが今回の学生の受講態度、学修意欲につながったのだと感じている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3～Q5は、4.8～5.0であった。今年度は、授業内容に「ボッチャ大会」を取り入れた。実際に運営する側に立った時に問われる自分自身のありようを、実際にスタッフとして関わって良い体験になったのではないかと感じている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11は、4.7～5.0であった。今年度は、授業の方法として、各授業のテーマを自分達で決め、自分達で運営する方法を採用した。中にはあまりうまくいかなかったところ（失敗体験）もあるが、その経験もゼミメンバーに支えられながら乗り越えたようである。 自分自身に何ができ、何がうまくできないのかを知る良い機会になったと考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業スタイル（一方向的な授業）は、その内容や方法がある程度完成されれば、毎年同じ質を提供することができる。それに比べ、ゼミは、そこに集う学生によって、どんなに同じ内容・方法であったとしても、その成果は大きく変わってくる。 その点を踏まえると、ゼミこそ、そこに集まる学生とともに作っていくイメージで授業を展開していくことが問われているように感じる。 今後も、今年度の学生と同じように、一緒になって作っていくようなゼミ運営をしていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木6

科目名 国家試験演習（共通）Ⅱ

教員名 野田 健

回答者数／履修者数 39／46

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	4.0であり、高い点数とは言えないものになった。 この授業は、国家試験合格支援委員会がプログラムを立案し、その内容に沿って4名の教員が運営するものであったが、それだけに柔軟さを欠く授業になった。それを受けて、今回の点数となったように感じられる。 プログラムを通すことも大切であるが、学生の気持ち、表情、思いの変化に気づき、それに対応する形が取れないものになっていた。その点が改善点といえる。 来年度以降は、柔軟性のあるプログラム（方向性は変えずに、方法等によって学生の気持ちに伝えられるようなプログラム）にすべきである。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講態度や学習意欲は、国家資格を強く望むか望まないかの気持ちの差が大きな影響を与えたと感じる。実際に、気持ちの差に比例して、学修進度も学生によってまちまちであり、段々とグループ学修をする意味が崩れていった。そのことについては、学生の「自由記述」にも表れている。 全員が気持ちを1つに、全員で合格を勝ち取る体制にならなかったのが、今回の一番の反省点である。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	項目3のわかりやすさや、項目5の授業内容の評価は低く、シラバスが4.5と高めに付けられている。 これは、上記した内容と重なるが、決められたプログラム重視の授業展開を学生は理解していながらも、その内容に納得していなかったことを表していると考ええる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6からQ11で最も点数が高かった項目が、項目8の教科書等であった。国家試験でよく使用される「過去問題集」と「レビューブック」は、7年前から導入し、日ごろ学生に使いやすさ等を確認していることから、妥当な評価であると考ええる。 しかし、他の項目があまり高い点数でないことに関しては、教員の介入が少なかったことを表しているのかもしれない。また、今回、通常2名で回すところを、柳・野田は常に出るようにし、1コマに4名がいるコマもあったが、それでも低い点数であった。については、一番大事な「学生のニーズ」が見えていなかったのかもしれない。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	年度初めに考えたプログラム内容は、決して悪いものではなかった。しかし、「シラバスどおり」、「どの教員が行っても同じように」といった暗黙の縛りが、教員だけでなく学生にも悪影響を与えたように感じられる。 来年度以降は、上記したが「柔軟性のあるプログラム」の構築を目指す必要がある。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ

教員名 韓 榮芝

回答者数／履修者数 53／70

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	履修者70名、回答者53名（内留学生8名）回答率75.7%で、授業満足度は4.1（去年3.9、前年3.7）留学生は4.8（5.0）前年度年より0.2ポイントアップ。本科目は社会福祉士カリキュラムの改正に伴う新設された科目であり、今年度は4年目となる。今年はコロナ感染状況の緩和により、授業の形態は全て対面で行われた。そのためにグループワークや少人数の発表、互いに学び合うことができた。一年生を対象とした科目でもあるので、なるべく専門用語の定義を繰り返し復唱し、地域社会における諸生活問題を分かりやすく理解するように、動画を取り入れたり専門用語や人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎にレジュメ作成や資料を事前に配布したりして、多くの受講者が授業内容を理解しやすくなるとコメントも寄せられている。しかし、今後さらに工夫し満足度をアップしていく必要があると感じた。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今回は全ての授業が対面で行った。大人数クラス（70名）の講義ということもあって、まず受講生に感染予防を促し座席を指定した。月曜1限目の授業があったため、遅刻や欠席のないように授業の最初に前回の授業内容を復習し、簡単な小テストを行ったりすること。本科目は前年度から卒業必須科目でありながら、新カリの国家試験（SW/PSW）の受験科目でもある。そのため、予習と復習ができるように、受講生に理論的知識を得るのみならず現場での理論を実践に結ぶつけるように、動画の視聴や参考資料を配布するなど理解しやすく実施した。授業毎に次の授業内容をレジュメ配布、図やグラフなどを取り入れながら丁寧に資料作成をし、復習を積極的に取り組むように授業レポートを課し、授業後の振り返りを徹底して行った。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3から5の平均得点順に4.2、4.3、4.2、うち留学生4.9、4.9、4.9、（去年3.8、3.9、3.8、一昨年3.6、3.9、3.9）であった。各項目には0.4上がった。改善策として、事前学修や事後復習を徹底したことである。社会福祉士の受験科目であり、卒業必修科目でもあるので、丁寧に留学生も含め分かりやすく事例やリアルな動画視聴を取り入れていたこと。また、ゲストスピーカーの講義を受けたり、教科書に書いていない事例もグループワークで議論をしたり理解を深め、授業の参加を促して理解を深めること。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6から11順に4.1、4.5、4.5、4、4、4.5、4.2（去年3.8、4.1、4.0、4.0、4.0、3.8、一昨年は3.6、4.0、4.0、3.9、4.2、4.1）であった。項目ごとにポイントが上昇した。授業中に小人数でグループワークを行い（3、5人でグループワーク）、質問紙を用いて質疑応答を随時に行ったこと。予習と復習時間を確保するために授業毎にコメントを書いてもらい、フィードバックを行ったこと、授業前と後に課題レポートを出すなど学修を促していたこと。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年の受講生が多く授業アンケート評価を受けて、難しい科目でもあるが、まず学生らが自ら学修する意欲を高めていくため授業内容を如何に分かりやすく簡潔に説明できるように工夫する必要がある。また、学生の学修意欲（興味）を喚起させていくために、学生が何か求め、困りごととは何か対話を通して把握し、学生らの意見を真摯に受け止め、改善策を考えていくこと。さらに、他の先生の授業を参観し、より良い授業方法を模索し、学生に興味や関心を持てるように講義を進めていくことが大事であると感じる。

アクションプランシート

2024年度後期 木4

科目名 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ

教員名 韓 榮芝

回答者数／履修者数 52／54

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	履修者54名、回答者52名（内留学生6名）回答率96.3%で、授業満足度は4.1（去年3.7）留学生の授業満足度は4.8（去年2名で5.0）。本科目は去年続き社会福祉士カリキュラムの改正に伴う新設された科目であり、今年度は2年目となる。今年度はコロナ感染状況の改善により授業の形態は全て対面で行われたため、グループワークや少人数の発表が多く、互いに学び合うことができ満足度は去年度より0.4アップ。本科目は1年次の「Ⅰ」と3年生の「Ⅱ」となっている。3年生にとって一年間のブランクがあったので、専門用語や定義などを振り返り復習することが重要だと考え、動画を取り入れたり事例や関係する人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎にレジュメ作成や資料を事前に配布したりして、国試に関する過去問を練習し多くの受講者が授業内容を理解するようになった。しかし、全体の満足度に比べ依然として高くない水準であり、今後さらに工夫していく学生個々の状況に応じ授業方法を改善していく。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年度の授業は全て対面で行った。中人数クラスの講義ということもあって、まず受講生に感染予防を促しながら授業を集中して居眠りや私語を防ぐために後ろ3行目の座席を空くようにすること。木曜4限目の授業があったため、遅刻や欠席が少ないが授業参加を積極的に行うように、授業の最初に前回の授業内容を復習し、簡単な小テストを行った。本科目は3年生を対象に社会福祉士及び精神保健福祉士の必須科目となり、新カリの国家試験（SW/PSW）の受験科目でもある。そのため、予習と復習ができるように、受講生に理論的知識を得るのみならず現場での理論を実践に結びつけるように、動画の視聴や参考資料の配布などを実施した。授業毎に次の授業内容を受講生にレジュメを配布し、図やグラフなどを取り入れながら丁寧に作成し、復習を積極的に取り組むように授業レポート提出や、授業後の振り返りを徹底して行った。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3から5の平均得点順に4.8、4.8、4.8（去年3.7、3.8、3.7）であった。改善策として、事前学修や事後復習を徹底したことである。社会福祉士の受験科目でもあり、丁寧に留学生も含め分かりやすくように事例やリアルな動画視聴を取り入れていくことが重要であると思われる。また、ゲストスピーカーの講義を受けたり、教科書に書いていない事例もグループワークで議論をしたり理解を深め、授業の参加を促して理解を深めたこと。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6から11順に4.8、4.8、4.8、4.8、5.0、5.0、（去年8、3.8、4.0、3.8、3.9、3.9、3.7）であった。授業中に小人数でグループワークを行ったり、質問紙を用いて質疑応答を随時に行ったこと。予習と復習時間を確保するために授業毎にコメントを書いてもらい、フィードバックを行ったこと、授業前と後に課題レポートを出すなど学修を促していたこと。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケート評価を受けて、難しい科目でもあるが、まず学生らが自ら学修する意欲を高めていくため授業内容を如何に分かりやすく簡潔に説明できるように工夫する必要がある。また、学生の学修意欲（興味）を喚起させていくために、学生が何か求め、困りごととは何か対話を通して把握し、学生らの意見を真摯に受け止め、改善策を考

項目見出し	コメント
	えていくこと。さらに、満足度を高めるために、他の先生の授業を参観し、より良い授業方法を模索し、学生に興味や関心を持てるように講義を進めていくことが大事であると感じる。

アクションプランシート

2024年度後期 木5

科目名 卒業研究

教員名 韓 榮芝

回答者数／履修者数 5／7

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本授業の受講者は7名で回答者数が5名（うち留学生3名）、回答率71.4%。満足度の平均評価は5.0(今年から始めてアンケートを実施したため過去のデータないが、前期は4.8)であった。5名の回答評価は全て5となった。向上策として、学生の要望や進み具合を把握し、メリハリのある授業を取り組めた。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	コロナ感染が収縮する傾向にあるが、受講生に対する心のケアを継続していくことは依然として重要である。そのため、学生個々の実情に応じて相談を行い、新カリキュラム（実施とした最初の年度生）に関する対応を丁寧に行いながら講義を進めていた。ゼミ生の学習状況（卒業研究）や就職上の悩みに対しきめ細やかな相談をし、国試対策においては学内だけでなく学外の学修もグループで実施し互いに学び合い活動を通じて全員一致で合格できるような雰囲気をつくる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3から質問5の平均点は、Q3：4.8（前期4.5）、Q4：4.8（前期4.7）、Q5：4.8（前期4.7）、去年実績がない。改善策として、学生の疑問や連絡に対してより細やかな対応、個々のニーズや状況に対応して個別相談を行い、学生の話しを真摯に受け止め、ゼミ運営は全員で参画し、互いにアイデアを出し合って学生同士の間や教員との信頼関係を築くように心かけたこと。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6から質問11の平均点は、Q6～Q11：4.8、4.8、4.8、4.8、4.8、5.0（前期Q4.7、Q7：4.7、Q8：4.4、Q9：4.7、Q10：4.7、Q11：4.7、去年実績がない）。改善策として、学習意欲を高めるために、学生自身が課題を見つけ取り組めるように事前学習を促し、互いに学び合えるように授業中に課題発表やディスカッションを行い、知識や情報を共有していくこと。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	4年のゼミ生に対し今回は前期続き今年度始めてアンケートを取った。少人数のゼミであるため、学生らとの距離が近くマンツーマンで学生の実情や要望をよく把握できた。また、ゼミ生と一緒に授業運営を進めていくことができた。今回の授業アンケートを踏まえて今後学生のご意見を授業運営に反映していき、学生らの関心・興味を持つように、学習意欲を高めるように学修環境を作ることが重要だと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 木5

科目名 保健医療と福祉

教員名 韓 榮芝

回答者数／履修者数 49／65

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	履修者65名、回答者49名（内留学生4名）回答率75.4%で、授業満足度は4.0（留学生は5.0）。本科目は今年度から担当となり、社会福祉士や精神保健福祉の受験科目でもある。今年度はコロナ感染状況の改善により授業の形態は全て対面で行われたため、グループワークや少人数の発表が多く、互いに学び合うことができた。受講生は二年生や上級生、留学生もいるので専門用語や定義などを振り返り復習することが重要だと考え、動画を取り入れ事例や関係する人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎に内容に合わせて設問とその解答を作り、授業レジュメ資料を事前に配布し、国試に関する過去問を練習し多くの受講者が授業内容を理解しやすいとのコメントもあった。しかし、全体の満足度に比べ依然として高くない水準で、今後さらに工夫していく学生個々の状況に応じ授業方法を改善していく。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年度の授業は全て対面で行った。中人数クラスの講義ということもあって、まず受講生に感染予防を促しながら授業を集中して居眠りや私語を防ぐために後ろ3行目の座席を空くようにすること。木曜5限目の授業があったため、遅刻や欠席が少ないが居眠りのないため授業参加を積極的に行うように、授業の最初に前回の授業内容を復習し、簡単な小テストを行った。本科目は2年生以上を対象に社会福祉士及び精神保健福祉士の必須科目となり、新カリの国家試験（SW/PSW）の受験科目でもある。そのため、予習と復習ができるように、受講生に理論的知識を得るのみならず現場での理論を実践に結ぶつけるように、動画の視聴や参考資料の配布などを実施した。授業毎に次の授業内容を受講生にレジュメを配布し、図やグラフなどを取り入れながら丁寧に作成し、復習を積極的に取り組むように授業レポート提出や、授業後の振り返りを徹底して行った。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3から5の平均得点順に3.8、4.2、4.0（今年度から担当）であった。改善策として、事前学修や事後復習を徹底したことである。社会福祉士の受験科目でもあり、丁寧に留学生も含め分かりやすくように事例やリアルな動画視聴を取り入れていくことが重要であると思われる。また、教科書に書いていない事例もグループワークで議論しながら理解を深め、授業の参加を促して理解を深める。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6から11順に3.9、4.4、4.0、4.2、4.2、4.1であった。授業中に小人数でグループワークを行い、質問紙を用いて質疑応答を随時に行ったこと。予習と復習時間を確保するために授業毎に学修内容に踏まえ設問とその解答を書いてもらい、フィードバックを行ったこと、授業前と後に課題レポートを出すなど学修を促していたこと。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケート評価を受けて、国家試験科目でもあるが、まず学生らが自ら学修する意欲を高めていくため授業内容を如何に分かりやすく簡潔に説明できるように工夫する必要がある。また、学生の学修意欲（興味）を喚起させていくために、学生が何か求め、困りごととは何か対話を通して把握し、学生らの意見を真摯に受け止め、改善策を考えていくこと。さらに、満足度を高めるために、他の先生の授業を参

項目見出し	コメント
	観し、より良い授業方法を模索し、学生に興味や関心を持てるように講義を進めていくことが大事であると感じる。

アクションプランシート

2024年度後期 水1

科目名 ソーシャルワーク演習（精神）Ⅲ

教員名 足立 孝子

回答者数／履修者数 8／9

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2024年度前期に続き、後期もソーシャルワーク演習（精神）では、授業に対する満足度「5.0」を獲得することができた。2023年度後期のソーシャルワーク演習（精神）では、「4.9」だったので、上昇している。 本科目では、事例検討を主に行っている。前期のソーシャルワーク演習（精神）Ⅱでは、教員が提示する事例を使って、学生同志がグループワークの中で検討した。後期は、実習中に体験した事例を学生が提示し、グループワークで検討した。さらに、今年度の後期は、ファシリテーターも学生に担当してもらった。司会進行と板書を担当してもらうことで、より主体的に事例検討に取り組めたのではないかと考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	上述したように、ファシリテーターを学生に担当してもらうことによって、主体性を高めることができた。さらに、今年度前期から「アイスブレイク」を取り入れて、発言しやすく、安全・安心できる場であることを意識させた。また、実習の前から事例検討を行うことを何度もアナウンスし、意識を高めることができた。アセスメント（見立て）とプランニング（手だて）をグループで考えることによって、自身の考えが深まるだけでなく、他学生の意見も取り入れることができるようになった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	2024年度後期の授業内容については、Q3「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったか」、Q4「シラバスとの整合性はあったか」、Q5「授業内容は興味あるものだったか」すべてにおいて、「5.0」を得ることができた。2024年度前期は、「シラバスとの整合性」が「4.9」。2023年度後期は、「シラバスとの整合性」が「4.7」であった。 授業の中で繰り返し、今やっていることの意義等を繰り返し、シラバスの内容についても触れていたことが、評価の上昇につながったと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	2024年度後期では、Q6「話し方」、Q7「熱意」、Q8「教材の適正」、Q9「板書の適正」、Q11「参加を促す工夫」については、「5.0」を得ることができた。ただし、Q10「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたか」については、「4.6」であり大変厳しい指摘であると受け止めている。2024年度前期のQ10は、「4.8」。2023年度後期のQ10は、「4.9」であることから、徐々に低下していることがうかがえる。 クラスによりよい雰囲気づくりを意識するあまり、ダメなことはダメと指摘することが徹底していなかったと反省している。授業に積極的に参加している学生に、不愉快な思いをさせてしまったことが数字に表れているのではないかと感じる。 次年度からは、遅刻や私語だけでなく、授業中に化粧をする学生もいたので、毅然とした態度を示すことが、よりよいクラス運営につながると肝に銘じる必要がある。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度から、より段階的に（教員の事例→学生の事例→ファシリも学生が担当）授業を実施することによって、学生の積極性を高めることができた。本科目で行っている事例検討は、精神科病院で実際に行われているものを応用している。今後は、精神科病院内で行われている事例検討にリモート参加ができるように調整していきたい。ただ見学するだけでなく、その場でも積極的に意見が出せるように学生のスキルを上げていきたい。実習を経験することによって、学生は各段に成

項目見出し	コメント
	長することが実感できる科目である。今後は、さらなる成長を促し、現場の実践へとつなげていけるように指導していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木3

科目名 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ

教員名 足立 孝子

回答者数／履修者数 23／41

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2024年度後期の満足度は、「4.7」であった。2023年度後期が、「4.8」、2023年度前期も「4.8」であったことから、低下していることがわかる。長崎国際大学に赴任をしてから、2年目になることから、自分でも気づかぬうちに情性で授業をしていないかと不安を覚えた。現場の臨場感を伝えるために、体験したこと、思ったこと、嬉しかったこと、疑問に思っていることなどを熱を込めて伝えていたが、その熱がやや冷めてきたのかもしれない。ほとんどの学生が1年生であることから、精神保健福祉士の意義や可能性について興味や関心を示してもらえるように、伝えていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回、オリジナルのレジュメを切り、わかりやすい資料の工夫をしてきた。また、教科書の内容だけではなく、時事問題や近年話題になっていることを、わかりやすく伝える工夫をした。授業の内容に即して、効果的と思われる動画を厳選して視聴してもらった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	2024年度後期は、Q3「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったか」が「4.6」、Q4「シラバスとの整合性あったか」が「4.6」、Q5「授業内容は興味のあるものだったか」は「4.5」であった。2023年度後期は、Q3が「4.9」、Q4は「4.8」、Q5は「4.8」であったことから低下していることがうかがえる。とくに、内容への興味の評価ポイントが低下していることから、もう一度、授業の内容や方法を考え直す必要があると考えている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q10「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたか」は、「4.2」であり、低い数値である。2023年度後期は「4.6」、2023年度前期は「4.7」であったことから、年々数字が低くなっている。真剣に授業に参加している学生の妨げにならないような雰囲気をつくれるように努めていきたい。Q11「学生の授業参加を促す工夫」についても、「4.3」だった。こちらも2023年度前期・後期ともに「4.7」であったことから、低下していることがわかる。今後は、適切に注意を促すことも必要だが、誰も取り残さないような参加型の授業を行いたいと思う。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的に数値が下がっており、もともと低い項目は、さらに低くなっている傾向がある。初年度の熱意を取り戻すこと、適切に注意を促すこと、さらには、誰も取り残さないような授業を展開したいと思う。具体的には、スマートフォンを活用した付箋で意見を発表できるような工夫をしていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 生活支援技術IVB

教員名 浦 秀美

回答者数／履修者数 8／10

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2023年度と2024年度を比較する。 授業に対する満足度について、23年度は4.9であったが24年度では4.5となり、0.4ポイントの下降となった。全体平均値程度の結果となったため、向上策を検討したい。 本科目は介護福祉士養成課程の科目であることから、授業初回に国家試験に関する難易度や出題傾向を示し、数問解答をさせた。初回の授業で難易度の低めの問題を解答させたため、授業内容の理解に自信をつけてることにつながったと考えている。ただ、定期的な実施はできず、授業を受講することで、理解度が深まることや、国家試験問題の解答率に直結することを意識づけることには至ることができなかった。 次年度は学修内容をどの程度理解できているのか、どのような知識や技術を身につけることができたのかについて、自己評価の機会を設け、力をつけることができることの可視化を図る等、満足度につながるアプローチを引き続き検討していきたいと考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本科目は演習科目であることから、動きながら学ぶことを主眼に置き授業を展開した。座学时であっても、演習時であっても学生同士のディスカッションを重視した。時折ディスカッション内容にズレもあったが、都度修正を図りながら取り組むことはよかったことであると評価する。 また、本科目は受講学生が10名ということで少数人数である。伝達事項や連絡事項は授業時に口頭で伝える、配付資料に口頭事項を付する、manabaのコースニュース等で配信する、コースニュースの閲覧が確認できない場合は個別に連絡する等の工夫を行った。学生と関わる機会を多く持つことで、学生からの希望が自発的に出るようになった。 次年度以降も、ディスカッションの時間を設けていくことを継続する予定である。ディスカッション前の説明を丁寧に行うことや、ディスカッションのテーマが介護実習に連動していくようなものを選定する等、工夫を重ねていきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	2023年度と2024年度とを比較する。 Q3授業編成について、23年度は4.9、24年度は4.4であった。 Q4シラバスとの整合性について、23年度は4.9、24年度ともに4.5であった。 Q5授業内容の興味について、23年度は4.6、24年度は4.4であった。 以上のことから、昨年度と比較すると、全項目において、0.2もしくは0.5ポイントの減少となった。 授業編成は昨年度が評価として高い値を示していたため、昨年度と同様の展開にて授業を進めたが、若干難しさを感じる学生が多かったかもしれない。適宜理解度は確認していたが、「わからないことはない」という言葉の分析が不十分であったかもしれないと考える。「わからないことはない」のではなく、「何がわからないのかわからない」という学生も一定数いたと考えるため、少人数クラスであることを活用して、一人ひとりに向き合ってキャラクターや理解度の把握に努め、工夫を検討していきたいと考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11	2023年度と2024年度とを比較する。 Q6話し方の明瞭性について、23年度は4.6、24年度は4.4であった。 Q7熱意の感じられる授業であったかについて、23年度は4.9、24年度は4.6であった。 Q8教科書等の使用の適切性についても23年度4.8、24年度は4.5であった。

項目見出し	コメント
スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q9板書や機器の使用の適切性について23年度4.9、24年度は4.5であった。 Q10遅刻や私語への対応については、23年度は4.9、24年度は4.4であった。 Q11授業参加の促しへの工夫については、23年度は4.8、24年度は4.1であった。 以上のことから、昨年度と比較すると0.2から0.7ポイントの減少であった。 遅刻や私語への対応については、遅刻学生も然程おらず、私語についてもペアやグループディスカッション時以外は授業の妨げとなるようなものはないと判断していた。しかし、ポイントが減少しているため、次年度は留意する必要があると考える。 授業参加への促しについても、manabaのrespon機能を活用し、極力受講学生全員がコメントを提出することの促しを行ったが、ポイントが減少したため、respon機能を使用しない授業内容であっても、ワークの促しや取り組みへのリアクションを行う等、工夫を検討していきたいと考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	少人数であるため、ペアでのディスカッションやグループディスカッションもやりとりをした人とばかり実施することも多かった。ディスカッションについては今後工夫をしてく必要があると考える。 本科目においてもリアルタイムで受講学生のコメントをシェアすることを取り入れた。文章にて入力するよう指示をしても、文章を構成する力が不足している学生も多く、なかなか力の向上に至ることができなかった受講学生もいた。また、「わからないことはない」という学生に対しての関わり方も今後検討が必要であると考えている。授業時に口頭で伝える、授業資料に伝達内容を明記する、manabaのコースニュース等で知らせるといった、あらゆるツールを活用しても課題の提出忘れがあった学生もいた。本人にとってこの授業の必要性を認識するような関わりの工夫を引き続き考えていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 水2

科目名 介護概論ⅠA

教員名 浦 秀美

回答者数／履修者数 36／44

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業への満足度を2023年度と2024年度とを比較する。両方の年度とも同値の4.6であった。2024年度のカテゴリ別集計において、講義科目の満足度は4.5、社会福祉学科の満足度は4.4、1年生の満足度は4.6、全体の満足度は4.6であったことから、すべてのカテゴリ別の集計結果と比較しても同値もしくは上回る結果を得た。 平均的な評価であることから、さらに満足度を向上させることへののびしろはあると考えている。引き続き学生が主体的に学修するための工夫を検討していきたいと考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	殆どの授業において、manabaレポート機能を活用したリフレクションを実施した。そして、そのリフレクションへのフィードバックする時間を確保し、授業の復習と導入を意図した時間とした。自由記述に、「リフレクション時に取り上げられたテーマが自分のコメントであると嬉しい」といったものがあつたため、一人ひとりのコメントを丁寧にフィードバックすることは継続していきたいと考える。 また、授業時にmanabaのrespon機能を活用し、授業内容に関することをクイズ形式で出題したり、コメントを入力させそのコメントにコメントするという展開にも工夫をした。他者の意見を知ることが学びとなるという意見もあつたことから、これらについても今後も継続して実施していきたい。 また、定期試験に向けた授業内での重要箇所の明確化、授業最終回での定期試験重要学修項目の提示により、試験勉強に取り組みやすくなることから、今後も何事においても明確化・可視化をしていきたいと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	2023年度と2024年度とを比較する。 Q3授業編成について、23年度は4.6、24年度は4.7であった。 Q4シラバスとの整合性について、23年度、24年度ともに4.6であった。 Q5授業内容の興味について、23年度は4.5、24年度は4.6であった。 以上のことから、昨年度と比較すると、同値もしくは0.1ポイント上昇することができた。改善策としては、昨年度と異なる取り組みとしては、リフレクションレポートへのリアクションだけでなく、manabaのrespon機能を活用した問いへの回答、コメントへのリアクションを授業内で行ったことであった。毎時数名の学生が、授業内容からさらに知りたいことを質問としてコメントしており、それに対し回答を丁寧に行った。このことが、授業内容への興味に影響したものと考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	2023年度と2024年度とを比較する。 Q6話し方の明瞭性について、23年度、24年度ともに4.7であった。 Q7熱意の感じられる授業であったかについても、23年度、24年度ともに4.8であった。 Q8教科書等の使用の適切性についても23年度、24年度ともに4.7であった。 Q9板書や機器の使用の適切性についても23年度、24年度ともに4.6であった。 Q10遅刻や私語への対応については、23年度は4.6、24年度は4.4であった。 Q11授業参加の促しへの工夫については、23年度は4.6、24年度は4.5であった。 以上のことから、昨年度と比較すると同値もしくは0.1もしくは0.2ポイントの減少であった。

項目見出し	コメント
	遅刻や私語への対応については、遅刻学生も然程おらず、私語についてもペアやグループディスカッション時以外は授業の妨げとなるようなものはないと判断していた。しかし、わずかであってもポイントが減少しているため、次年度は留意する必要があると考える。 授業参加への促しについても、manabaのrespon機能を活用し、極力受講学生全員がコメントを提出することの促しを行ったが、ポイントが減少したため、respon機能を使用しない授業内容であっても、ワークの促しや取り組みへのリアクションを行う等、工夫を検討していきたいと考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目が学科必修科目となって3年が経過する。一昨年度はオムニバス科目で展開し、昨年度・今年度は単独で開講した科目である。昨年度と今年度を比較したが、大きな評価の上昇、下降は認められなかった。授業への全般的な評価は概ね良好であると判断している。 自由記述にも、「丁寧な話し方である」、「わかりやすい説明で非常に理解しやすい」、「経験談が多く、話がわかりやすい」、「話すスピードがちょうど良い」、「質問への丁寧な答えでわかりやすい」、「レスポンスで自分のコメントが当てられた時、ちょっと嬉しい」、「プリントも説明もわかりやすい」、「例を挙げた説明が具体的に想像したり考えたりできる」、「介護のイメージも変わった」、等、全てのコメントがポジティブなものばかりであった。介護のイメージは社会福祉学を学修する学生にとってもネガティブなイメージを持つため、それが払拭できたことは、自身の取り組みを評価できると考えている。 今回の授業についてのアンケートについて、学生自身が本科目を受講するにあたり準備学習することが最も低い値（4.0）であったことは、今後の課題である。ほとんど毎回リフレクションレポートの提出を課していたため、復習はしていたが、予習をいかに取り組ませるかについては、引き続き工夫をしていくように検討を重ねていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火4

科目名 ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ

教員名 中村 尚生

回答者数／履修者数 7／8

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本授業は、ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰに向けた実習準備をおこなうことが主な目的である。受講生は、これまでの講義で学んだ知識や技術をもとに、より専門的・実践的なソーシャルワーク実習に備えて高度な学修を進める必要があった。アンケート結果より、本授業の満足度は受講生により異なっていた。授業満足度と授業理解度の回答傾向は類似していたため、本授業を理解できた者は授業の満足度も高かったと考えられる。これは、科目担当教員の授業展開や指導に対する受講生の反応が異なることをあらわしていると推測される。これに照らすと、本授業の目的に沿ってすべての受講生の知識・技術の深化を科目担当教員の授業展開や指導により促すことができなかったと推測される。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講生は、ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰにおいて初めて福祉現場を体験することとなる。まず、ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰで配属される実習先の地域性や事業内容を適切に把握する必要があった。授業では、受講生ごとに配属された実習施設に関する調べ学修をおこない、科目担当教員は調べ学修の進捗を踏まえ個別指導をおこなった。個別指導のなかで調べ学修の手がかりとなる情報や、その情報の入手先を呈示し、系統的な知識の獲得を助けた。また、受講生同士が調べ学修の内容を発表し、互いの進捗を参照しながら、より高い学修水準を目指せるようにした。さらに、実習先の事業内容などを踏まえながら、現場実習においてどのような学びを深めたいか、実習計画書の作成を通じて、実習の目的を明確にしてもらった。以上のように科目担当教員による個別指導および受講生同士の相互学修の機会を確保しながら調べ学修を進めたことは、現場実習における自己の関心の明確化や、目的意識をもった実習計画書の策定に寄与したと推測される。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	本授業は、ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰに係る科目であり、社会福祉士国家資格の取得を目指す受講生にとっては、必修科目である。しかし、実習配属にあたり受講生の希望どおりになるとは限らない。つまり、受講生のなかには希望する実習先に配属されず、授業のモチベーションが高まりづらく、実習準備が滞ることもある。また、初めて現場実習にあたり、通常の講義科目では感じ得ない不安や緊張を感じている可能性がある。そのような受講生の存在が確認される場合、福祉現場実習に関連する基礎知識やソーシャルワーカーを目指す学生にとっての現場実習の意義を概説したり、実習前の不安や緊張を受講生同士で共有したりするような準備学修が必要だったと考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	基本的には、受講生各自が配属された実習施設の調べ学修や、その内容を踏まえた実習計画書の作成をおこなう。そのため、基本的に個別指導の形態をとることが多く、板書や授業参加を促すようなかわりはありません。つまり、本授業の実施形態である個別指導の性質がQ6～Q11の評価点につながったと考えられる。本授業の実施形態を踏まえると、各受講生の課題の進捗状況により指導内容は異なるため、受講生の意欲や関心などを含めて実態把握をより丁寧におこなうことが重要だと考えられる。また、科目担当教員は個別指導が学生の実情に即して対応できていると過信しすぎず、学生からのフィードバックを受けながら指導を進めていく姿勢も肝要だと考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業は、ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰに向けた実習準備をおこなうことが主な目的である。受講生は、これまでの講義で学んだ知識や技術をもとに、より専門的・実践的なソーシャルワーク実習に備えて高度な学修を進める必要があった。ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰでは、基本的に職場・職種実習が中心であり、その目的はクライアントとのコミュニケーションや人間関係の形成、多職種連携の実態理解、地域における実習施設の役割理解などである。初めての現場実

項目見出し	コメント
	習であるため、座学で得た知識や経験と照らしながら、実習先の機能や特徴、実習生に求められることなどがイメージできるように、指導することが重要だと考えられる。そのために、実習配属先や、そこにおける利用者の特徴について綿密な調べ学修を進められるように受講生の実情にあったサポートを提供したり、ゲストスピーカーなどの講話を通じて現場の福祉実践に触れる機会を提供したりするなど、より効果的な事前学修を計画することが必要だと考えられる。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 専門演習B

教員名 久田 貴幸

回答者数／履修者数 6／6

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本科目の満足度は5.0であった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	個別面談に基づく個別指導や、学生の不安や希望に寄り添いながら授業内容を考慮したことが学生の受講態度、学習意欲等の向上につながったと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	特にない
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	特にない
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目の受講生は、受講態度や学習意欲に問題なく1年を終えることができた。4年生での卒論執筆や就職活動が円滑に行えるよう、継続的に支援したいと考える。

アクションプランシート

2024年度後期 月5

科目名 卒業研究
教員名 久田 貴幸
回答者数／履修者数 6／7

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本科目の満足度は4.8であった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の苦手な活動に対して前もって支援し、ニーズを把握した上で対応したことが学生の受講態度、学習意欲等の向上につながったと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	特にない
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	特にない
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目を受講した学生全員が卒業することができたことは喜ばしいことであった。しかし、国家試験の結果が良くなかったことから、今後は、4年生ゼミにおける国家試験対策についても力を入れていく必要があると考える。

アクションプランシート

2024年度後期 木2

科目名 生活支援技術ⅠB

教員名 久田 貴幸

回答者数／履修者数 10／11

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本科目の満足度は、4.6であった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生のレベルに合わせた授業内容の選定と、授業内での理解度の確認のやり取りが学生の受講態度、学習意欲等の向上につながったと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスと授業内容の整合性について「よくない」に1名がチェックしている。しかし、第1回授業においてシラバスの内容提示と毎回の授業におけるシラバスの内容の説明を行った上で実施した。学生の理解を促進するための対策が必要と考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	特にない
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目を受講した学生は、受講態度は問題ないが資料に基づく説明の理解が不足しているものが数名いる状況であった。今後は、このような学生に対しての対応を考慮する必要があると考える。

アクションプランシート

2024年度後期 金1

科目名 介護過程ⅡB

教員名 久田 貴幸

回答者数／履修者数 4／6

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本科目の満足度は、5.0であった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の理解度を確認しながら、興味関心を引くような事例やテーマを選定した上で取り組ませた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	特に改善が必要な項目はないと考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	特にない。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目は、少人数での授業であり、学生の理解度を確認しながら授業を展開することができた。今後も、学生の満足度を維持できるよう取り組んでいきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木2

科目名 社会福祉調査の基礎

教員名 裴 孝承

回答者数／履修者数 33／51

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本授業に関する受講生の満足度は、4.5点であり、満足度が高かった。去年に比べての向上している。その理由として、学生の受講した内容の理解や確認を細かくしており、分かりやすい例で説明したためであると推測する。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	多くの学生が、授業中の態度が良かった。スマホを触ったり、居眠りをしたりするなどの学生が少なく、予習復習に関しても平均が4.5点であり高い傾向である。その理由としては、授業の学習した内容を毎回演習問題として配布し、次の週にテストを入れるなどの方法を取っていること、また、学生の名前を覚え、質問紙ながら教室を巡回する方法で授業をするため、学生の居眠りやスマホ使用が予防できたと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	おおむね満足していたため、授業内容を大きく変更せず、より質の高い内容として作る予定である。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	本項目に関する全体の点数が、4.6～4.5点であり、特にない改善は必要でないが、学生の出入りによる他の学生への影響については、来年から防止する方法を準備する。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業は、毎回、全力尽くして準備するので、多くの学生が満足していることが確認できたので良かった。国家試験科目でもあるため、かなりの内容をいかに分かりやすくするのが毎年の悩みであるが、一定の水準を保つ授業を作り上げたと推測する。ただ、授業アンケートがWebであり、回答率が少なくなっていることについては、非常に残念である。

アクションプランシート

2024年度後期 金3

科目名 ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ

教員名 丸山 貴志

回答者数／履修者数 9／11

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	今回のアンケートの満足度については平均4.6と、平均は高く一定の評価は得られることができた。不満足と回答した学生はいなかったものの満足（5）と回答した学生が全員ではなかった。授業が少人数であることから、一人ひとりのニーズやレベルを確認し、全員が満足度を感じられる授業内容にすることが必要だと感じた。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本授業は演習の授業であるため、ソーシャルワークの場面を想定したロールプレイを多く実施した。その内容については、実践的な内容にすることはもちろんだが、興味深くまた楽しんで実施できる内容にしたことが学習意欲につながったと考えられる。また学生同士が考え、意見を出しあい、より良い相談援助にするためにはどうしたらいいかを考える時間をつくるなどの構成にしたことも良かった一因だと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	こちらの該当質問でも回答が平均4.6と高い水準であったが「3」を付けた学生が2名いたことに関しては改善が必要だと考える。具体的にはやはり少人数という特徴を生かし、まずは一人ひとりの性格やレベルを把握することが必要だと考える。また学生への対応や授業内容を各個人に合わせる取り組みをさらに工夫し、取り入れることが改善につながると思われる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	こちらの該当質問では、解答の平均は4.6が最高で、4.6に満たなかった項目について特に改善を検討する必要がある。質問8の板書や機器の使用は適切か。の内容は、本授業が演習科目ということもあり板書や機器はほとんど活用しなかった。しかし内容を説明する際などには、スライドを投影したりホワイトボードを積極的に活用することも必要であると感じ、今後は積極的に取り入れていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	他の項目でも述べてきたように本授業は演習科目であること、少人数であること、が授業の特徴であるといえる。そのため「満足」もしくは「良い」と回答しなかった学生が1人でもいると平均値に大きく影響する。しかし、少人数だからこそ一人ひとりに対して個別の対応やレベルに合わせた授業内容を実施するといった工夫をすることが可能であり、またそのちょっとした工夫をすることで授業全体がより良くなると感じた。メンタルヘルスコースを担当しているため、他の授業でも少人数の授業が多く存在するので、今回のアンケートを踏まえて来年度以降の授業に取り組みたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 水3

科目名 心理学

教員名 針塚 緑樹

回答者数／履修者数 16／18

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本授業では、アンケートの結果より一般学生、留学生ともに概ね高い満足度が得られたと考えられる。本授業は既存の教材を使用せず、担当教員が事前に準備した資料をmanabaを活用して授業を行った。基本的には、資料は紙で配布せず個人でダウンロードして使用する形としたが、希望者には資料を紙媒体で配布する工夫も行った。しかしながら、授業資料に対する評価（Q8）や自由記述などから、一部の学生にとっては配布資料が使用しにくいと感じた面もあったようではあったが、機器の使用（Q9）や授業自体の満足度に影響することにはなかったようである。その背景として、自由記述にも挙げられていたように、出来る限り受講生が日常生活や自身を振り返りながら取り組めるよう、理論の説明においても具体例の提示や実際の実験動画などを提示することで理解が深まり、結果として満足度に繋がったと考えられる。そのため、今後もできる限り受講生にとって身近なテーマを取り上げながら心理学や人の心理について興味関心をもってもらえるようなテーマを選定することが必要と考えられる。また、今回は授業の構成上グループワークは1回のみの実施であったが、今後はは受講人数に応じてより柔軟に体験的ワークをもっと取り入れながら受講生間で意見交換ができるような工夫をしていくように考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本授業は健康栄養学科1年生を主に対象として開講された科目であった。健康栄養学科の学生は、管理栄養士という対人援助職を志す受講生であることを踏まえて、心理学という人の心理全体について興味関心を持ってもらうことや、特に身体的な健康に関わる職種であることから、自らの身体だけでなく心身の健康について日頃から振り返られるような授業テーマを設定した。食事や栄養指導に繋がるようなカウンセリングに関わる臨床心理学だけでなく、さまざまな心理学の分野を学ぶことによって、他者や自己を理解するために多角的な視点を持つきっかけとなれるよう、新しい理論や一般的にトレンドになっていることから、心理学の基礎知識を学べるよう留意した。そのため、授業の資料は動画を含めた視覚情報を多用し、さらに体験的学びとなるようなワークも導入した。これらの取り組みにより、受講生にとって主体的・経験的な学びとなり授業の注意集中の維持に繋がったと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業内容に関するQ3～5に対する評価からは、受講生は本授業について授業内容の構成を一定程度評価し、関心をもって授業に臨んでいたと考えられる。このことは、全体的な授業評価であるQ12～13の結果と同様の結果であり、授業内容の評価が全体的な満足度・理解度に繋がったと考えられる。自由記述からは、受講生にとって心理学という学問が身近なことに繋がっていることや普段経験していることであることとして理解できるようなテーマ設定であることがより学びやすさや学修の楽しさとして経験できたと考えられる。授業内でも、心理学の専門用語についてSNSなどの影響から以前よりも一般的に認知されていることと、心理学の基礎ではあるが受講生にとっては初めて聞く用語もあったようであったため、そういったことも確認しながら引き続き受講生に理解しやすいよう丁寧に解説し展開していくことが必要と考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9	Q10の「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたか」の質問項目においてやや低い結果が示された。本授業は、人数が多くない授業であり教員からは私語などは見受けられなかったため、特別な指導を行うことはほとんどなかったが、教室は受講人数に比して広めであったことから後ろの席など一部の席や学生にとっては授業の妨げと感じる行為があった可能性がある。そのため、適宜授業の前で他学生にとって迷惑となるような遅刻や私語について予防的指導として全体指導をし、定期的に意識や注意を喚起する必要があると考

項目見出し	コメント
教養セミナー Q4～Q7	える。また、授業では教壇から講義をしていることが大半であったが、それでは教員からの見えている部分だけになるため、学生視点を取り入れるためにも適宜講義をしながら教室巡回を行う工夫をするなど、学生の学修の不利益とならないような環境整備や配慮を心掛けたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業では、概ねどの評価においても一定の理解度や満足度を得られていたと考えられるが、他科目と比較して受講生の準備学習が著しく低かったこと、また学生の受講態度の自己評価についてやや不熱心であった学生がいたことが示された。授業内における理解度の高さにも起因していたかもしれないが、受講生がより学びを深めたいという自主的・積極的な自己学習意欲に繋がらなかったと考えられる。そのため、復習学習の意義や予習学習が次回の授業内容と繋がるような、学習の連続性を意識した授業展開が必要と考えられる。そのためには、授業内で随時試験を実施することや、課題を設定するなどの工夫が挙げられる。しかしながら、最も重要なことは受講生の知的好奇心を刺激するような授業テーマを設定し、受講者が自ら授業外学習に取り組むような働きかけや推奨を行うことと考える。

アクションプランシート

2024年度後期 木3

科目名 ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ

教員名 山下 彦

回答者数／履修者数 11／11

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	今回は4.5の結果を得た。 本科目における当該質問は、全体平均とほぼ同じまたは少し上回っているようであった。 授業内容は実習の経験を基に学生自ら事例を作成し、作成した事例を解決するための計画案を提示するものである。要は授業内容が自ら経験したことと展開していくものである。そのため自分や同じグループ内の学生と課題を見つけ出し、その課題を解決する方法を導き出す過程に満足していると思われる。今後の向上策としては、利用者の生活課題を解決する方法は、専門職の捉え方次第であり、その引き出しの多さをもつことの重要性を他の学生と一緒に議論しながら進めたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本科目における学生の受講態度は、自ら作成した事例に対し解決策を導き出す意欲的な行為がみられた。その理由は、本科目が実習の経験を基に各学生が事例を作成し、自ら事例の課題解決を行う展開が組み込まれているためと思われる。しかし、質問項目3「授業を良く編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」において、1名のみ「2」と回答していた。これは、自由記述コメントをされた学生によるものと思われ改善の余地があり、状況に応じて学生の意見を適度に反映したい。 学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法においては、全員が同じ学習効果が得られるよう努めた。具体的には課題が進まない学生に対しては、教員から学生へ個別に働きかけ、疑問点等を確認し一緒に進める場面もあった。この学習意欲は受講態度とも関連があると思われるため、今後も授業中の学生を観察し、グループ指導・個別指導の教授法を磨き改善したい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	今回は、質問3平均4.3、質問4平均4.5、質問5平均4.4の結果を得た。質問4に対するものとして全体を通してシラバスに即し、大きな変更なく授業を展開した。その結果、授業アンケートにおいてもシラバスと授業内容の整合性に関し高い評価を得ることができた。本科目の流れは実習と関連し、ある程度完成されたものでもあり次年度も引き続きシラバスに即した授業展開を心がけたい。またQ3「授業を良く編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」という項目に関して、平均4.3と他の項目と比して低くなっている。これは学生コメントにもあるように、事例の割当を検討し次年度対応したい。 受講態度が授業内容と関連があると思われるため、講義系科目での知識が豊富であると事例に対する課題解決の導き出し方も多種多様となることの意味付けを学生に働きかけたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	今回Q6～Q11の平均は4.3～4.6を得た。全体平均を下回る、もしくは同等程度であった。低位だった項目は、Q8「教科書等の使用は適切でしたか」が平均4.3であった。改善策としては、授業展開において資料が必要な場合は、次年度学生の状況をみて対応したい。またQ10「遅刻や私語への対応」の項目は平均4.3であった。遅刻者への対応は随時、口頭指導するも期待した効果は得られなかった。考えられる理由は本科目がグループ演習であるため、気が合う学生同士になると授業態度に影響すると思われる。今年度は実習内容、実習先等が重ならないようグループ編成を行った。次年度は、これに加え学年を考慮した対応を実施したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	予習復習の項目は低位であるものの、全体に対し毎授業フィードバックを適宜行ったので次年度も実施したい。加えて、学習意欲の向上と授業態度を意識したグループ編成に気をつけ、授業展開を行うことが本科目のポイントであると考えている。 今回のアンケートで頂いた評価及び自由記述の御意見を基に更に改善

項目見出し	コメント
	したい。本科目を受講する学生においては、実習後における事例検討・事例研究の意義および本質をつかんで頂くよう、グループ及び個別に対応しながら熱意をもって働きかけていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火2

科目名 食品衛生学

教員名 野村 秀一

回答者数／履修者数 52／79

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業評価は、4.4点で全体評価より2わずかに低い評価であった。毎年kの程度の評価である。学生諸君の中には、学ぶ教科の目的・目標を理解していない多数いる。このような状況下であることから満足できたかどうかという評価ができない者が多いと感じる。この教科は1年生の科目であることから、基礎学力の有無、生物・化学の知識の全くない学生が多いことも評価が高くない要因の一つであると考え。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	食品衛生学は、管理栄養士として食に関わるプロとして必要不可欠なものであり、また日常生活の中での食生活においても活用すべき知識であることを鑑みて、食品衛生の基礎的な知識と実生活における事例や事案を講義の中で提供して講義を進めることが学修意欲の向上につながると信じて講義を行ってきたが、一部の学生の学習意欲の向上は認めしたが、やはり、基礎学力の無い学生・目的意識のない学生は学習態度・学習意欲の向上は全く認められなかった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	評価は4.4であった。この項目も全体の評価値よりわずかに低かったが、項目3と項目4において評価を1とした学生がいたが、この学生はシラバスの内容等を確認したのか。評価5とした学生が多数であることから、このような学生が存在することは仕方がないことかと考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	評価は平均で4.5であった。授業の進め方においては、細菌の学生は教科書を全く見ない使用しない学生が増えてきたことから、パワーポイントを使用せず、教科書を中心として、適時必要な資料を提供して講義を進めることを初講時に説明をしており、股シラバスにその旨記載している。 項目8と9において、1・2の評価が見られた。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	この教科は食の安全・安心を書く日保するために必要不可欠な学問領域である。この学問領域の基礎となるのは、読み書きができること、生物や化学の学問領域の知識があることであるが、近年の入学生は、基礎学力欠如、学修意欲の欠如、目的意識の欠如の者が増えた。学問が成立しない状況である。今後の対応策は？

アクションプランシート

2024年度後期 金2/3

科目名 栄養生理学実習

教員名 熊井 まどか

回答者数/履修者数 24/24

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業の満足度の評価は5.0であり、昨年度とほぼ同様であった。満足度と理解度の評価に乖離があるため、実習前の導入（講義や目的・内容の説明）を丁寧に行っていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度に関わる項目の評価は、Q1 (4.1)、Q2 (4.6) であった。実習前に関連項目の講義を行い、実習の目的および内容について説明をすることで理解が深まり、実習への取組みを向上させたと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業内容に関わる項目の評価は、Q3・4は5.0、Q5は4.9であり、昨年と同様に高い評価が得られた。学生自身の体を使って観察や測定を行う内容を多く組込んだ実習を次年度も継続したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業方法に関わる項目の評価は、Q6・7・11は5.0、Q8～9は4.9であった。実習前に講義を行い、実習後のレポート返却時に解説を加える授業形式を継続し、理解度の向上を図る。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	クラスの人数が少なく、学生一人ひとりに目が行き届く実習環境であったことが、満足度の評価に繋がっていると考ええる。

アクションプランシート

2024年度後期 金4/5

科目名 栄養生理学実習

教員名 熊井 まどか

回答者数/履修者数 27/29

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する満足度の評価は4.7であり、昨年度より0.2ポイント低下した。満足度と共に理解度の向上を図るため、実習前の導入（講義や目的・内容の説明）を丁寧に行っていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度に関わる項目の評価は、Q1 (3.6)、Q2 (4.7) であった。学生自身が被験者になることで、実習に興味を持ち、受講態度の向上に繋がったと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業内容に関わる項目の評価は、Q3・4は4.9、Q5は4.7であり、昨年と同様に高い評価が得られた。学生自身の体を使って観察や測定を行う内容を多く組込むことで、興味・関心を持って実習を行う様子がうかがえた。このことから、次年度も継続したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業方法に関わる項目の評価は、Q6・10・11は4.7、Q7は4.9、Q8・9は4.8であった。評価がやや低かった「学生の授業参加を促す工夫」として、実習前の講義時に問いかけを増やすことで、授業参加だけでなく事前学習の取組みも促進されることを期待したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	クラスの人数が少なく、学生一人ひとりに目が行き届く実習環境であったことが、満足度の評価に繋がっていると考ええる。

アクションプランシート

2024年度後期 火1/2

科目名 調理学実習Ⅲ

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 21/23

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13の評価結果は4.8であった。今年度より担当者交代した科目のため、評価推移は不明である。 自由記述の中で、実習時間が1,2限で終わらない回があることへの改善を求める意見が複数あった。この点に関し、昼休みまでかかる回については学生への事前アナウンスを徹底する、また可能であれば、時間割の組み方で3限目に授業を入れないようにするなど対応を考えたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	自由記述の中で、加工食品を作るという初めての経験に対しての肯定意見が複数あった。また、動画やスライドを使用した事前の工程説明や途中の説明・補助についても分かりやすいとのことであった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3は4.6、Q4は4.7、Q5は4.8であった。今年度より担当者交代にあわせて、実習内容の組み替え等を行った。次年度は今年度と同じとし、今後の評価推移により改善が必要な場合は改善策を検討したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11は、4.8、4.7、4.5、4.6、4.7、4.8であった。今年度より担当者交代した科目のため、評価推移は不明である。「1」や「2」と回答した学生はみられず、「3」と回答した学生は1～2名であったこと、自由記述の中にQ6～Q11に関する内容は書かれていなかったことから、今後の評価推移により改善が必要な場合は改善策を検討したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度より担当者交代した科目のため、15回の実習を通して、時間のかかる回があることも分かった。加工食品を作るため時間がかかるものもあることから、学生にあらかじめその点の理解を求めることも必要であると感じた。また、実習内容の組合せも再考したい。 実習を通して、食品加工の原理や食品の特性を理解するため、復習課題の提出を評価手段・方法に入れている。これにより、1年次および2年次前期までの関連の講義科目の教科書等も再度見直すことになるため、復習にもつながり、定期試験対策にもなることから、学生には十分に取り組んでもらいたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火4/5

科目名 調理学実習Ⅲ

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 16/21

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13の評価結果は4.8であった。今年度より担当者交代した科目のため、評価推移は不明である。 自由記述の中に否定のコメントはみられなかったことから、今後の評価推移により改善が必要な場合は改善策を検討したい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	自由記述の中で、加工食品を作るという初めての経験に対しての肯定意見が複数あった。また、動画やスライドを使用した事前の工程説明や途中の説明・補助についても分かりやすいとのことであった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3～Q5はいずれも4.9であった。今年度より担当者交代にあわせて、実習内容の組み替え等を行った。次年度は今年度と同じとし、今後の評価推移により改善が必要な場合は改善策を検討したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11は、4.9、4.9、4.7、4.8、4.4、4.8であった。今年度より担当者交代した科目のため、評価推移は不明である。「1」や「2」と回答した学生はみられず、自由記述の中にQ6～Q11に関する内容は書かれていなかったことから、今後の評価推移により改善が必要な場合は改善策を検討したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	実習を通して、食品加工の原理や食品の特性を理解するため、復習課題の提出を評価手段・方法に入れている。これにより、1年次および2年次前期までの関連の講義科目の教科書等も再度見直すことになるため、復習にもつながり、定期試験対策にもなることから、学生には十分に取り組んでもらいたい。

アクションプランシート

2024年度後期 金2/3

科目名 調理学実習 II

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 24/35

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13は4.8（昨年度4.7）であった。 師範をした後に、学生が実習をすることで、調理に不慣れな学生も分かりやすいと感じてくれているようであった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	調理学実習では、調理のポイントだけでなく、食材のことや調理の理論（前期開講科目の「調理学」の内容など）を話しながら師範授業（調理から盛り付けまで）をしている。この方法はこれまでの学生にも好評であると感じている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3は4.8（昨年度4.7）、Q4は4.8（昨年度4.8）、Q5は4.9（昨年度4.8）であった。 昨年度とほぼ変わらない評価であった。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11は4.8, 4.9, 4.8, 4.5, 4.8, 4.8（昨年度は4.9, 4.8, 4.8, 4.7, 4.8, 4.8）であった。 Q9の評価が4.5と最も低く、これに関し、学生は各実習台から上部に設置してあるモニターを見ることになるが、調理学実習室のモニターが小さく画質が良くないことが考えられる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	遠隔の調理学実習において取り入れた調べ学習は、内容を再度見直して次年度以降も継続していく。また、『調理学実習 I および II』の実習内容と『調理学』の理論（実践に対応する論理的知識）を結びつけながら、常にブラッシュアップして分かりやすい授業展開に努めたい。 自由記述の中に、実習室の一か所に課題の答えを貼り出すと効率が悪いので、マナバにアップしてほしいとの意見が一件あった。これについては、第1回目の授業の際に、マナバにアップはしないことをその理由も含めて伝えている。答えには、参考する教科書のページ数も併せて記載しているため、すべての解答を書き写すのではなく、参考する教科書のページ数を控えておき、自分で再度教科書を見直すなど考

項目見出し	コメント
	えることも、今後は伝えるようにする。

アクションプランシート

2024年度後期 金4/5

科目名 調理学実習Ⅱ

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 20/33

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13は4.9（昨年度4.8）であった。 師範をした後に、学生が実習をすることで、調理に不慣れな学生も分かりやすいと感じてくれているようであった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	調理学実習では、調理のポイントだけでなく、食材のことや調理の理論（前期開講科目の「調理学」の内容など）を話しながら師範授業（調理から盛り付けまで）をしている。この方法はこれまでの学生にも好評であると感じている。自由記述の中で、実習なため実技はもちろん、師範中の座学で学んだことを復習したり、新しい知識を話しながら作業しているところが良いと思いました。調理技術や栄養について学ぶことができて良いです。入ってくる情報量が多いですが、それ以上に学べることが多くありとても楽しいです。といった肯定的な意見が複数あがっていた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3は4.8（昨年度4.8）、Q4は4.9（昨年度4.8）、Q5は5.0（昨年度4.9）であった。 昨年度とほぼ変わらない評価であった。 自由記述の中で、計量する際に班に計量器が一つしかないため、調味料のところに計量器を置いてほしいとの意見があり、次年度は置くようにする。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11は4.8, 4.8, 4.8, 4.7, 4.9, 4.8（昨年度は4.8, 4.9, 4.9, 4.6, 4.7, 4.8）であった。 Q9の評価が4.7と最も低く、これに関し、学生は各実習台から上部に設置してあるモニターを見ることがになるが、調理学実習室のモニターが小さく画質が良くないことが考えられる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	遠隔の調理学実習において取り入れた調べ学習は、内容を再度見直して次年度以降も継続していく。また、『調理学実習ⅠおよびⅡ』の実習内容と『調理学』の理論（実践に対応する論理的知識）を結びつけながら、常にブラッシュアップして分かりやすい授業展開に努めたい。 なお、自由記述の中に、アレルギーが多くて何も食べられない日がある子もいるので、実習費をみんなと同じ額払っている分、別メニューなどを作るなどもう少し配慮をお願いしたいです。との意見があった。これに関しては、調理学実習は調理の理論を基に調理技術を学び、身に付けることが主な目的である。第1回目の授業の際に、教員側も学生の食物アレルギーについて把握して安全に実習を行うためにアン

項目見出し	コメント
	ケートをとっている。また、初回に15回の実習内容や献立を記載した実習書を配布しており、学生は事前に使用する食材を把握することができる。そして、毎年食物アレルギーを有する学生が数名いるので、出来るだけ代替の食材を用意する（例えば、メニューにエビチリがあり、エビアレルギーの場合は鶏肉をこちらで用意し、それを使用して学生は調理をするなど）対応を取っているが、1回の献立に、複数の食物アレルギーがある場合には個別対応はできない場合があり、当該学生にはその旨を伝えている。調理学実習で使用する食材は、一般的な食材であり、将来管理栄養士として食に携わる場合、学生自身は食物アレルギーの食材であっても、献立に使用する可能性は高いと思われる。そのため、調理技術を学ぶことは必要であり、試食できなくてもその食材費や水道光熱費はかかる。例えば、魚のアレルギーがある（だし汁もNG）学生は、大学で用意した使い捨て手袋を使用して実習した。したがって、実習費はかかることをご理解いただきたいと思います。調理した料理を試食し、味や食感を確認することも必要であるが、作り方を学び、実習書を配布しているので自宅で別の食材に代替して調理して試食してみることもできるのではないかと考えています。調理を伴う実習科目は、2年次以降もあるので、この意見・内容については、学科内の教員に共有したい。今後も引き続き、安全安心な調理に努めていきたいと考える。

アクションプランシート

2024年度後期 金1

科目名 臨床栄養管理学Ⅱ

教員名 林 俊介

回答者数／履修者数 42／49

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本年度は4.7(A・Bクラス)の評価だった。昨年度4.6/4.5 (A/Bクラス)、一昨年度(4.2/4.6)、3年前(4.5/4.6)で、ここ数年間は安定した評価であった。 本科目は臨床栄養分野の学修の最初の科目となる。これまでの基礎科目での学修とこれからの実践科目や臨地実習へ繋がる学修としてこの科目は、重要である。現場での実践がより理解できるような教材や話題を提供し、将来管理栄養士として様々な分野で活躍できるよう意識付けを出来るような授業展開を心掛けている。これらの授業での取り組みが満足度の向上に繋がると考えている。 昨年度より、課題レポートの内容を見直しして、より学習者自らが調べ学修に取り組むようなものにすることで、この科目の学修への興味を高め、気付きを促し、能動的な学修に繋がるようにしたことが本科目への満足度の向上に寄与したと考えている。安定した授業の満足度の評価スコアを維持している。 今回の授業アンケートのコメントは、「大切なポイントを押さえながら授業を進めてくださるのが分かるため、振り返りの時にどこを見るべきかが分かりやすいです。また、疑問に思ったことを出席カードに書けますし、回答もmanabaですて頂けるのでより理解が深まっているように感じます。」などである。 Manabaを活用し、授業で使った映像を後から見られるようにしたり、質問への回答、補足の説明や資料の提示、関連するサイトの紹介を丁寧にし、学生の授業の復習や課題レポート作成に役立つよう作成している。課題としては、授業後の復習にmanabaを全く閲覧しない層へのアプローチと考えている。これらの取り組みが満足度の向上に繋がっていくと考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	この科目は、臨床栄養分野での疾患と栄養管理、食事や食事療法の基本を学修するものであるため、基礎科目での学修内容を適時振り返りつつ、常に実践的授業になるように配慮している。授業の中では、実際に臨床現場で使われる各種の栄養剤や治療用特殊食品などを多様な教材を多数提示している。また疾患に関する様々なニュースやテレビ番組の映像、新聞記事などを教材として使用し、実際の患者や治療に関する話を話題にし、イメージが湧くように授業展開をしている。これらは、学生の授業への興味関心を高め、受講態度と学習意欲の向上に寄与しているものと考えられる。 学生が授業に集中し、飽きがこないようにアクティブラーニングの手法を用いた学修展開を行っている。授業の始めに出席カード(リフレクションカード)を使用し、本時の授業内容に関する基礎科目での学修、前時の復習、事前の予習などの確認をするようにしている。学生の授業への参加度を高めるため、発問に対する考察と短いディスカッションを取り入れるようにし、考える力を養うよう授業展開を意識して行っている。また授業で紹介した栄養剤や減塩食品などの様々な製品を手にとらせ、実物を体感できるようにしている。 自由記述でも「言葉の意味を1つ1つ理解させてくださり、実際の事例や動画が活用されておりとても分かりやすい授業でした。」「林先生の授業では毎授業生徒に質問を投げかけたり、授業後、manabaで質問の生徒からの質問の回答を行っていたり熱意を感じる授業であった。」「減塩食などの実物を見せてくれるので分かりやすい。」などのコメントも多数あった。 本年度は、問題なく対面授業と定期試験(筆記)を実施でき、Manabaを利用した課題レポートを実施した。これまでも「調べ学修」に繋がるようにし、授業時間内では時間を掛けて出来なかった内容などを後から自分で調べ、自らの経験と照らし合わせ、考えることが出来、更にこの科目の学修を深めることに繋げるようにしている。授業で学修している各疾患について、身近にそれらの疾患の患者がいる

項目見出し	コメント
	場合は、許可を取り、配慮しながらインタビューをしてみることを行っている。直接患者から話を聞くことで、病気の大変さ、管理栄養士の必要性などが深く理解できたとレポートには多数感想があった。それらにより管理栄養士を目指す学修意欲が更に向上したことが分かる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	本年度 質問3(4.8) 質問4(4.8) 質問5(4.8) R5年度 質問3(4.8/4.2) 質問4(4.7/4.7) 質問5(4.7/4.5) R4年度 質問3(4.1/4.7) 質問4(4.5/4.9) 質問5(4.3/4.7) R3年度 質問3(4.5/4.6) 質問4(4.7/4.8) 質問5(4.5/4.6) 質問3, 4, 5は、授業評価のスコアは維持できた。学修内容はモデルコアカリキュラム及び管理栄養士国家試験の出題基準を基に、同時に履修する臨床栄養管理学Ⅰや3年次の臨床栄養管理学Ⅲなどの学修内容と調整してシラバスを作成している。2年次で学修する内容について、当該学年として適切なレベルでの様々な疾患等についての学修になるようにしていきたいと考えている。1つ1つの疾患について、他の科目での学修状況などを踏まえた構成としている。内容についても、各疾患(生活習慣病、依存症、感染症など)を扱う中で、長崎県や学生自身の出身地の疾病構造や食習慣の地域性や実際に発生した災害時の対応、社会の変化、その病気を患った有名人の話などを動画教材も用いて、授業を行う様にしている。 自由記述では、「動画やまとめプリントから授業の内容の理解を深めることができた。」「疾患ごとに関連のニュースや動画を見せてくださった、実物の食品を目で見え触れることができるのですごく理解しやすい。」などのコメントがあった。また、スーパーなどに行き、それらの製品が実際にどのように販売されているかを見てくるように指示している。 学習内容が自身の身の回りのことと繋がりを持って理解することができるよう授業内容に合わせ展開したことで興味関心を高めることが出来たと思われる。卒業生からも「先生の臨床の授業のプリントなどは取っておいて、今でも時々見直して、仕事しています。」と言われることもある。今後、更に学生の興味・関心を高められるように授業教材の作成と更新を常に行い、学修内容を考えていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	本年度 質問6(4.7) 質問7(4.8) 質問8(4.9) 質問9(4.9) 質問10(4.7) 質問11(4.8) R5年度 質問6(4.6/4.3) 質問7(4.7/4.9) 質問8(4.7/4.5) 質問9(4.8/4.6) 質問10(4.8/4.7) 質問11(4.8/4.6) R4年度 質問6(3.6/4.4) 質問7(4.5/4.9) 質問8(4.6/4.8) 質問9(4.3/4.9) 質問10(4.4/4.8) 質問11(4.1/4.8) 質問6, 7, 8, 9, 10, 11は、授業評価のスコアは、若干向上することができた。 授業で示した実製品は、2年生の段階で臨床栄養の分野で使用されるこれらの製品を見て、手に取って観察することで非常に学生の興味関心を高めることが出来ている。 出席カード(リフレクションカード)にあった質問等は、授業後にマンバ上で回答したり、次の授業で説明したりし、質問等には可能な限り丁寧に対応した。自由記述では、「林先生の授業では毎授業生徒に質問を投げかけたり、授業後、manabaで質問の生徒からの質問の回答を行っていたり熱意を感じる授業であった。」とのコメントもあった。 授業の質の担保に努めたことで高い評価を得ることにつながったと考えている。 各疾患にまつわる時事のニュースや人物の話題などの引用や適切な教材の提示と授業展開ができていていると考えている。授業の中でこれらの教材を上手に取り入れ、無駄なく分かりやすく、印象に残るような効果的な学修が出来ている。 基本的なことであるが、本時の学修でどこが大事なのか、覚えるべきことが何なのかを丁寧に伝えることが授業の改善に繋がると今回のア

項目見出し	コメント
	ンケートのコメントを見ても分かる。しかし、自由記述では、「栄養食品などを学生同士で回す際、後ろの人が遠くて立つことが多いので座席指定などして欲しいです。」、「他の学生が喋っていて、聞こえない時があったりしました。」とのコメントもあった。食品のサンプル等を回して手に取って見られるようにする際は、前の方に詰めて座るように指示を出す、どうしても間が空いてしまう。本年度は、1つのクラスでの授業実施であったため教室の広さと履修者数のバランス、私語対応などに課題を感じる。授業方法は常に改善に取り組み、受講者に受け入れられるように務めたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回の授業アンケートは、A・Bクラス合同での授業実施であったが、これまでと同等の高い評価を得られた。 これまでもmanabaを利用し、予習・復習に役立つよう学修を促進するように実践してきた。様々な授業展開の工夫に取り組み、コロナ禍の困難な状況の中、学生に興味を持って授業に参加してもらえるような形を作り上げることが出来たと思われる。また、一方的な授業にならないよう双方向性のある授業になるよう心がけたことが奏効していると思う。 2年生の段階としては臨床や様々な疾患に対して、まだ実感、身近なこととして感じられないが、課題レポートなどを通して、より臨床場面で、管理栄養士がどのように求められているのかが実感できるような調べ学修に取り組ませた。レポートの感想にもしっかり取り組んだ受講者からは、「管理栄養士がどの様に必要とされているかが初めて分かった。」、「栄養指導の際に、患者にどの様な接し方をすればよいか考えさせられた。」など、臨床栄養で、まずは、学生に学んで欲しいこと、感じて欲しいことを伝えることができた。 4月からは、この学年を前期に3科目講義と実習を行うので、これらのコメント、評価を参考に、学生の状況を踏まえた授業展開を考えていきたい。 質問1の項目は、今回は(3.9)、昨年(4.2/3.9)、一昨年(3.9/3.9)、R3年(3.8/3.5)であり、授業に対する事前の取り組みは改善しているようであるが、予習・復習、これまでの授業での知識の定着が十分でないと思われることが少なくない。授業への取り組みや予習・復習など自己学修を更に促すような学修支援・指導をしていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 栄養学応用演習Ⅱ

教員名 廣田 昌彦

回答者数／履修者数 8／8

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に求めるものは学生それぞれで違うはずなので、すべての学生に満足してもらうのは、よっぽどのがないかぎり無理だと思います。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	理解がむずかしいと教員が考えるテーマを選んで少し解説した後、そのテーマに関する過去の国家試験問題を解きながら、さらに解説を加えるというスタイルをとりました。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	話がへたなので、普通に授業をしていてはダメだと自覚しています。準備をして授業には望んでいます。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	話し方が明瞭でない、熱意が感じられない、というのは、そのとおりだと思います。改善策というのは、上段に記載したことがらになると思いますが、もともと話が上手ではないものにとっては、なかなかむずかしいことになります。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	いつもびくびくしながら授業アンケート評価を受けています。当事者（教員）の関与がない形でやっていただければありがたいです。その方が学生も書きやすいのではないのでしょうか？

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 応用栄養学Ⅱ

教員名 松尾 嘉代子

回答者数／履修者数 47／53

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する満足度は、例年と変わらず、受講生がおおむね満足できている結果となっている。また、全体平均よりも高い結果となっているため、今後も高評価を得られるように精進していきたい。 特に、自由記述では、授業の内容に対する肯定的な意見がほとんどで、難しい内容でも頭に入って来やすかったという意見もあり、教員としても今後の授業展開のモチベーションに繋がるものであった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回、授業開始前に予習・復習問題の小テストを実施しており、そのことが授業に臨む際のモチベーション向上に寄与できていると考える。また、小テストの解説を行う際に、前回の授業内容の振り返りや、本日の授業の重要ポイントを説明しているので、学生の学習内容の整理にも役に立っていると考えます。 さらに、学生の集中力が高まるよう、座席はこちらで指定して、友人との私語が出来ない環境を作ることの意図的に作ったが、そのことが学習しやすい環境となっているとの評価もあったので、今後も継続していきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスの内容に沿って、学生が予習復習しやすいように授業を進めているので、分かりやすい授業になっていると考える。シラバスを変更する場合は、事前に予告しているので、学生も対応できているようである。 毎回、授業終了時に授業に対する意見をレスポンスで確認し、出来る限り要望等には応えるように対応している。今後も、学生が興味を持って取り組める授業となるよう、毎回の学生の意見を大切に授業改善に努めていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	おおむね好評であるため、今後も、授業の教材等の工夫を行っていききたい。特に、今回は教科書の図表について理解しやすいように、一部、スライドを活用して説明を行った。その方が学生は教科書やノートに記入できるのでさらに理解が深まっているようである。 また、今年度は教員を対象にした授業公開を行ったが、参加者アンケートで、教材の活用や学生がアクティブラーニングについて工夫されている授業であるとの意見をいただいたので、大変自身に繋がる内容であった。今後も、授業の質向上に尽力していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は、1学年全員を対象にした授業だったので、クラススケールが大きくなり、個別対応が難しい運営であったが、座席指定や毎回の小テストの実施、授業後のレスポンスで学生の意見を徴収することなどで、学生の理解度に合わせた授業運営ができたと考えます。 今後も、様々なツールを活用し、充実した授業運営を行っていききたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 臨床栄養管理学Ⅰ

教員名 山口 留美

回答者数／履修者数 40／48

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	臨床現場における管理栄養士の役割など、実践系の内容に興味を持った学生が多かったようで、概ね良好の結果となったと思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業開始時に、前回の授業内容を時間をかけ復習させ、理解を深め次のステップに進むことを昨年度より強化した。また、質問やもう一度説明して欲しいことなどは、マナバのレスポンス機能を利用し、人目を気にすることなく提出できるようにした。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	基礎系科目が十分理解できていない学生にとっては、難しく感じたかもしれない。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	配布資料に関しては、学習に必要なものは配布し、参考資料等としてスライドに示すものは配布していない。そのことについては学生にもその都度説明はしているため、大きな問題ではないと考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概ね良好の結果であったと思うが、予習復習のポイントがなかなか上がらないため改善策を考えていく必要があると思う。また、居眠り防止のために、補足説明を学生自身で記入をさせる時間を設けており、全員の書き込み終了確認後に次に進めているつもりであるが、再度確認する必要があるのかもしれないと感じたため、今後改善方法を考える。

アクションプランシート

2024年度後期 金1/2

科目名 臨床栄養管理実習

教員名 山口 留美

回答者数/履修者数 33/38

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	概ね良好な結果となった。初めての臨地実習経験をした時期にあたるので、より興味がわいたのではないかなと思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	これまでの知識を、症例を通し再確認していく方法をとったため、自分の知識が不足している点などが把握できたのではないかなと思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	特に大きな問題点はないと考える。臨床に興味がない学生にとっても4年時の臨地実習では必ず必要になる内容であるため、きちんと理解をさせていきたいと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	私語に関しては、実習中にグループディスカッションをさせているため、その中での私語であれば、見回りを強化していく必要があると考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	満足度に関しては良好であったともう。ただ、ディスカッションで発言できる学生とそうでない学生がはっきりと分かれていたため、発言者を指名する方法などで、全員が積極的に参加できるよう工夫をしていきたいと考える。

アクションプランシート

2024年度後期 金4/5

科目名 臨床栄養管理実習

教員名 山口 留美

回答者数/履修者数 22/23

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	概ね良好な結果であった。学外でに実習等を経験し、実際の管理栄養士の役割等を少し学んだことで興味が出たのではないかと感じる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	症例を通してこれまでの座学でに各論を振り返り、自分の言葉で発言することで、色々な観点から必要な知識を得られ、また不足している点を確認することができたと思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	特に大きな問題点はないと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	グループディスカッションの中で、発言が少ない学生やディスカッションを活発に行っていないグループもあったため、今後は話し合いに入っていき、活発な討議が行われるよう促していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	良好な結果であったと思う。どのような職場で働いても自分の意見をきちんと伝えることは重要であるため、発言しやすい雰囲気、他者の意見をきちんと聞ける態度など学生に伝えていきたいと考える。

アクションプランシート

2024年度後期 水3

科目名 スポーツ栄養学

教員名 小田 和人

回答者数／履修者数 6／7

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味を持てる授業を行うよう努力する。個々の理解度を細かく把握するため、manabaを上手く活用し、質問や疑問に回答した。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎授業後、確認問題やアンケートをmanabaにて実施し、理解度の確認を行い、再度その分野のポイントについて説明を行ったこと。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスに沿った流れで授業を進めたが、内容が難しいところもあるため、もっとかみ砕いた説明が必要だと感じた。一般を対象とした健康増進に対する内容や、マネージャーからみたサポートの仕方について幅広く説明していく。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	学生がより授業に参加できるよう、身近な学生と考える時間を増やしたが、私語も増えてしまったことから、注意して授業を進めたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大半が満足していたが、より多くの学生に受けて良かったと思わせる授業ができるように心がけたい。

アクションプランシート

2024年度後期 金2

科目名 スポーツ栄養学

教員名 小田 和人

回答者数／履修者数 85／100

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。個々の理解度を細かく把握し、学生からの質問や意見に応える時間をもっと取るように心がける。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	シラバスの流れに従って講義を行ったこと。毎授業後、確認問題やアンケートをmanabaや配布資料にて実施し、理解度の確認を行い、再度その分野のポイントについて説明を行ったこと。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	学生たちに興味をもってもらうためには、アスリートやスポーツをしている学生だけでなく、非アスリートの健康増進のための内容や、指導者およびマネージャーからみたサポートの仕方について幅広くする説明する必要があると感じた。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	内容が難しいところもあるため、もっとかみ砕いた説明が必要だと感じた。理解度を高めるために、復習だけでなく、事前の予習も徹底して指導する必要があると感じた。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大半が満足していたが、より多くの学生に受けて良かったと思わせる授業ができるように心がけたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月5

科目名 生化学
教員名 川内 美樹
回答者数／履修者数 34／42

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	質問13の平均点は4.8であった。昨年度が4.6だったので0.2ポイント増加していた。コメント欄を見ると、「わかりやすかった」や「勉強しやすかった」とコメントが多く、またプリントの予習、ノート、教科書を使用することで、学生がすべきことをはっきりさせ学習意欲につながったのではないと思う。また、今年度は2クラスで実施したことで少人数クラスであったのも大きかったと思われる。ただ、昨年同様授業についてきていない学生のコメントも見受けられ、学生のレベルの低下もうかがえる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業態度の評価は昨年より増加しており4.6であった。上記にも記載の通り昨年同様事前に予習プリントを配布し予習ノートを作った上で授業に参加するように指導したが、予習をしない学生は一定数おり、準備学習の評価があまり変わらなかったことは残念に思われる。コメント欄を見ても、「予習プリントがあるので授業がスムーズにわかる」や「ノート、プリント、教科書を利用することで知識が身につくやすい」という意見があることから、この点は受講態度や学習意欲の向上につながったと考えるが、やはり授業について来られない学生の意欲を維持させることが難しい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3および4に関しては、平均点が4.8と昨年度より増加し、質問5の興味に関する質問も平均点が4.7と昨年より増加していた。プリントで自己学習の機会を設けたことやクラスの雰囲気合わせた授業を心がけることで授業の理解度も上がり、全体的に高いポイントであったと思われる。また、パワーポイントだけの授業ではなくホワイトボードを使って説明を丁寧にすることも学生には高評価であった。例年の課題であった、質問5の「興味を持った」学生が上昇していたので良かったと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6から11に関する項目は、全て平均点が4.7以上と高評価で大変良かったと思う。この結果やコメント欄より、なるべくわかりやすい言葉で丁寧に説明することで、学生もノート作成しやすく、理解しやすいように感じる。「授業内容をまとめて書いてくれるのでとてもわかりやすい。また、プリントと教科書にマーカーを引いてくれるのでテスト前の勉強がしやすい」というコメントもあり、授業をする側としては大変嬉しく感じた。色々な角度から教えていくことが今の学生には必要である。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は昨年と異なり2クラスでの開講であったため、少人数クラスで授業をすることができた。こちらのクラスは再履修の学生も多く、単位が取れるよう頑張ってもらいたい。また今まで学生に評判のよかった予習プリントの配布やノート作成を引き続き導入した方法で実施できた。しかし、質問1の予習の項目が相変わらず低いままで、予習をする学生としない学生の学力差は顕著に出ているように感じる。生化学の授業内容は高校生物の延長のような科目で、また食品学や解剖生理学といった科目でも何度も耳にしている内容にも関わらず、コメント欄を見るとやはりまだ理解できていない学生が一定数いて、難しいと感じていることがわかる。来年度の栄養代謝学は、さらに内容が難しくなり理解する内容も増えるので、より良い予習のあり方を検討し

項目見出し	コメント
	て確実に勉強できるように指導していきたい。小テストを実施しても学力差が大きく、下位の学生をどのように指導していくべきなのか学科全体で検討が必要である。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 生化学
教員名 川内 美樹
回答者数／履修者数 32／34

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	質問13の平均点は4.7であった。もう一つのクラスは4.8であったので0.1ポイント低かったが、昨年度が4.6だったので0.1ポイント増加していた。コメント欄を見ると、こちらのクラスでも「わかりやすかった」や「復習しやすかった」とコメントが多く、またプリントの予習、ノート、教科書を使用することで、学生がすべきことをはっきりさせ学習意欲につながったのではないかと思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業態度の評価はもう一つのクラスと同じ4.6であった。上記にも記載の通り昨年同様事前に予習プリントを配布し予習ノートを作った上で授業に参加するように指導したが、予習を全くしないと答える学生は一定数おり、準備学習の評価が低いことが残念である。年々本学科の学生は授業外学修時間の低下が問題になっているが、きちんと実施している学生はコメント欄を見ても、「予習プリントがあるので授業がスムーズにわかる」や「ノート、プリント、教科書を利用することで知識が身につくやすい」という意見があり、授業外学修時間をきちんと確保できる学生が成績上位であると思われる。離学防止のためにも1年生のうちから授業外学修時間の重要性を教える必要性を感じる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3に関しては平均点が4.8ともう一つのクラスと同じであったが、質問4、5の質問は平均点が4.6と低かった。プリントで自己学習の機会を設けたことやクラスの雰囲気に合わせて授業を心がけることで授業の理解度も上がり、全体的に高いポイントであったと思われる。また、パワーポイントだけの授業ではなくホワイトボードを使って説明を丁寧にすることも学生には高評価であった。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6から11に関する項目は、もう一つのクラスよりは低かったが全て平均点が4.6以上と高評価で大変良かったと思う。この結果やコメント欄より、なるべくわかりやすい言葉で丁寧に説明することで、学生もノート作成しやすく、理解しやすいように感じる。試験の結果からは、しっかり勉強できている学生と勉強していない学生の差が大きく、同じ授業でも結果を出すのは難しいところである。年々学生の学力低下を目の当たりにしてきて、1年生のうちから授業に興味を持たせ、積極的に授業に参加してもらうことの重要性を伝えていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は昨年と異なり2クラスでの開講であったため、少人数クラスで授業をすることができた。こちらのクラスは1限目だったので、欠席者が多かったのが残念な点である。こちらのクラスでも学生に評判のよかった予習プリントの配布やノート作成を引き続き導入した方法で実施できた。しかし、質問1の予習の項目が相変わらず低いままで、予習をする学生としない学生の学力差は顕著に出ているように感じる。コメント欄を見ると理解できないや難しいと答える学生はいなかったが、試験の結果から全く理解していない学生がいることがわかる。来年度の栄養代謝学は、さらに内容が難しくなり理解する内容も増えるので、このまま2クラスでの実施で、より良い予習のあり方を検討

項目見出し	コメント
	討して確実に勉強できるように指導していきたい。小テストを実施しても学力差が大きく、下位の学生をどのように指導していくべきなのか学科全体で検討が必要である。

アクションプランシート

2024年度後期 月2

科目名 公衆栄養学Ⅱ

教員名 川野 香織

回答者数／履修者数 26／30

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本年度から担当した科目のため、評価推移を明示することはできなかったが、満足度評価は全体平均と同程度であった。また、自由記載では比較的良好な評価が多く見られたため、初めて担当した科目としては特に問題はなかったと考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教科書だけでなく、スライド資料を補足資料として配布したことで、学生の理解が一層深まったと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業への興味について、全体平均よりも低い評価を受けたため、学生の関心を高める工夫が必要であると考え。具体的には、授業内容の工夫として、実際の事例や学生が日常生活に関わる話題を多く取り入れることで、内容をより身近で興味深いものにする。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	配布資料に関して、『数回前の資料を使用していて、どこを指しているか分かりにくい』という記載があったため、学生が混乱しないよう改善を行いたいと考える。具体的には、授業内で使用する資料を整理し、必要に応じて直近の内容を再掲することで、学生が内容を容易に追跡できるようにする。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的によい評価を受けたと考えるが、満足度に比べて授業内容の理解度が低かったため、次年度以降、次に改善策を実施したいと考える。難易度の見直しとして、学生の理解度に応じて内容の調整を行ったり、補足資料の強化として、学生からの質問などを受け付け、授業中にカバーできなかった部分を補うため、スライド資料や補足教材を充実させる。これらの取り組みを通じて、授業内容の理解度を高められるよう努めていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木2

科目名 公衆栄養学Ⅱ

教員名 川野 香織

回答者数／履修者数 23／23

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本年度から担当した科目のため、評価推移を示すことはできなかったものの、満足度評価は全体平均を上回る結果となった。また、自由記載では比較的良好な評価が多く見受けられたことから、初めて担当した科目として特に大きな問題はなかったと考える。」
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教科書だけでなく、スライド資料を補足資料として配布したことで、学生の理解が一層深まったと考えられる。また、授業後には学生からの質問を積極的に受け付け、それに対してタイムリーに回答したことも理解の促進に繋がったと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	特に大きな問題は見られなかったと考えるため、今後も現在の授業内容や取り組みを継続しつつ、さらに学生の学習効果を高めるための工夫を加えていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	特に大きな問題は見られなかったと考えるため、今後も現在の授業内容や取り組みを継続しつつ、さらに学生の学習効果を高めるための工夫を加えていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的によい評価を受けたと考えるが、満足度に比べて授業内容の理解度が低かったため、次年度以降、次に改善策を実施したいと考える。難易度の見直しとして、学生の理解度に応じて内容の調整を行ったり、補足資料の強化として、学生からの質問などを受け付け、授業中にカバーできなかった部分を補うため、スライド資料や補足教材を充実させる。これらの取り組みを通じて、授業内容の理解度を高められるよう努めていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月1

科目名 栄養教育論Ⅰ

教員名 高江洲 有沙

回答者数／履修者数 41／48

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	今年度から担当した科目であったが、満足度は平均4.5と概ね満足いただけたと思う。知識を得ることが中心の講義であるため説明は多いが、3年次の栄養教育論実習ではそれらを理解した上での実習となることから、このことを理解して授業に望んでももらいたいと考えている。今後は学生の理解度を確認しつつ、学生自ら考える時間を設けながら授業を展開していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎授業開始時に記述式の小テストを実施したが、しっかりと復習し理解しておかなければ解けない問題を作成し、難しかったとのコメントから解けない学生が多かったが、次は解けるようにと前向きに復習をして授業後半には点数が上がり頑張っていた学生もいた。復習することで勉強習慣の大切さを実感し、学習意欲向上につながった学生もいたことから、今後も知識だけでなく、自ら学ぶ姿勢を身につけられるような授業展開と学生の理解度を確認する小テスト等を実施していきたいと考えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業は教科書を基本として進め、不足する内容や説明は別途、配布したプリントで実施した。初年度であったため、どこまで学生が理解できているのか小テストやレポート課題、授業態度を見ながら手探りで実施したが概ねよい回答をいただけたと感じている。授業構成は教科書を基本とした展開は変えずに、時間配分や学生の考える時間を取り入れた内容を検討していきたい。また、本科目は必須科目であるため興味がありわからない学生がいたのは残念であるが、3年次の栄養教育論実習につながるだけでなく、卒業後の実践的な内容につながっていることも説明していきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	各項目において平均4以上の評価をいただけたのは良かったと感じている。使用する教材（スライド、配布資料）に関しては低い傾向であったため、次年度以降は配布資料の表記内容を検討していきたいと考えている。また、学生が理解しやすいような例を学生の反応を見ながら変えていたので話し方の明瞭が気になる学生がいたのではないかなと思う。そして、遅刻や私語の対応や授業参加を促す工夫については、教室の後ろの座席に集中して座っていたため対応に時間がかかったことも考えられる。今後は、可能な限り前方の座席への誘導とともに、教員からの問いかけも積極的に実施していきたいと考えている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度から受け持った科目で、配布プリント作成に時間を要したため、授業内の説明不足部分もあったように感じた。今後は、プリント内容の充実とともに学生が復習しやすいように作成し、学生の取り組む姿勢を注視しながらすすめていきたいと考えている。また、授業後に質問に来る学生が少なく、理解度を図るのは小テストとレポートのみであったため、理解度確認の方法も検討していきたい。 本科目は、管理栄養士資格取得のための必須科目であり、就職後の個別栄養指導や集団栄養教育を行う際に最低限必要な知識を身につける科目である。苦手意識のある学生も居る様子であったが、現場での活用例などもうまく取り入れながら授業を展開していきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 金3

科目名 国際栄養論
教員名 高江洲 有沙
回答者数／履修者数 8／9

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は平均4.6と概ね満足いただけたと思う。回答率88.9%は欠席者の未回答が影響している。昨年度は希望者がおらず不開講であったが、一昨年度と同様の満足度で、グループワークや動画を活用した授業展開ができたと考えられる。次年度も最新の国際的な健康や栄養に関する情報を用いながら授業展開していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	グループワークの回数を増やしつつ、学生の取り組み状況に合わせた授業展開を行った。学生同士で積極的な発言や考えている様子も見られ、学生の取り組み状況合わせ学習意欲の向上に繋がったと思われる。また、適宜、動画を活用した視覚的な学習も取り入れることで、興味を持ってもらえたと考えている。今後も学生の状況も見ながら進めていきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	各項目、概ね良好な回答をいただけたと思う。国際的な取り組みを理解するためには多角的な視点が必要となるため、なるべく最新の情報を取り入れて興味関心を持ってもらえるような内容と学生自らが課題（問題）に対する自分なりの考えを発言できるようになるために、グループワークも適宜、取り入れたことが今回の評価につながったと考えている。今後も同様に続けていきたいと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	各項目、概ね良好な回答をいただけたと思う。自分たちで考えて進行してもらうワークを多く取り入れたため、指示が明瞭でないところがあったかと思う。今後は、話し方や授業参加を促すような発言をしっかりと伝えていきたい。また、配布プリントなどの教材も最新情報を常に取り入れながら、改良していきたいと考えている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年度は国際的な栄養に興味のある学生がいなかったため、不開講となったが今年度開講できて安堵した。海外では栄養学の専門的な知識はもちろんのこと、自らの考えをしっかりともち、また、相手に伝える力も求められている。そのため、授業では国際情勢や最新の健康・栄養情報を取り入れながら、日本での取り組みと比較したりして、自らの位置を客観的にみることや、立場や環境の異なる人々からの視点はどうか、考えるきっかけをつくるような授業展開にしている。今後は、自らが海外に行くことが無くともグローバル化が進んでいる今、日本に住む外国人が増えている中で、異文化理解をして上での栄養教育を行う場面が想定されることから、海外を身近に感じてもらえたらと思っている。また、地球規模で健

項目見出し	コメント
	康・栄養・食の課題を解決していくことがスタンダードな考え方となっているため、このことを念頭において次年度も授業を進めていきたいと考えている。 さらに、今年度は本学卒業生で、JICA海外協力隊で海外在住の栄養士隊員とのオンライン座談会を実施できたことから、学生は海外を身近に感じることができた様子が見られたため、今後も海外で活動する方の講話等も取り入れていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 食品学Ⅱ

教員名 藤井 俊輔

回答者数／履修者数 70／79

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本講義の満足度は4.7ポイントであり、ほぼ例年通りの結果であった。これ以上、満足度の大きな上昇は見込めないものの、1年生を対象とした科目であることから、学生の興味を引くようなトピックスを随時取り入れ、満足度の向上のみではなく、理解度の向上を含めた工夫を継続したい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度については、4.2～4.4ポイントであり平均的な結果であった。改善の余地は大いにあると考えられる。今後は、学生の発言の頻度を増やしたり、講義内容に関連したトピックスなどをこれまで以上に多く取り入れ、学生が集中して講義に取り組むことができるような環境を提供できるよう、改善を行いたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	講義内容に関しては、4.6～4.7ポイントと例年通りの結果であった。これ以上の大きなポイント数の上昇は見込めないが、講義内容をこれまで以上に精査し、内容の取捨選択を行い、学生の理解度と共に向上させていきたいと考えている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	本項目については4.6～4.8ポイントであり、ほぼ例年通りの結果であった。自由記述欄においても、本項目に関するネガティブなコメントは見られなかったため、話し方の明瞭さ、熱意、配布資料の見やすさ等に関しては3以下の評価をつけた学生から具体的に、どのような点が悪かったのかアンケートを取れるのであれば取りたい。大多数が5または4の評価をしているため、なかなか改善点を見つけることが困難であるため、今後、そのような取り組みも実施して頂ければと感じている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本講義は学科の必修科目の中で最も受講者数が多い。その中で4.7ポイントの満足度を得られていることは、特筆すべき点ではないかと感じている。また、自由記述においてもほぼすべてが、ポジティブな意見で占められていた。 一方で、学生の学力や理解力が著しく低下していることも事実であるため、どのように説明すれば伝わり、理解を促すことができるのかを、今後はより模索する必要があると感じている。 総じて高い評価を得ることができているため、これ以上の改善点については自己分析では改善することが難しいと感じるため、先述したように3以下の評価に関しては具体的にどのような点に改善点があるのかを具体的に記入してもらうことで、私のみならず、全体として講

項目見出し	コメント
	義に対する需要と供給のミスマッチが無くなるのではないかと考えている。

アクションプランシート

2024年度後期 月2

科目名 公衆衛生学Ⅰ

教員名 宮原 恵子

回答者数／履修者数 55／69

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	昨年度に比べ0.1ポイント上昇した。他の項目の結果も昨年度より平均ポイントが上昇した項目が多く、総合的に改善したと考えられる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本年度はこれまでと比べ、具体例をふまえた口頭や板書での説明の時間を増やすことを意識し、授業の構成を検討した。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	いずれの項目も昨年度に比べポイントが上昇した。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	いずれの項目も昨年度に比べポイントが上昇した。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	回答率が8割程度であること、自由記述は肯定的なコメントのみであったこと、昨年度と比べると全体的に基準が「3」から「4」に上がっているような印象を受けることなどのやや気になる点はあるが、ポイントだけでみると、全体的に改善がみられた。クラス内の個人差は大きかったが、授業態度にも違いを感じたため、アンケートの回答にも関連があるように思う。

アクションプランシート

2024年度後期 木3

科目名 基礎栄養学

教員名 吉村 亮二

回答者数／履修者数 62／71

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	不満を感じている学生はほとんどおらず、評価は4.4でした。図解に力を入れた授業展開としているが、それが分かりやすいと感じる学生が多かったことのこの結果に繋がっていると思います。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	図解に力を入れた授業展開としているが、それが分かりやすいと感じる学生が多かったことのこの結果に繋がっていると思います。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	不満を感じている学生はほとんどおらず、身近な事象への例え話も学生に受け入れられているようであるため、今後もその点をより伸ばしていきたいと思います。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	不満を感じている学生はほとんどおらず、話し方が眠くなったり、何か作業するようなことの要望があるため、その点を今後は改善、取り入れていきたいと思います。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	以前は満足度が3点台がほとんどであったが、今回は4.4であり、自由記述からも授業方法も学生にあったものにできていると感じます。

アクションプランシート

2024年度後期 水2/3

科目名 微生物学実習

教員名 射場 仁美

回答者数/履修者数 24/34

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	4.6ポイントであった。昨年度と変わらず高い評価であった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	レポートの返却時にコメントと評価を公表することが、意欲向上につながった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	4.6~4.9で高い評価であった。昨年度より上昇していた。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	4.5～4.6で高い評価であった。ピンマイクで作業しながら説明しているが、聞こえにくいという意見もあるので、マイクの使い方を見直す必要がある。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	予習をしていない学生が多く、実習作業もよく理解しないまま、実習に参加している学生が多い。実習当日までに予習をするよう指導する必要があると感じた。また、学生の自己評価は高いが、実際は遅刻や積極性が低いと感じることが多いので、実習中に指導していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木4/5

科目名 微生物学実習

教員名 射場 仁美

回答者数/履修者数 28/40

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	4.7で昨年と変わらず高い評価であった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	レポートの返却時にコメントと評価を公表することが、意欲向上につながった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	4.7～4.8で高い評価であった。昨年度より上昇していた。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	4.4～4.7で高い評価であった。ピンマイクで作業しながら説明しているが、聞こえにくいという意見もあるので、マイクの使い方を見直す必要がある。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	予習をしていない学生が多く、実習作業もよく理解しないまま、実習に参加している学生が多い。実習当日までに予習をするよう指導する必要があると感じた。また、学生の自己評価は高いが、実際は遅刻や積極性が低いと感じることが多いので、実習中に指導していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月4/5

科目名 基礎化学実習

教員名 菊地 優子

回答者数/履修者数 31/34

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	前年度は4.4と4.7であり、本年度は4.5と4.9であった。毎年クラス間で満足度の差が出ており、本クラスでは4.5と例年とほぼ同じであった。苦手意識がある科目であるため、理解度をあげることが満足度の向上につながると考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本年度から授業内容や小テストのタイミングを見直したが直接的な効果は不明である。これまで同様、巡回を多くしできるだけ一人ひとりに対応するように心がけた。本クラスでは化学や計算が得意ではない学生も前向きに取り組む様子がみられた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	本年度より実習内容を変更し、より2年次以降に必要である項目を詳しく行うように内容を変更したが、Q3～Q5のいずれも大きな変化はみられない。しかし、自由記述では内容に対してポジティブな意見が増えたため、一定の効果はあったように感じる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	実験室の構造上、後ろの方の席の学生が板書やスライドが見にくかったり、聞こえにくかったりしてしまう。その場合、前に移動するように声かけは行うが、移動する学生はいない。板書が多い回、スライドを使用する回は講義室との併用も考えていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生は実験にも積極的に取り組み、満足度もおおむね良好であったが、基礎学力の差が大きく、全員が内容を理解するのは難しいと感じた。本実習では事前に予習として実験ノートに記載するようにしているが、事前学習を「1しない」と回答した学生が2名いたため、もう少し徹底する必要がある。

アクションプランシート

2024年度後期 金2/3

科目名 基礎化学実習

教員名 菊地 優子

回答者数/履修者数 27/33

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	前年度は4.4と4.7であり、本年度は4.5と4.9であった。毎年クラス間で満足度の差が出ており、本クラスでは4.9とこれまでで最も高い値となった。しかし、回収率が81.8%であり、満足度が低い学生が回答していない可能性もある。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本年度から授業内容や小テストのタイミングを見直した。各班を巡回し、なるべく個別に対応するようにしていたが、本クラスでは積極的に質問する学生が多かったので、実習をスムーズに進めることができた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	本年度より実習内容を変更し、より2年次以降に必要である項目を詳しく行うように内容を変更した。Q3～Q5のいずれも4以上の評価であり、概ね効果があったと考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	おおむね良好であったが、縦長の教室であるため、後方の実験台に座る学生にとっては見えにくい、聞こえにくい環境であったかもしれない。プロジェクター等の設置がなく、持ち込みのモニターやスクリーンでは見えにくいこともあるため、必要に応じて講義室との併用も検討したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回のアンケートに回答してくれた学生では満足度は非常に高い結果であったが、消極的な態度の学生もみられ、学生間で取り組み方に差がみられた。 基礎学力や高校までの学習状況に大きく左右される科目であるため、個別に対応したいところもあるが、時間的に難しいため、SAの導入なども検討していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 給食経営管理論Ⅱ

教員名 吉永 奈津希

回答者数／履修者数 46／52

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する満足度は、4.3であった。今年度より担当している科目であり、経年比較はできないが、前期科目である「給食経営管理論Ⅰ」と比較すると平均が+0.1ポイントとなり、ほぼ同様の結果であった。回答2（やや不満足）と答えた者が2名いたこと、全体平均と比較し低値であることから、改善が必要であることが示唆された。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	Q1の平均が前期と比較し+0.3ポイントとなっていた。manabaを活用した確認テストや復習ドリルの実施は、学生の復習を促すことができたと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3～5の平均値は、Q3が4.1、Q4が4.5、Q5が4.2であった。Q3については良くないと答えた学生が1名、やや良くないと2名いた。今年度よりテキストに記載の順番で説明しており、次年度以降の結果と併せて授業の内容を検討していく必要がある。Q5では授業内容にやや興味がないと答えた学生が2名いた。本科目と3年次の給食経営管理実習、3・4年次の臨地実習、さらに就職後（給食の現場）との関わりも伝えながら授業をしていくことで、興味を持ってもらえるようにしたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	各質問に対する回答の平均値は、Q6が4.3、Q7が4.4、Q8が4.3、Q9が4.4、Q10が4.6、Q11が4.4であった。前期と比較すると、+0～0.2ポイントの評価であった。前期の課題であった話し方についての項目は+0.2ポイントであり、多少の改善がみられた。しかし、Q6、8、9については良くないと評価した学生が1名ずつおり、今後の検討課題である。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業や配布資料については、わかりやすい、わかりにくいと両極端なコメントがあるため、大幅に修正が必要ということではないと考えており、よりわかりやすい表現にしたり、例を示したりするなど加筆修正していく。また、講義中だけではなく、予習や復習をすることにより理解が深まると考えられるため、学生自身の準備状況、授業態度も重要な要素であるとする。したがって、いかに予習・復習を促すか、居眠りをしている学生を減らすかについては検討していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 臨床薬物代謝学

教員名 椛島 力

回答者数／履修者数 87／97

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	昨年度（満足度4.5）とほぼ同じ、満足度4.4であり、一定の評価は受けていると考える。次年度以降も、維持・向上できるようにアンケート結果を精査する。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	薬物動態の解析法において重要な公式の覚え方や組み立て方を、投与経路ごとにグラフとともに解説した。また、国家試験の問題を使って、公式の使い方や考え方について解説した。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	平均4.4-4.6であり、一定の評価は受けていると考える。学生が苦手とする分野なので、臨床における重要性を説明し、次年度以降も、維持・向上できるように努める。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	平均4.5-4.6であり、一定の評価は受けていると考える。解説が早いとのコメントがあったので注意したいが、時間的な制約があるので、どのようにすればよいか検討する。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概ね例年とほぼ同じ評価だったので、大きな問題もなく授業ができたのではないと思う。ただし、定期試験ではあまり理解できていない学生が多かった。また、ホワイトボードが見えないとのコメントもあったが、いつも前の席は空いており、主体的に学習するような学生側の意識改革も必要かと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 薬剤学
教員名 椛島 力
回答者数／履修者数 95／114

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度4.6であり、昨年度の4.4より向上しており、一定の評価は受けていると考える。次年度以降も、維持・向上できるようにアンケート結果を精査する。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	遠隔対応の再履修者用の授業動画を、復習に利用できるように、全受講生に視聴できるようにした。授業内容と関連した国家試験の過去問を演習問題として解説した。物理系が苦手な学生が多いので、図解や間違いやすいポイントを指摘して、分かりやすい授業を心がけた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	平均4.6-4.7であり、一定の評価は受けていると考える。授業内容が国家試験だけでなく、医薬品の物性とどのように関係しているか解説を分かり易くする。次年度以降も、維持・向上できるように努める。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	平均4.6-4.7であり、一定の評価は受けていると考える。昨年同様、配布資料に関するコメントがあったので、次年度はさらに改善する。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートの結果では、概ね問題なく授業できたのではないと思う。復習のために授業動画をYoutubeにアップしたが、定期試験直前にしか見ない学生も少なくなく、普段からいかに興味を持って学習させるかが課題である。次年度は教科書を変更するので、再履修者も対応できるように資料の準備をする。

アクションプランシート

2024年度後期 火4

科目名 薬品物理化学 II

教員名 市川 和洋

回答者数／履修者数 78／120

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	理解度4.0に対し、Q13満足度4.2と難しい講義内容に対して満足度が高めに現れていると考えています（例年同一傾向です）。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本講義は物理化学講義の中でも原理や数式を扱うセクションに当たり、もともと難しく感じるセクションとなっています。概念理解と、平易な表現を心掛けました。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	評価は4.0-4.6ですので構成はおおむね適正であったと考えています。並行開講の演習との関連性など引き続き改善したいと考えています。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	項目IIIにおいては、評価は4.2-4.4ですのでおおむね適正であったと考えています。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本年は改訂コアカリ対応にあわせて、前年度講義資料を改訂しました。中間試験、定期試験はほぼ同一問題で実施しました。2極化と低得点層が増え、単位未修得者が繰り返し本科目を履修している様子が伺われます。いっぽう、学修努力の跡が見られるなど個々の努力が感じられました。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 物理学演習

教員名 市川 和洋

回答者数／履修者数 28／34

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q12理解度では平均3.5、Q13満足度も3.9と、高校での未履修、難しい講義内容を考慮すれば評価はよく出ていると考えています。実際にQ6-11の授業方法については3.84.5となっており、講義自体は適切に行うことが出来ていると考えています。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本講義は専門科目の薬品物理化学につながる科目で、高校物理未修者クラスに当たり、難しく感じたものと思います。できるだけ式を使わず概念理解と、平易な表現を心掛けました。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	3.8-4.5程度ですので構成はおおむね適正であったと考えています。引き続き改善したいと考えています。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	前述の通り、Ⅲの項目では評価は3.8-4.5であり、4次カリからの開講4年になりますが、全体として改善がみられると考えています。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	3クラス制のCクラスで高校物理未履修者ばかりです。理解度ベースでは5が最大人数であり一定の底上げ効果はあったと考えています。ただ、評価1も相当数いることは2年時の学修で苦勞する学生が潜んでいます。近年の入学者水準の引き下げが影響していると考えています。

アクションプランシート

2024年度後期 火2

科目名 生薬学Ⅱ
教員名 宇都 拓洋
回答者数／履修者数 95／112

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度4.8ポイントであることから多くの学生が満足している様子が分かる。今後も、5に近い評価になるように講義を充実させていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義プリントを事前に配布することで、予習を促した。また講義開始時に前回の講義の復習テストを実施した。講義後は、毎回マナバで質問受付を行い、次回の講義で質問への回答を実施した。確認試験および定期試験の1か月前に、昨年の問題を全員に配布し、学習意欲向上に取り組んだ。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	3つすべてが4.8の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	すべての項目が4.5以上の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。Q9で1もしくは2を付けた学生6名がいる。投影機器（書画カメラ）が古いため講義資料がはっきり映し出されなかったことが原因と考えられる。書画カメラの新規入れ替えを要望したいが、すぐに対応するのは難しいため、代替案を検討したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大部分の学生は満足したと思われる。自由記述欄もポジティブコメントが多い。しかしながら、確認試験および定期試験の成績は下位層の学生が増えており、さらに再試験でも点数が向上していない。一方で上位層の学生は、ほぼ満点に近い点数を獲得している。このように2層に分かれた状況で、どちらも満足させる講義は非常に難しいと考えている。すぐに対応策は見つからないかもしれないが、試行錯誤を繰り返しながら、最善の方法を探していきたい。 投影機器（書画カメラ）が古いために映像がうまく映し出されないことが、一部の質問項目のポイントを下げている。書画カメラの新規入れ替えを要望したいが、すぐに対応するのは難しいため、代替案を検討したい。

アクションプランシート

2024年度後期 月5

科目名 医薬品情報論

教員名 大磯 茂

回答者数／履修者数 68／88

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度に関しては、評価平均が4.4と昨年度の4.5より0.1ポイント低い評価点であった。授業形態は基本的に前年度のやり方を踏襲し、マナバフォリオを利用した予習・復習課題も実施した。質問1の回答の平均が4.1であり、履修者が学習を進める上で予習・復習を強く意識されるのにプラスの因子となったと考えている。次年度もマナバによる予習・復習課題は継続したい。昨年度の自由意見であった「マナバの小テストにある復習問題や予習問題を、紙媒体かPDFデータでいただけると勉強しやすいと思いました」に対応して、今年度はスライドの配布資料のPDF版も配布するようにした。それに伴い印刷物の要否をあらかじめ確認の上、必要な学生分のみ印刷物を配布した。フリーの意見として資料配布に関する要望等はなかったため、次年度の同様の方式で行いたいと思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	これまでと同じ教科書を指定して、その内容に沿って講義を進めた。マナバフォリオを利用した予習および復習を実施し、その結果を最終の成績に反映するようにした昨年度と同様に、小テストを5回目授業の後と13回目授業の後の2回行い、小テスト後すぐに解答を公開することにより、形成的評価も行えるようにした。小テストが履修期間中の学修を進める動機になっている部分もあると思うので、次年度も授業中間の小テストを実施して、日ごろから継続した学習が進められるよう促したいと思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	今年度の評価は4.3から4.5と、昨年度の4.4から4.6の評価と比較すると若干低下した。自由意見の中で小テストの解答の説明の仕方に関する意見があり、言い間違えることのないよう注意して講義を進めたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	今年度の評価点は4.4～4.5で、昨年度の4.5～4.6の評価点よりも若干低下した。ただ、「講義資料やスライドで重要なところは色分けされていたり、表を使ってまとめられていたりするので、見やすく分かりやすい」などの意見もいただき特に大きな問題はなかったと思われる。自由意見の小テストに関する説明は注意したいと思う。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は昨年度と同様の授業形態ではあったものの授業全体の満足度評価点は若干低下した。ただし、大きな問題が指摘されたわけではなく概ね問題のない授業形態だったものと考えている。個々の意見の中にはこれまでに寄せられた意見と同様のものもあったが、改善できる点については対応して、さらなる内容の充実を図りたい。この授業は、覚えることも多く、特に予習・復習の実施が理解度の向上につながると思われるので、予習・復習の重要性をあらためて伝えていきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 木2

科目名 分析化学Ⅰ

教員名 大庭 義史

回答者数／履修者数 88／101

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	昨年度4.7と比べ0.1ポイント増で、評価2以下を付けた学生も無い点は評価できる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	引き続き講義動画の公開を期限を設けず行い、何度も復習できるようにした。特に中間試験、定期試験前には学生の助けになっていたと思われる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	昨年度（4.7, 4.8, 4.6）と比べ、いずれの項目も0.1ポイント増であった。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	昨年度（4.8, 4.8, 4.8, 4.8, 4.7, 4.6）と比べ、Q11が0.1ポイント増となった以外は同値であった。Q11について評価2を付けた学生がいたが、概ね良好な結果と言える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	基礎系科目としては十分な評価ではないかと思っている。講義に関連した問題については、講義内、manaba小テスト等で公開しているが、今後はCAIを充実させていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 水1

科目名 公衆衛生学Ⅱ

教員名 小川 由起子

回答者数／履修者数 82／101

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2017/4.5, 2018/4.2, 2019/4.2, 2020/4.4, 2021/4.8, 2022/4.7, 2023/4.5, 2024/4.8 昨年度よりも0.3P上昇した。学生からのコメントにも ・大事なところなどは口頭プラス印をつけてくれるのでわかりやすかったです。 ・たくさん書き込んでくださったり、例えを使って話してくださったため、理解しやすかったし記憶に残りやすかった。 ・非常に分かりやすい講義でした。 ・興味のある内容でした。 というありがたいコメントが多かった。書いてあるのを丸で囲む等の授業よりもGoodNoteを使い書き込み形式で授業を進めたのが良かったと思う。次年度も引き続き授業内容を試行錯誤しながら理解力が深まるように努力したい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今回の学生アンケートの記入式コメントで、 ・覚えるところが分かりやすくて良かったです ・講義ありがとうございました。聞き取りやすい声でした。 ・説明が詳しくて良かったです。 ・大事なところなどは口頭プラス印をつけてくれるのでわかりやすかったです。 ・たくさん書き込んでくださったり、例えを使って話してくださったため、理解しやすかったし記憶に残りやすかった。 ・非常に分かりやすい講義でした。 ・興味のある内容でした。ありがとうございました とかなり好印象であった。GoodNoteの活用がこの学年には功を奏したのだと思う。 さらに授業時の小テストやアンケートでの質問対応により、学生さんの不安や不満を取り上げ、次の授業にいかせたと考えている。学生により成績や理解度が異なってくるため、毎年考えることであるが、できれば成績ごとにアンケート結果をまとめていただけると対応策がしぼれると考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3:2023/4.6, 2024/4.8 Q4:2023/4.6, 2024/4.8 Q5:2023/4.5, 2024/4.7 自由記述欄に「大事なところなどは口頭プラス印をつけてくれるのでわかりやすかった。たくさん書き込んでくださったり、例えを使って話してくださったため、理解しやすかったし記憶に残りやすかった」というコメントがあったが、Q3,Q5は評価2の学生が1名ずついたので、今後授業中にmanabaにてアンケートを取り、検討していきたい。カリキュラム上、微生物学が2年後期からということで、基礎がないままに感染症法を取り扱うのは難しく、基礎を固めてからこの授業をした方がもっと理解度が増すと考えられる。また前述の通り、成績とアンケート結果を紐づけていただけると対応しやすくなると思われる。今後も引き続き、国家試験が科目の枠を超えて出題されるので生物、衛生、実務等をつなげて今後も講義ができれば学生にとっても有意義なものになると考えている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策	Q6:2015/4.6,2016/4.3,2017/4.6,2018/4.2,2019/4.3,2020/4.5,2021/4.8,2022/4.8,2023/4.7,2024/4.8 Q7:2015/4.7,2016/4.4,2017/4.6,2018/4.3,2019/4.3,2020/4.5,2021:4.9,

項目見出し	コメント
▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	2022/4.8,2023/4.7, 2024/4.8 Q8:2015/4.6,2016/4.2,2017/4.6,2018/4.1,2019/4.3,2020/4.4,2021:4.8, 2022/4.6,2023/4.6, 2024/4.8 Q9:2018/4.2,2019/4.3,2020/4.4,2021:4.8,2022/4.7,2023/4.7, 2024/4.8 Q10:2018/4.1,2019/4.2,2020/4.2,2021:4.8,2022/4.5,2023/4.6, 2024/4.8 Q11:2018/4.2,2019/4.3,2020/4.3,2021:4.6,2022/4.6,2023/4.5, 2024/4.7 昨年度よりもいずれも0.1-0.3Pあがってはいるが、Q6で評価2の学生が1名いることから、マスクをしておの講義もありましたのでその中で明瞭に話す努力をしていきたい。どのくらいの成績の学生までがこの授業のやり方で理解できるのか、その境界線が知りたい。それによって、例えば予習の仕方やresponを使用した授業が可能かどうかを判断したいと考える。成績の幅が広いと、学年でも理解力に差はみられるので、ポートフォリオで復習小テストを解かせた後のアンケートやリフレクションシートを配布するなどして学生の意見を取り入れていきたいと思う。次年度も引き続きmanabaでアンケートを取りながら学生の学力に合わせた授業を構築していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	対面授業が主であったため、学生さんの顔を見ながら講義ができたこと、その後に動画を配信し復習ツールをあげることができたことが高評価につながったと考える。学生の雰囲気やわかっているかどうかがある程度手に取れるので、今年度は授業の組み立てがしやすく、学生のニーズに合わせることもできたと思う。しかし今年度の2年生は後ろに座る傾向が高く、後ろで別のことをやっている生徒がいないかの不安もあったが、試験結果を見ると昨年並みの平均点であった。また一昨年度から、「病原微生物学」を履修する前に、感染症の話をする必要はないという学生にとっては不利なカリキュラムということ、また微生物の昨年同様基礎の「微生物学」の講義と並行しているが、学生に不利益を講じさせない授業形態をとることができた。講義終了後にポートフォリオでの小テストを課題として出し理解力を少しでも深めることを考えた。しかしながら今年度のコメントを見ると、昨年よりも理解することができた学生が多かったようである。今後も学生の意見をポートフォリオを使って聞きながら、成績が伸び悩んでいる学生をどうしたら一定レベルまで上げることができるのかをよく考えて来年度講義にのぞみたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 薬物治療学Ⅲ

教員名 小川 由起子

回答者数／履修者数 68／110

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2019/4.3, 2020/4.0, 2021/4.4, 2022/4.7, 2023/4.6, 2024/4.7 回答率は、webで授業の最後に実施したが、61.8%と低かった。（昨年度86.5%）。 ・教科書の重要なところや症例もできればスライドに載せて頂けるとよりわかりやすかった ・いつも体調のことなどを気にかけてくださったり、試験前にどう勉強したら良いかなどを発信してくださったりするのが非常に嬉しいです。 ・声が聞き取りやすく、授業資料も分かりやすかったです。 ・大切な事項は何度も繰り返しお話ししてくださり、記憶に残りやすかったです。分かりやすい講義を、ありがとうございました。 との自由記述欄のコメントがあり、授業をやってよかったと思うコメントが多かった半面、 ・後方から聞こえる私語が気になりました。先生まではその声が届いていないようなので気付きにくく、難しい問題かとは思いますが、お声掛けいただけると嬉しいです。 年子に関する意見が1件寄せられた。死後は一生懸命授業を受けている人にとっては邪魔な存在なので、次年度は声がけをしっかりとしようと思う。今後も学生の立場に立ってわかりやすい資料づくり、わかりやすい授業を目標に精進していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回授業後のアンケート（質問等）には丁寧に回答し、manabaにアップしていたことは助かったと数名の学生からきいた。対面授業がオンラインの授業よりも学生の表情を見てできるのでありがたい。今後も引き続き学生自身が考える能動的自発的学習ができる様な教授法を検討したい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3:2019/4.2, 2020/3.8, 2021/4.4, 2022/4.6, 2023/4.6, 2024/4.7 Q4:2019/4.4, 2020/4.1, 2021/4.4, 2022/4.7, 2023/4.7, 2024/4.7 Q5:2019/4.4, 2020/4.1, 2021/4.4, 2022/4.6, 2023/4.5, 2024/4.7 昨年はQ5のみ評価2の学生が1名いたが今年度はQ3-5は評価2の学生はいなかった。授業内容は国試に直結したものを中心に実施したが、manabaでのアンケートを見ると理解できないところがある、難しすぎるという意見ともう少し難しめの臨床的なものでもよい言う意見もあり、ここでも理解力の差が激しいと考えられる。成績によっても理解度に差が認められることから、昨年もお願いしていたが、アンケートと成績を紐づけての統計結果の作成をぜひお願いしたい。次年度も今年度同様、すべてをこちらで与える授業では受け身の授業にしかならないので、配布資料ならびに授業の進め方を再考し、学生一人一人が考えることのできる授業を作り上げたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11	Q6:2019/4.5, 2020/4.2, 2021/4.5, 2022/4.8, 2023/4.7, 2024/4.8 Q7:2019/4.5, 2020/4.3, 2021/4.6, 2022/4.8, 2023/4.8, 2024/4.8 Q8:2019/4.2, 2020/3.9, 2021/4.5, 2022/4.7, 2023/4.7, 2024/4.6 Q9:2019/4.3, 2020/4.0, 2021/4.5, 2022/4.7, 2023/4.7, 2024/4.7 Q10:2019/4.4, 2020/4.1, 2021/4.5, 2022/4.6, 2023/4.5, 2024/4.5 Q11:2019/4.3, 2020/4.2, 2021/4.5, 2022/4.6, 2023/4.5, 2024/4.7

項目見出し	コメント
スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	昨年に比べ、Q6が0.1ポイント上昇、Q8が0.1ポイント減少した。学生からの自由記述欄で悪いことは全く書かれていなかったが、学生の理解力の違いもあるが、プリントをもう少し学生主体でできるように工夫したほうが良いのではないかと考えている。学生の成績分布を知り授業内容を組み立てるのが、この大学では必要であると考えてるのでぜひ成績と関連付けた統計をお願いしたい。Q8とQ10で評価2につけた学生が1名づついるので、プリントの量が多すぎるという意見もあったので、今後さらに配布資料は吟味し、来年度に備えたい。さらに「respon」等を使用し、参加型の授業を遠隔授業の中で実施することで学生の理解度を深めることができると考えられるので、次年度以降も活用を考える予定である。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	国家試験の出題が8疾患を軸として、多岐にわたり科目を越えての出題（理論でも連問が出てきている）に代わってきているため、昨年同様できるだけ生物、衛生、薬理、治療、実務をつなげた講義を目指した。案の定、今年は昨年よりも国家試験は分野を超えた連問が多く出題された。自宅学習時間も多くとれると考えていたが、全科目で多くの課題があり、学生の中には消化不良を起こしている学生がいることも事実である。講義の進め方は今後も再考する必要がある、次年度以降検討していきたい。また教科書が高いこともあり購入していない学生も多く見受けられたので、分野を超えての出題が今後増えるので、予備校の参考書ではなく、教科書を熟読することの大切さを教えていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木2

科目名 病原微生物学

教員名 小川 由起子

回答者数／履修者数 64／89

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2017:4.3, 2018:4.4, 2019:4.1, 2021:4.4, 2022:4.7, 2023:4.8, 2024:4.8 (2022年度より2年後期、病原微生物へと名称変更) 昨年度と同等、ここ3年は4.7-4.8で落ち着いている。 自由記述欄には、 ・講義中に、テストでどのような形式で出題されるのか教えてください。 ・勉強がしやすい。 ・授業は分かりやすく良かった。 など良い印象がある反面、 ・授業が進むのが少し早く感じた。 ・話すのが速すぎて分からない時がある。 などの意見もあった。内容が15回でするには膨大な量のため、どうしても早口になってしまうが、学生の主体性に任せてキーワードに絞った授業をし、自宅学習で考えさせてもよいかもしれない、次年度はこの辺りを検討してみようと思う。次年度も引き続き、学生の目線に合わせた講義を展開していきたいと思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	一昨年より3年後期に移動したが、昨年同様3年前期に感染防御学にてウイルス学の一部を実施したおかげで、より基礎的なことから始めたことが理解につながったが、昨年の反省点を踏まえ、説明を少し少なくしたつもりであったが国家試験問題を見ると話さなければいけない内容が増え、今年もぎりぎりの時間での授業となってしまった。例年同様、授業終了後にmanabaでアンケートや質問、意見を伺い、その都度修正しながら進めた。学生の意見を授業後すぐに吸い上げることで、思いもよらなかった考えがあることに気づき、修正することができる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	2017 : Q3:4.3, Q4:4.3, Q5:4.3 2018 : Q3:4.5, Q4:4.4, Q5:4.4 2019 : Q3:4.2, Q4:4.1, Q5:4.1 2021 : Q3:4.5, Q4:4.5, Q5:4.5 2022 : Q3:4.8, Q4:4.7, Q5:4.6 2023 : Q3:4.7, Q4:4.6, Q5:4.7 2024 : Q3:4.6, Q4:4.7, Q5:4.6 昨年度よりQ3,5は0.1ポイント減少、Q4は0.1ポイント上昇 前期に感染防御学にてウイルス学の一部を実施したおかげが昨年の反省点を鑑み、説明を少し少なくしたつもりであったが国家試験問題を見ると話さなければいけない内容が増え、今年もぎりぎりの時間での授業となってしまった。興味ある授業と考えていたが、質問で0.1ポイント減少したこと、2名が普通(3)と回答していた。次年度も引き続き今回の方法を軸に1人でも多くの学生が興味あると回答してくれるように進めていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	2017 : Q6:4.4, Q7:4.4, Q8:4.3, Q9:4.3, Q10:4.2, Q11:4.3 2018 : Q6:4.5, Q7:4.5, Q8:4.5, Q9:4.5, Q10:4.4, Q11:4.4 2019 : Q6:4.2, Q7:4.3, Q8:4.1, Q9:4.1, Q10:4.1, Q11:4.2 2021 : Q6:4.6, Q7:4.6, Q8:4.6, Q9:4.6, Q10:4.4, Q11:4.5 2022 : Q6:4.9, Q7:4.9, Q8:4.8, Q9:4.8, Q10:4.6, Q11:4.7 2023 : Q6:4.8, Q7:4.8, Q8:4.7, Q9:4.7, Q10:4.7, Q11:4.7 2024 : Q6:4.8, Q7:4.7, Q8:4.7, Q9:4.7, Q10:4.6, Q11:4.6 昨年度より0.1ポイント減少もしくは維持 自由記述欄の早口であったというコメントもあったころから話し方を少し工夫する必要がある。 遅刻や私語に対する対応については、評価3の学生は昨年の6名から

項目見出し	コメント
	4名に減少、昨年1名の学生が評価2であったが今年は評価2をつけた学生はいなかった。 授業中の私語、遅刻に関する対応は引き続き実施する。授業後のmanabaによるアンケート調査で、授業を注意で分断させてほしくない、大人なんだから自己責任という意見もあったので、この点はさらに考えるべき反省点である。 おおむね納得のいく評価をいただくことができた。 基礎的なところから始めるのが理解につながるということがわかった。 今後は同系列の科目と連携を取りながら、点と点が線で結べるような授業体系を取っていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年のアンケート結果と比べると、一部減少した項目もあるがいずれの設問でも昨年レベルであった。 最近の国家試験では応用問題が多く、ウイルスに関しても難しくなっている。より基礎的な内容をきちんと理解させたうえで点と点が線で結べるような授業にするように努力した。学生が理解しているかどうかは、manabaのアンケート機能からチェックしたことで、より理解が深まったと考えられる。来年に向けて後期の講義時に学生の意見を聞きながら授業を構築していこうと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 月2

科目名 免疫学
教員名 岸原 健二
回答者数／履修者数 93／107

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	(2011→2024年度の推移) ・ Q13 (満足度)): 3.6→3.6→4.0→3.7→4.2→4.2→4.1→3.9→3.8→4.1→4.5→4.5→4.3→4.5 ・ Q12 (理解度)): 3.4→3.4→3.9→3.6→4.0→4.1→4.0→3.7→3.8→3.9→4.2→4.2→4.0→4.4 Q13満足度とQ12理解度の両方とも昨年度より大幅に上昇した。例年通り、復習用の講義動画の配信やポートフォリオ(manaba)の小テストでの課題出題を毎授業後に実施したが、学生のコメントから概ね好評であると推察される。来年度以降もこの方法を踏襲しながら、抗議スライドや資料のブラッシュアップを行っていききたい。懸案あった再履修者・過年度生の単位修得率は、昨年よりも向上した。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	(2011→2024年度の推移) ・ Q1 (準備学習)): 3.1→3.1→3.8→3.5→3.8→3.9→3.9→3.6→3.7→3.8→3.7→3.8→3.8→4.1 ・ Q2 (授業態度)): 3.4→3.7→4.0→3.6→3.9→4.0→4.1→3.8→3.9→4.0→4.1→4.2→4.0→4.3 今年度は、昨年度に比べて準備学習と授業態度の両方の自己評価が大幅に向上し、過去最高であった。学習態度の向上が、課題への取り組みへもよい影響を及ぼしたのかもしれない。課題(manabaの小テスト)は、準備学習を促す意味で効果的であるので継続していく。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	(2011→2024年度の推移) ・ Q3(授業の編成)): 3.7→3.6→4.1→3.7→4.2→4.2→4.1→3.8→3.9→4.1→4.5→4.4→4.2→4.5 ・ Q4(シラバスとの整合性)): 3.8→3.9→4.2→3.8→4.4→4.3→4.2→4.0→3.9→4.2→4.6→4.5→4.4→4.7 ・ Q5(授業内容)): 3.8→3.8→4.1→3.9→4.3→4.2→4.2→3.9→3.9→4.1→4.5→4.4→4.3→4.5 今年度はいずれの項目の評価も向上した。これからも、各授業の開始時に、その回の授業内容の明示していききたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	(2011→2024年度の推移) ・ Q6(話し方)): 3.8→3.7→4.1→3.7→4.3→4.2→4.1→3.8→3.9→4.1→4.4→4.4→4.2→4.5 ・ Q7(教員の熱意)): 3.8→4.0→4.2→3.9→4.4→4.3→4.3→4.0→4.0→4.2→4.6→4.6→4.4→4.7 ・ Q8(教科書等の使用)): 3.8→3.9→4.3→3.7→4.4→4.2→4.2→4.0→4.0→4.1→4.6→4.5→4.4→4.6 ・ Q9(板書や機器の使用)): 3.8→3.8→4.2→3.7→4.4→4.3→4.3→4.0→4.0→4.0→4.6→4.5→4.4→4.7 ・ Q10(遅刻等への対応)): 3.6→3.8→4.1→3.6→4.1→4.2→4.2→3.9→4.1→4.1→4.5→4.5→4.3→4.6 ・ Q11(授業参加への促し)

項目見出し	コメント
	) : 3.6→3.6→4.0→3.6→4.3→4.2→4.2→3.9→4.0→4.1→4.4→4.5→4.3→4.6 今年度は、昨年度よりもどの項目も向上した。昨年度と大きな変更点はなかったが、全体的に評価が上昇した印象である。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年度と同様の授業を実施したが、昨年度よりも評価が大幅に向上した。今年度は、授業時間内で説明できなかった部分を配信した動画で学習できるよう工夫した。これが功を奏したようだ。来年度以降は、講義動画の配信や復習問題の出題を継続するほかに、学生の希望があれば補講など新しい改善策を実施していきたい。また、双方向性の授業を実施するための工夫も導入していきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 水2

科目名 疾病学Ⅰ
教員名 隈 博幸
回答者数／履修者数 90／101

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	今年度の受講学生の満足度は4.8と非常に高い評価を得た。自由記述にもあるように、できるだけ分かりやすい言葉で丁寧に説明すること、時事問題を交えたこと、画像や動画を多用したことなどが結果に繋がったと考えている。来年度も同様に高い評価を得るよう、学生が理解しやすい授業を心掛けたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	疾病学は「病気」という身近かつ学生の興味が強いものを扱う科目であり、元々関心は高いと思われる。その中でも、平易な言葉遣いと簡単な復習テストを実施し、かつ参考書より分かりやすいプリントの作成・配布を心掛けたことが意欲の向上に繋がった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	該当質問はいずれも平均値4.8と高い数値を示しており、特に改善が必要な内容は無いと考えている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	自由記述欄にあるが、配布プリントとスライドが一致していないことが挙げられる。これは故意にそうしたものであり、その理由は「授業をきちんと聞くこと、板書を書き写すこと」を目的とし、そのために考えた手法であったが一部の学生には不評であったことは反省点である。しかし、学生の中には「プリントさえ貰えれば自分で復習すれば授業は聞かなくても良い」と考えている層が一定数おり、それらの改善策を引き続き考えること、プリントとスライドを（ある程度）近づけることは考慮したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度の評価は望外に高いものであり、担当者としては授業方法・内容の理解に努力した結果であると考える。但し満点を貰ったわけではなく、どの項目にも数名の「3」を付けた学生がいるため、それらをなくすための方策を考えることが来年度の課題である。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 細胞生物学

教員名 黒川 健児

回答者数／履修者数 93／115

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は4.6と全体平均並みであった。今後も4.0以上を維持できるように学生の意見を参考に工夫を続けたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の確認テストの実施、数回の講義毎の小テストの実施は、学生からポジティブな評価を得ていると感じられる。今回はコメントはなかったが、過去問の提示も、どの点の理解が求められているのか分かり易いとの意図のコメントが得られることが多い。生きた細胞の動画は、関心が湧くとのコメントもあり、継続したい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業内容は体系化された薬学教育カリキュラムの一部であるが、興味を持ってもらえるように映像資料を使うなどの工夫をしている。この分野の学びが創薬や疾患の治療、予防に役立つことを理解してもらうことで、面白さを知ってもらえたらと考えている。平均は3項目とも4.5以上となっており、一定の評価を得ていると考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	今回のコメントにはなかったが、話し方が単調であること、大事なところを強調して欲しいことについてコメントをよく受けるので、その点は気を付けるようにしている。遅刻や私語に対する注意は積極的には行っていないが、必要に応じて行うよう心掛けている。授業参加の促進としては、確認テストへの回答や小テストへの準備として各自での勉強を促してはいるが、学生間で説明し合う時間を設けるなどのアクティブラーニングの機会を増やすことを検討している。平均は6項目とも4.5以上となっており、一定の評価を得ていると考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	中間試験や再試験等で得点できない学生さんに、過去問と正解の提示以外のなんらかの学力向上策を施したいと思っている。補講を行った時期もあったが受け身の説明に終始していたためか、成績が向上した実感はあまりなかった。学生間で説明し合う時間を設けるなどのアクティブラーニングの機会の有用性を考えており、手を動かす機会を作ることからはじめてみたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 医薬品化学Ⅱ

教員名 小島 直人

回答者数／履修者数 68／80

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	回答者の93%が4以上の評価であり、平均が4.4であったことから、概ね評価されていると考えている。来年度は講義回数の早い段階で独自にアンケートを行い、満足度を下げている要因を探り、さらなる改善に努めたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業の冒頭に関連する国家試験問題を提示し、該当事項を講義した後で、実際に取り組んでもらった。パワーポイントの資料を映写し、適宜、それに書き込みながら講義したが、できるだけ文字を少なくし、見やすい資料とすることに努めた。 また、今年度から予習問題として、各回の内容に関する正誤問題を20題出題し、事前に目を通しておくように指示したところ、Q1の平均が3.6→3.9に向上したことから、効果があったものと考えており、次年度も継続したい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	該当する項目の評価点は4.3-4.6であった。今年度は教科書に記載の内容を中心に実施したが、来年度は最新のトピックスなども取り入れ、より興味を引くような内容にしたいと考えている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	該当する評価点は4.4-4.6であり、現時点で改善が必要な項目はないと考えるが、Q11が4.4と少し低かった。学生の授業参加を促す工夫が不十分であったため、来年度は積極的に組み入れていきたいと思う。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	これまでに学修してきた有機化学の知識を応用すれば、暗記することを最小限にできることを理解してもらえるように努めたが、自由記述欄にその意図を理解してもらえた記述が多数あり良かったと思う。一方、話すが少し早いところがあったとのコメントがあったが、時間的にタイトなところがあったことが原因と考える。次年度は内容を改めて精査し、より重要な項目を時間をかけて説明できるように対応する予定である。

アクションプランシート

2024年度後期 木2

科目名 病原微生物学

教員名 小林 秀光

回答者数／履修者数 51／89

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2022年度（総合満足度：4.5、日本人学生：4.5、韓国留学生4.5） 2023年度（総合満足度：4.5、日本人学生：4.5、韓国留学生4.8） 2024年度（総合満足度：4.4、日本人学生：4.4、韓国留学生4.4） 昨年の総合満足度と同値4.5であったので、1ポイント下がった。 自由記述にはポジティブなコメントが多く、一定以上の学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講していたことが伺える。 しかし、「プリントのサイズを小さくしろ」や「論述問題にキーワードが欲しい」等という困ったコメントが見られたので少々驚いた。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	3学生を対象とする必修専門科目であり、微生物系科目（微生物薬品学、衛生化学、公衆衛生学など）や臨床系科目（実務実習など）に関連する重要な科目である。もちろん国家試験にも多くが出題される。従って、国家試験の勉強に役立つように、社会的に注目を集めている事例（コロナウイルスやインフルエンザ、梅毒やマイコプラズマ肺炎等）についてしっかり授業した。また、出来るだけ分かり易い言葉を使って解説し、教科書の項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布する等して学修サポートした。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	2022年度：質問3：4.5、質問4：4.6、質問5：4.5 2023年度：質問3：4.3、質問4：4.5、質問5：4.4 2024年度：質問3：4.4、質問4：4.5、質問5：4.4 昨年より1～2ポイント程度下降した。次年度は、ALをもっと工夫してより多くの学生が興味を持てる分かり易い授業に取り組みたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	2022年度：質問6：4.6、質問7：4.7、質問8：4.6、質問9：4.6、質問10：4.6、質問11:4.6 2023年度：質問6：4.5、質問7：4.6、質問8：4.4、質問9：4.4、質問10：4.5、質問11:4.5 2022年度：質問6：4.4、質問7：4.4、質問8：4.3、質問9：4.3、質問10：4.4、質問11:4.3 昨年より1～3ポイント程度下降した。次年度はこれらの項目の評価が上昇するように話し方に気を付けたい。また、受講生よりまとめのプリントに十分なメモ欄を設けることを望んでいるが、まとめプリントがあまりに枚数が増えるのもおかしいので、学生自身がノートを作成するよう促したい。また、受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年と同様、「アンケートの自由記述欄」への書き込み（質問や感想など）が殆どなく、授業中においても積極性が殆ど感じられない。本科目の「S」及び「A」評価の成績優秀者の割合が例年よりも少ない。学年全体としての総合理解度が乏しいと言わざるを得ない。従って、ストレート卒業率や国家試験合格率が悪化しないように、今後の学修支援には全教員が一層努力する必要がある。

アクションプランシート

2024年度後期 金2

科目名 微生物学
教員名 小林 秀光
回答者数／履修者数 81／111

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2022年度（総合満足度：4.5、日本人学生：4.6、韓国留学生4.3） 2023年度（総合満足度：4.4、日本人学生：4.4、韓国留学生なし） 2024年度（総合満足度：4.4、日本人学生：4.4、韓国留学生5.0） 一昨年の総合満足度4.5、昨年の総合満足度4.4であったので、継続的にほぼ良好であったと思う。 自由記述にはポジティブなコメントが多く、一定以上の学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講したことが伺える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	2学生を対象とする必修専門科目であり、微生物系科目（病原微生物・ウイルス学、微生物薬品学、免疫学、衛生化学、公衆衛生学など）や臨床系科目（疾病学や実務実習など）の基礎となる重要な科目である。 従って、導入的科目の性格を持っているので、先ず学生がこの分野に興味を持てるように、社会的に注目を集めている事例（コロナやインフルエンザ、梅毒やマイコプラズマ等）についてスライド枚数を昨年よりさらに増やして紹介した。また、出来るだけ分かり易い言葉を使って解説し、教科書の項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布する等して学修サポートした。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	2022年度（総合満足度：4.5、日本人学生：4.6、韓国留学生4.3） 2023年度（総合満足度：4.4、日本人学生：4.4、韓国留学生なし） 2024年度（総合満足度：4.4、日本人学生：4.5、韓国留学生4.4） 一昨年の総合満足度4.5、昨年の総合満足度4.4であったので、昨年に引き続きほぼ良好であったと思う。 自由記述にはポジティブなコメントが多く、一定以上の学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講していたことが伺える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	2022年度：質問6：4.6、質問7：4.6、質問8：4.4、質問9：4.5、質問10：4.6、質問11：4.6 2023年度：質問6：4.5、質問7：4.5、質問8：4.4、質問9：4.4、質問10：4.6、質問11：4.6 2024年度：質問6：4.5、質問7：4.6、質問8：4.4、質問9：4.5、質問10：4.6、質問11：4.6 授業法は継続的に評価されていると思う。次年度はこれらの項目の評価が上昇するようALを工夫したい。また、受講生よりまとめのプリントに十分なメモ欄を設けることを望んでいるが、まとめプリントがあまりに枚数が増えるのもおかしいので、学生自身がノートを作成することを促したい。また、受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年と同様、この学年も「アンケートの自由記述欄」への書き込み（質問や感想など）が殆どなく、授業中においても積極性が殆ど感じられない。手応えがないことはとても残念である。本科目の「S」及び「A」評価の成績優秀者の割合は昨年より少々良くなったが、学年全体としての総合理解度が低いものと考えられる。従って、ストレート卒業率や国家試験合格率が悪化することのないように、今後の学修支援には全教員が一層努力する必要がある。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 生物有機化学

教員名 佐々木 茂貴

回答者数／履修者数 86／110

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	回答2と3の学生が8名いた。この傾向は例年と同様なので、これらの学生への個別指導のやり方を検討する。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業中に講義内容に関する練習問題を課した。それに対して丁寧な説明を行ったことに対して、学生からよい評価を得られた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問1、事前の準備が不足している、回答3以下の学生が24名いる。この項目の評点がもっとも低い。担当の講義の前に、事前に学習項目を公開するなどして、改善していきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問12で、内容の理解度が3以下の学生が8名いた。講義後個別の説明を心がけているが、理解できない場所を自らが把握できていないことがあり、質問もできないのではないかと考えている。対策として、講義中にも、学生が理解できたと納得できるような、設問や双方向の講義を工夫する。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的には、私が心がけていることは好意的に捉えて貰えていると感じる。それでも理解が困難な学生がごく一部いるので、どのような対策が必要か常に苦慮している。学生からの質問を待つのではなく、学生を把握して、こちらから働きかけて個別に説明の時間を設ける必要があると感じている。

アクションプランシート

2024年度後期 月1

科目名 放射線化学

教員名 高井 伸彦

回答者数／履修者数 80／89

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	留学生を含む89名の評価として、4.8の評価があり昨年度と同様に高い評価を得ている。また満足度については、全体の95.6%が満足と評価されており、この評価が継続できるようにしたいと考えています。2018年度からこの講義を受け継いだが、学生が満足し理解につながる講義が実施できていると考えられる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	暗記よりも理解を深める講義を実施している。 絶えず時事ニュースや学生が勘違いしている項目を見つけては、その正誤について理解できるように講義を心がけており、講義を受講することにより将来のCBT試験や国家試験問題も簡単に解けることの満足感を与えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3-Q5の4.74.8であり、シラバスに則した講義編成を行っている。この評価は昨年度と同様もしくは上昇しており、この評価が継続されるように努力したいと考えています。 講義の内容について、96.6%の学生が良いと評価しております。引き継いだ2018年から徐々にその評価は高まっている。Q 3-5は全ての項目で、全体平均より上回っており、良い講義ができていると考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6-Q11のいずれも4.8であり、かつ評価5とする割合が評価4よりも約3倍多く存在するため、授業方法はこの方法を継続すべきと考えています。またこの高い評価は昨年度と同じである。 講義の方法について、学生が良いと評価をしており、いずれのQにおいてもオンラインの方法を含め全体平均より高く評価されていた。推移においても2018-2019と比較しても良い評価がなされており、講義方法としてある程度理想形に近づいていると考えている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	・放射線について新しく知ることができてよかったです。正しい知識をもって生活していきます。 ・放射線分野が苦手だったけれど講義が分かりやすかったので理解出来た。 ・放射線のことについて詳しく知ることが出来てよかったです。 ・とても見やすい資料でわかりやすかったです。 授業もとても熱心でわかりやすかったです。 ・放射線についての正しい知識を得ることが出来た。 上記の学生のコメントからも、今後も学生が興味を持てる講義を実施していきたいと考えています。またICT（薬学CAI）を活用し、講義内容とリンクすることで学生自身も理解するポイントを意識できてい

項目見出し	コメント
	るのではないかと考えています。

アクションプランシート

2024年度後期 水1

科目名 公衆衛生学Ⅱ

教員名 長岡 寛明

回答者数／履修者数 86／101

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業満足度は4.6であり、昨年と同等の値であり、概ね満足できる結果であると考え。内容はほぼ昨年と同じであるが、本講義は、薬剤師でありかつ日本で生活する人として知っておくべき内容をと、より専門性の高い内容である。学生にとっては身近な事項であり、テレビ・新聞等のニュースをみたり、聞いたりすることによりより深く理解できる内容と思う。本年の国家試験にも時事問題的な問題が出題されており、日々、新しい事項や統計が公表されている現状から、新しい内容を講義しつつ、学生の興味を引く内容に更新していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	パワーポイントの使用、学期はじめにプリントの配布、重要語句の赤字表示などにより、私語の減少はみられた。また、YouTubeへの講義内容のアップロードやフォーリオを用いて、知識の確認のための小テスト等を行ったことで学力向上につながったものと思われる。授業開始直後の私語については、注意したことにより、減っていった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業内容に関しては、4.4～4.7の評価であった。内容がかなり専門性の高い内容であるが、薬学部2年生であるので、理解してほしい内容である。興味に関しては、CBTだけをにらんでの講義ではなく、その後の国家試験や卒業後に必要な基礎知識の内容を行っている。また、この分野の大半は新聞を読む、ニュースを見る（聴く）などの社会常識の範囲でかなりの部分をカバーできるものである。なので、今後も最新的话题を盛り込んだ授業をし、学生の興味を引く授業を行いたい。さらなる自己点検を実施し、よりよい講義を目指したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	授業方法に関しては、4.6～4.7の評価であり、概ね満足できる結果であると考え。学生の授業参加を促す工夫をしたいと考えている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本年も、ポートフォーリオを活用した小テスト実施とともに質問・コメントを受け付けたところ、多数の質問やコメントが寄せられていた。個々の質問・コメントに完璧な回答ができたとは思えないが、それなりに努力して、真摯に回答したので、学生にもある程度満足してもらえたのではないかなと思う。 自由記述欄に提出された意見に関しては、反省すべき点は反省していきたいと思う。講義に当たり、より充実した資料を作成し、更によりよい講義にしていきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 金1

科目名 薬理学Ⅱ（末梢-1・前臨床）

教員名 西奥 剛

回答者数／履修者数 90／133

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	概ね高評価である。 来年度も本年度と同様に講義を行う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義を開始する前に小テストを導入した。 1限目の講義であったため遅刻も激減した。 来年度も小テストを行っていく。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	概ね高評価である。 講義資料は毎年見直している。 来年度も学生の理解度向上のため、講義資料の改善を図る。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	概ね高評価である。 来年度も本年度と同様に講義を行う。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概ね高評価である。 小テストの導入が高評価につながったと考えられる。 ただ、学生の理解度が低く薬理学Ⅱの内容は2年生後期では早いと思われる。 来年度も本年度と同様に講義を行う。

アクションプランシート

2024年度後期 月1

科目名 機能形態・生化学演習

教員名 深澤 昌史

回答者数／履修者数 67／111

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	過去4年間の経年比較において、最も高い評価を受けた。自由記述の回答を参考に少しずつ改善した成果と考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義前半に問題を解かせてから解説というスタイルが良かったのではないか。授業態度として解答に集中する静かな時間が有効であった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスを意識して、シラバスからの逸脱を避ける努力をした。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	方法論的には完成形と考える。次年度は退職のため改善策はない。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	内容的には国試レベルの問題を扱っているのに、理解度はやや低い、満足度が高いのは、熱意が評価されたものと思う。退職のためもう担当することが無くなるのは寂しい。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 分子細胞生化学演習

教員名 深澤 昌史

回答者数／履修者数 33／58

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	今年度初めて実施したので推移はわからないが、まずまずの評価と捉える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	演習科目のため、最初に問題を解かせることで静かな雰囲気とある程度の緊張感を与えたこと。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスは意識した講義を行った。復習的な演習科目なので興味を与えることは難しいので、仕方ないのかと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	まずまず妥当な評価である。次年度は担当しないので、改善策には言及しない。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	国試レベルの問題を用いた演習だったので、理解度が低い傾向があるが、満足度はそれなりだったので一定の評価は得られたと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 月5

科目名 医薬品情報論

教員名 室 高広

回答者数／履修者数 81／88

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	昨年度より回答率が上昇(79.1%→92%)した結果、4.6から4.2と大きく満足度が低下した。 この結果を真摯に受け止め、次年度以降、一層満足度の高い授業を行えるよう努める。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義中に説明しているそれぞれの内容に関して、臨床での重要性・この知識がどのように利用されるのかを説明し、それゆえ、CBTや国試でどの程度取り扱われているのかなど、試験対策情報も添えるようにしてるが、講義時間が90分を超えることも多かった。本年度は5時間目の講義であり、バスの便が減ったこともあって、講義時間超過に対する学生のマイナス意見が大きかった。次年度以降は限られた時間内で効率よく重要項目を伝えるよう心がける。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3-5は平均4.4で昨年より0.1点減少した。特にQ5の授業内容は興味あるものでしたか？の回答が4.5から4.3と大きく低下していた。臨床での重要性などの情報をわかりやすく伝える他、学生の興味を引くことができるよう心がける。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6-Q11は平均4.5であり昨年より0.1低下した。資料も教科書も同じものを使用しているのだが、Q8が4.5から4.3と低下している。回答率の上昇により全ての学生のニーズに合うものではなかったことが影響したと考える。改善できる点は改善していく。また、引き続き、臨床での重要性などの情報をわかりやすく伝えるよう心がける。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年に比べ回答率が倍増したためか、初めて評価が全体的に前年度より低下した。留学生にも理解しやすいよう動画配信を行うなど工夫はしたものの、根本的に学生の授業科目に対する興味が低く、これを向上させることができなかったことが原因の一つであると考え。次年度以降、学生の興味を向上させるような講義を行うことを心がける。

アクションプランシート

2024年度後期 水2

科目名 薬物治療学Ⅰ

教員名 山口 拓

回答者数／履修者数 48／99

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本年度・本講義の理解度は4.2、満足度は4.3であった。昨年度からそれぞれ0.2および0.3ポイント微増したが、本アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントの作成方法など、さらなる向上に努めたいと思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	例年のように、可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作成し、飽きのこない教材作製に注力した。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。また、単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaを活用した解答情報の提供を行うことによって事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらに講義内容に関する補助資料（疾患ガイドラインや重要薬・新薬の添付文書など）についてManabaコンテンツを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。これらの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、講義前にそのプリントを読んでおくことや既に学習（履修）履修済みの関連項目・分野の事前学習（予習）を促したことから、学習理解の向上や記憶固定の動機付け、受講態度・学習意欲等の向上に貢献していたと考える。今年度も成績評価の10％に相当する課題として10回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。さらに、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供し、復習としての事後（自宅）学習、講義内容の反復学習および定期試験前における学修内容の学び直しに寄与できたと考えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3：4.3、質問4：4.4、質問5：4.3であり、昨年度と比較していずれも微増しているが、さらなる向上に努め、昨年同様にクオリティの高い教材作りを心がけたいと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6：4.3、質問7：4.3、質問8：4.3、質問9：4.3、質問10：4.2、質問11：4.2であり、昨年度と比較して微増しているが、大きな変化はなく、さらなる向上に努めたいと思う。
(5) 授業アンケート評価を	本年度・本講義の理解度および満足度は、昨年度からそれぞれ微増し

項目見出し	コメント
受けての授業担当者の所感	ていたが、大きな変化はないと捉えており、さらなる向上に努めたいと思う。 一方で、毎年の課題であるが、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量（新薬情報や診断・治療ガイドライン改訂に伴う新規の薬物療法など）が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習で必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。これが一部の学生における不満要因となって理解度や満足度にも若干反映されていると思われる。本件はカリキュラムの改訂を含めて対応する必要がある喫緊の課題であると考えている。 講義内容については次年度もさらに最新の情報（新薬情報や新しい薬物治療ガイドラインなど）に更新し、これを取り込むことを念頭に、さらなる向上に努めたいと思う。次回の講義プリント配布および診断・治療ガイドライン」の提供が学生の学習理解の向上に貢献していることから、今後も積極的に講義に取り入れたいと考える。また、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供して、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。さらに、この講義動画をオンデマンド配信している現状を活用して、定期試験前に15回全ての講義動画を限定配信したことは、復習を兼ねた学修内容の学び直しと学習理解の向上にかなり寄与したと考えられ、今後も継続したい。少なくとも、このようなアンケートによって学生の要望を把握して真摯に受け止め、取り込み可能な講義内容に関する案件は次年度の講義に活かしたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 薬物治療学Ⅲ

教員名 山口 拓

回答者数／履修者数 59／110

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	本年度・本講義の理解度は4.4、満足度は4.5で、昨年度からそれぞれポイント増であった。全ての講義について講義終了後に録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供したことは、ポイント上昇に寄与したと考えている。本アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントの作成方法など、さらなる向上に努めたいと思う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	従来実施している薬物治療学ⅠやⅡのように、可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作成し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。また、本講義は教科書の各単元（疾患別）の内容に沿って実施した。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。また、単元終了後に内容確認のために教科書単元（疾患別）の章末にある確認問題（症例問題）を自学自習のために実施するよう伝達し、事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらに講義内容に関する補助資料（疾患ガイドラインや重要薬・新薬の添付文書など）をManabaコンテンツを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。これらの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、講義前にそのプリントを読んでおくことや既に学習（履修）履修済みの関連項目・分野の事前学習（予習）を促したことから、学習理解の向上や記憶固定の動機付け、受講態度・学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、今年度も成績評価の10%に相当する課題として5回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。さらに、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供し、復習としての事後（自宅）学習、講義内容の反復学習および定期試験前における学修内容の学び直しに寄与できたと考えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3：4.5、質問4：4.5、質問5：4.6であり、昨年度と比較して微減しているが、さらなる向上に努め、昨年同様にクオリティの高い教材作りを心がけたいと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6：4.5、質問7：4.6、質問8：4.5、質問9：4.6、質問10：4.5、質問11：4.6であった。各項目が昨年度と比較して微減か変化がなかったが、さらなる向上に努めたいと思う。

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本講義は小川由起子教授とのオムニバスとなっている。これまで薬物治療学ⅠやⅡにて実施していない感染症および悪性腫瘍領域（小川担当）や神経精神疾患領域（山口担当）が講義内容であり、体系的に講義内容を構築している。本年度・本講義の理解度および満足度は、昨年度から大きな変化はないが、さらなる向上に努めたいと思う。 一方で、毎年の課題であるが、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量（新薬情報や診断・治療ガイドライン改訂に伴う新規の薬物療法など）が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習に必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。これが一部の学生における不満要因となって理解度や満足度にも若干反映されていると思われる。本件はカリキュラムの改訂を含めて対応する必要がある喫緊の課題であると考えている。 講義内容については次年度もさらに最新の情報（新薬情報や新しい薬物治療ガイドラインなど）に更新し、これを取り込むことを念頭に、さらなる向上に努めたいと思う。次回の講義プリント配布および診断・治療ガイドライン」の提供が学生の学習理解の向上に貢献していることから、今後も積極的に講義に取り入れたいと考える。また、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供して、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。さらに、この講義動画をオンデマンド配信している現状を活用して、定期試験前に担当回9回全ての講義動画を限定配信したことは、復習を兼ねた学修内容の学び直しと学習理解の向上にかなり寄与したと考えられ、今後も継続したい。少なくとも、このようなアンケートによって学生の要望を把握して真摯に受け止め、取り込み可能な講義内容に関する案件は次年度の講義に活かしたいと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 有機薬化学Ⅰ

教員名 山口 泰史

回答者数／履修者数 80／89

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は4.5であり、例年の値から変化はない。アンケートの点だけを見ると、問題ないように思うが、定期試験の成績とアンケートの評価に乖離がある。薬学部に課せられたSBOを考慮すると、有機化学の内容・範囲と授業のスピードをこれ以上遅くすることはできない。1年次を終わった段階で、5割以上の学生がA以上の成績である。基礎を理解している学生は、応用分野にも対応できるようになっている。しかし、一方で、同じ授業に参加しながら、有機化学の基礎を全く理解していない学生もいる。ほとんど毎年、満足度4.3-4.5程度で変化がないのは、学生の二極化のため、と考えられる。有機化学の内容を度外視して満足度を上げるだけなら、面白おかしく授業を行えばよいが、それでは、薬剤師を育てることができない。1年次に有機化学の補習を25コマ行い、基礎学力の向上を目指した。2年次以降は、自ら学習する習慣を身につけてほしい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	・前後期に合計25コマの補習授業を行った。始めは勉強が遅れている学生に限っていたが、後期からは希望者すべてに開放した。毎回の参加者は50～60人で、グループ学習である程度の成果が見られた。 ・授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。 ・学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら（低学年の学生に有効と判明している）板書のみで授業を行った。 ・この授業では、薬学の基本である構造式を理解させる必要があるため、板書で授業を行っている。 ・90分授業の途中に、1～2分の休憩を挟んだ。（授業後半に対する集中力が増した） ・できる限り、問題集や章末問題を用いる演習の時間をとって、理解を促した。 ・MIT化学科で推奨されている勉強方法を昨年に引き続き推奨した。 ・有機化学に対するMotivationを考慮し、医薬品との関連事例を各章で示した。 ・科学史上重要な発見が行われた欧米の有名大学の話をした。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	・本科目は基礎科目であり、コアカリキュラムから、内容を変更することはできない。 ・基礎の理解が得られるまで、根気よく授業を行う。 ・4.5～4.7であった。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	・4.5～4.7でポジティブであった。
(5) 授業アンケート評価を	この科目を含め有機化学系の科目を3科目担当した。1年次を終わった

項目見出し	コメント
受けての授業担当者の所感	段階で、有機化学の理解度に大きなばらつきがある。日々努力し、基礎を理解している学生は、応用分野にも対応できるようになっている。定期試験の成績も素晴らしい。約半数の学生がA以上の成績である。しかし、特にB以下の成績で合格はしている学生でも、有機化学の約束事を自分のものに出来ていない。基礎の理解が乏しい学生は、既に1年後期の段階で、焼き付け刀で、努力しても、みんなに追い付くことができないくらいの差がある。ここ2-3年は、学生の二極化がさらに進んだ印象をもつ。特に深刻なのは、授業にまじめに出席し、（前後期25回の）補習授業に参加しているにもかかわらず、理解できていない学生がいることである。おそらく、人の話を聞いて理解できない、また、文章を読んでも具体的に理解できなとしか思えない。薬学教育はコアカリで内容が縛られ、100名程度の学生がいる現状では、授業進度を遅くすることは不可能である。また個別に勉強を見るわけにもいかない。学生の授業アンケートの結果から、この問題への解決策は見つからない。毎回の授業後、復習を行った（半数以上の）学生が、A以上の成績をとっていることから、学生の勉学に対する姿勢や態度こそが、重要であることがわかる。したがって、学生に対して、地道に勉強特に復習の大切さを説くことが重要であろう。またこの問題については、薬学部全体で取り組むべきである。大部分の学生が、一人でも多くの学生を薬剤師になれるよう大切に育てるために。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 医薬品化学Ⅱ

教員名 淀 光昭

回答者数／履修者数 61／80

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度の評価の推移は、H26年度3.9、H27年度3.7、H28年度4.1、H29年度4.1、H30年度4.1、R01年度4.2、R02年度4.3、R03年度4.3、R04年度4.4、R05年度4.5、R06年度4.5であり、前年度と同じであった。R04年度から配布資料の印刷様式をA4紙1面にスライド2枚を配置するように変更し、文字と図表を大きく見やすくしている。R05年度に続きR06年度も授業内容に関連する国試過去問を紹介したことが、満足度維持につながったと考える。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	Q1&Q2の評価平均の推移は、H26年度3.60、H27年度3.45、H28年度3.55、H29年度3.85、H30年度3.85、R01年度3.75、R02年度3.85、R03年度4.00、R04年度3.75、R05年度3.90、R06年度4.10であり、前年度より有意に向上した。R02年度より、授業を前半と後半に分け、それぞれの最後に授業内容のポイントを確認する5分程度の小テスト(manaba)を実施し、授業終了後に小テストの内容を含む確認問題とその解答・解説をmanabaにアップしている。R06年度は、確認問題とその解答・解説のmanabaアップを授業終了後30分以内に行うようにしたことが評価平均の向上につながったと考える。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3～Q5の評価結果の平均は、H26年度 3.87、H27年度 3.73、H28年度 4.07、H29年度 4.13、H30年度 4.10、R01年度 4.20、R02年度 4.23、R03年度 4.33、R04年度 4.47、R05年度 4.47、R06年度 4.53であり、今年は前年度より向上した。配布資料には、理解を助けるよう出来るだけ図を入れ、ポイントをまとめることを心掛けた。また、授業内容に関連する国試過去問を授業中に紹介し、確認問題にも取り入れたことが評価向上につながったと考える。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11の評価結果の平均は、H26年度 4.00、H27年度 3.68、H28年度 4.20、H29年度 4.17、H30年度 4.13、R01年度 4.22、R02年度 4.35、R03年度 4.38、R04年度 4.50、R05年度 4.53、R06年度 4.62 であり、今年は過去最高の評価であった。R02年度から実施している、授業の途中と最後に小テストを実施して授業内で復習する機会を与える取り組みは有効と考えている。また、意識してゆっくり滑舌よく話をするように心掛けたことも評価向上に寄与したと思われる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	Q1～Q13の平均評価はR05年度4.40からR06年度4.48と全体的に評価ポイントは向上した。昨年度と同様、各授業の前半・後半の最後にmanaba小テストを実施して、授業内容のポイントをすぐに復習できるようにした。今年度は、授業内容に関連する国試過去問を多く取り入れ、学んだ事項が国試でどのように出題されるかを意識させたことが評価向上に寄与したと考える。本科目を担当するのは今年度が最後である。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 医療生命倫理

教員名 太田 一寿

回答者数／履修者数 75／88

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	例年と同じく、4.8と高い評価をいただいた。この姿勢を継続していく。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教育アプリ：sugukikuを用いた双方向性講義
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	全項目4.8と高い評価をいただいた。これも例年通りである。この姿勢を継続していく。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q8「教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたか」以外は4.8-4.6と高い評価をいただいた。これも例年通りである。Q8に関しては「紙の資料があると集中しやすくなると思いました」などの自由記述もあるが、昨今のペーパーレスの流れもあるので、オリエンテーション時の説明を工夫するなどして受講生に納得していただくよう努力したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	高評価の場合はこの作業をスキップさせてほしい。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 製剤学

教員名 神谷 誠太郎

回答者数／履修者数 74／91

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	2年前が4.2、1年前が4.3で本年度が4.5と少しずつ上昇してきた。ここ二年で意識していることは、話すスピードと現時点では、〇〇ページの〇〇の項目の話をしていると話題が変わるたびに話すように意識している。今後も続けていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	ここ3年間気にしていることは、話すスピードを意識している。また今どこのページの説明をしているということを、しつこく「今は、〇〇ページの図の解説をしている。」など、最近まで面倒でしてこなかったことを丁寧に行っている。今後も続けていきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3からQ5は、毎年あまり高くない項目である。本年度は比較的高得点であった。 残念ながら理由は分からない。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問11の学生の授業参加を促す項目が毎年芳しくない。 Q6～Q11の項目の中で毎年最低点である。改善していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業満足度において4.5と、製剤学の授業史上一番良い評価を得ることができた。点数自体は大したことないが、これまで4.2ぐらいが普通だったのに、3年ぐらい変えて0.1ポイントずつ高まった。来年は元に戻ってしまう可能性もあるが、地道にやっていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 病院薬学
教員名 神田 紘介
回答者数／履修者数 72／86

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は前年度4.6、今年度4.5であり、若干低下した。今年度は、予習課題をあらかじめ提示、manabaで自由な質問を受け付け講義中に回答するなど、学習効果や集中力を意識した講義にしたつもりであるので、残念ではあった。講義の聞き取りやすさに関するコメントが一部見られたため、この点は意識したいと思う。来年度はさらにresponなど双方向ツールを取り入れ、さらなる改善を図る。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	予習課題を提示したことで、質問1のポイントは前年度3.4から今年度4.1へと向上した。質問2の態度が前年度4.0から4.3に向上したため、予習を組み込むことが、態度や学習意欲の向上につながったと考えている。来年度も継続して実施していく。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	質問3と4が、前年度4.5から今年度4.4へと低下した。この点は昨年度指摘がなかった「声の聞き取りやすさ」、ポインターの設定ミスで指説がうまくいかなかった回が1コマあったことによると考えている。来年度は意識して改善を行う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	質問6～9について、前年度4.6から今年度4.4-4.5と低下した。この点は昨年度指摘がなかった「声の聞き取りやすさ」、ポインターの設定ミスで指説がうまくいかなかった回が1コマあったことによると考えている。来年度は意識して改善を行う。 質問10・11についても、昨年度4.5から4.4へと低下した。自由記載でピ逃げをしている学生がいるとの告発があった。このような学生への対策は現状全く行っていない。この点には気が付いていなかったため、来年度はピ逃げを防ぐ対応をとろうと考えている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	毎年、授業アンケートを受けて授業方法の改善を行っており、前年度よりも工夫を行っている。満足度の向上にはつながらなかったが、今回の結果を来年度に生かし、さらなる向上を目指したい。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 医療生命倫理

教員名 田中 宏光

回答者数／履修者数 80／88

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	生命倫理の講義は話し方によっても誤解を招く可能性があり日頃より心配してるが、一定の評価が得られて安心しました。来年もうまく話せるか注意深く講義を組み立てたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	最近の医療技術の進展は目覚ましく、個々の医療技術に関しても情報が氾濫しており、薬剤師としての判断力を持つことが、患者さんへの各薬の処方について説明するために重要である。過去に科学技術の進展に伴い起こった不幸な出来事を、現在の視点から解析し、当時の間違った社会体制部分を掘り起こし、反省していくことに焦点を当てた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	薬学部新生に、薬剤師としての社会的責任を自覚させて、さらに真剣に勉学に自信をもって励むように話が伝わったものと考え。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	現在も医療の技術は進歩しつづけ、新しい薬が販売されている。若い人にこれらを見極める力をつけてもらい、さらに倫理的で安全な医療技術の発展に貢献してもらいたい。私自身の古い考えが正しいものかわからない、新しい医療従事者に、続く医療・薬の発展を託したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	来年に向けて新しい話題を取集するように、社会で起きてる問題点をできる限り拾い上げておきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 分子細胞生化学演習

教員名 田中 宏光

回答者数／履修者数 45／58

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	昨年度と同様に講義を進めてが、昨年度に比べ満足度が低くなった。自由記述でも講義に不満をもつ指摘が見られた。昨年度に比べさらに学生の学力が変化していると考えられ、それに合わせて講義を進める必要を感じた。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の中に、「ビ逃げしてる人への対処が悪い。毎回必ず複数人がビ逃げしているのに取り締らないから一生懸命頑張ってる人が馬鹿みたいだった。」どの授業でも一定数いるのに対策がなっていない。ととても稚拙な意見があった。自分のために勉学をする態度が身についていない、周りを観察し自分がどのようにふるまうべきか、洞察力が稚拙であり、判断力や解析能力が低いことがうかがえる。また、問題と解答を場当たりの組み合わせで記憶を進めていく勉強に慣れてしまっている様子が、個別意見から伺えた。3年生でもあることから、関連する項目を広く自分で理解し結びつけていく勉学の態度を身に付けてほしい。一方で、学生に合わせて演習問題の改変が必要であり、来年度の講義に反映させたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	アンケートのピークは4, 5であり一握りの学生が低い評価を付けた。昨年と同様でありながら、まとまりがないと感じている学生が多いことを反省し、つながりが理解できない学生が多くなったので、より丁寧に講義を進めるために、演習問題の作問を工夫したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	一握りの学生以外には、講義がうまく伝わったものと考えられる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	国家試験合格を目指し今後も同様に講義を進めていきながら、一握りの学力、解析能力の低い学生にも対応していく必要があるため、講義を幅広い学生に向けて再考しながら、学力レベルは維持できるように工夫したい。

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 地球環境論

教員名 出口 雄也

回答者数／履修者数 209／241

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は4.5（過去2年は4.3、4.4）と、例年と比べ高い評価であった。留学生も多く授業内容の理解、満足に対して不安もあったが、留学生の満足度は4.7と高く安心した。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講態度は例年通りであり、カードタッチして不在となる学生、途中退室して戻ってこない学生、授業終了直前に戻ってくる学生など多かった。該当学生は2度目以降は出席を欠席に変更するなど対応し、不正しないよう何度も伝えた。Q1は3.7（過去2年は3.5、3.3）、Q2は4.2（過去2年は4.0、4.0）と例年と比べ高い評価であった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3は4.5（過去2年は4.3、4.4）、Q4は4.5（過去2年は4.3、4.5）、Q5は4.4（過去2年は4.2、4.2）と例年と比べ高い評価であった。授業内容は毎年アップデートして最新の話題を取り入れていたが、今年はそれをレポートとして課すことで情勢をより理解してもらうことを意識した。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6は4.6（過去2年は4.4、4.5）、Q7は4.5（過去2年は4.3、4.4）、Q8は4.6（過去2年は4.5、4.5）、Q9は4.6（過去2年は4.4、4.5）、Q10は4.4（過去2年は4.4、4.2）、Q11は4.5（過去2年は4.3、4.2）と、いずれも例年と比べ高い評価であった。なお、授業方法は例年通りで変更していない。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	コメントからは私の意図が伝わる感想が多くて安心した。受講者が241名と多く、レポートを4回課したことから採点業務が大変であり、個別にフィードバックすることができなかったのが悔やまれる（授業で全体に対してはフィードバックしている）。この科目は2009年度以降16年間担当してきたが、来年度より新任の先生に引き継ぐことから今年度が最後となった。学生のレポートの質の低下や受講態度に不満もいっぱいあったが、実際にeco検定を受験し合格してくれた学生もおり、他学科の学生と一緒に学んできたことを振り返ると寂しい思いもある。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 衛生化学Ⅰ

教員名 出口 雄也

回答者数／履修者数 99／107

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は4.7（過去4年は4.3、4.6、4.7、4.6）と高い評価を維持できている。苦手としている単位換算、計算問題については丁寧な解説を意識し、理解にもつながったことと思われる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	Q1は3.5（過去4年は3.5～3.8）、Q2は4.3（過去4年は4.2～4.4）と例年と比べ低めの評価であった。毎授業で小テストを実施し成績に反映させているものの、未提出の学生が多く、Q1で「2」が9名、「1」が12名と勉強習慣がない学生が多いことがQ1の評価につながっている。小テストの成績が全体の成績の15%を占めることを何度か伝えたが、小テストの提出に至らなかった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3は4.7（過去4年は4.3～4.7）、Q4は4.8（過去4年は4.4～4.8）、Q5は4.7（過去4年は4.3～4.7）であった。授業内容は近年話題となった事例を取り入れるなどして興味を持てるように更新しており、高い評価を維持できていると思われる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6は4.8（過去4年は4.4～4.8）、Q7は4.8（過去4年は4.4～4.7）、Q8は4.8（過去4年は4.4～4.7）、Q9は4.8（過去4年は4.4～4.7）、Q10は4.7（過去4年は4.3～4.6）、Q11は4.8（過去4年は4.4～4.7）と例年と比べて高い評価であった。授業方法は例年と同じで特に変更していないが、学生の意見を紹介するなど授業参加を促す方法は継続している。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	2年後期は中間試験を実施する授業が多く、中間試験を実施しない衛生化学ⅠはQ1の復習をはじめとした自己学習に関する評価が毎年低い。小テストを難しくすることできっかりと復習してほしいと思い、年々難化させていたが、これまでの自由記述欄から「難しい」という回答があったため、今年度は少し難易度を下げた問題を増やし取り組みやすいようにした。それでも未提出であったり、Q1の評価で「1」「2」と評価している学生がいるため、中間試験を行うことも視野にいたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度後期 火2

科目名 機能形態学Ⅱ

教員名 藤井 佑樹

回答者数／履修者数 81／89

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	5点満点中4.9点を得ることができ、写真や模式図を活用した講義資料の資料作りが間違った方向ではなかったことを確認することができ、自身の肯定につながった。これに満足することなく、国家試験の傾向をアップデートしながら、来年度も講義を行っていききたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講生たちは非常に前向きな態度で講義に参加してくれたことが感じられた。90分フルに講義を行ってしまうと集中力が欠けるので、途中で休憩や雑談を織り交ぜた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスに記載された内容を遵守しながら、講義を行うことができた。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	国家試験の出題傾向は時代と共に変化するので、今の授業方法に甘んじることなくアップデートを行っていききたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	機能形態学Ⅱは薬学専門科目につながる要の科目である。そのため、人体の構造と機能に関する知識の定着が重要であると考えている。1年生の学生にはその科目が楽しくなるような工夫が大事であり、文章だけでなく視覚で訴える講義が学習意欲の向上につながるのではないかとアンケートの自由記述欄から感じられた。学生が何に興味を持っているかを感じ取れるようにアンテナを張り、講義に反映することで学習意欲の向上につなげるような講義を行っていききたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木2

科目名 専門演習Ⅰ

教員名 藤木 司

回答者数／履修者数 88／111

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	講義に対する満足度が4.8と全体の平均レベルを上回ることができたが、目標としていた数値よりは低かった。自由コメントにもあるが講義における説明に関する内容やスピード、学生の理解度を都度、確認をしながら進めていくなどの対策により丁寧な講義として受け止めてもらえる要素があったと感じた。今後の検討課題として次年度に向けてより一層の満足度が得られるように努力したい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義中に双方向で学習の理解度を図るためにresponの導入、授業中に授業内容に関するアンケートや質問を交えて理解度や興味を採りながら進めたが、その点についてはある一定の評価を得たと感じる。講義内容に関わる一般的なトピックや身近な話題を織り交ぜながら展開するように意識した構成としたのも評価につながったと感じる。資料づくりについては見やすく、わかりやすくを徹底して、わかりにくいところさらに改善するように努めたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	講義の内容についてはシラバスに沿って進めた。それについては学生から一定の評価を得たように感じる。今後はより興味を持てるように内容を工夫していきたい。CBT受験対策、薬剤師国家試験対策へ寄与する内容、演習問題に関してもアップデートしながら対応していきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	自由記述コメントより資料に関する良い評価を得られた部分もあるが、授業資料などは極力文字を大きく、書き込みができるようにスペースを作るなど学習効果を上げられるように配慮して作成した。また、なるべく事前に資料を配布し、興味を持って予習することができるような配慮を心がけた。資料については自由記述にあるように効果的であったと感じるが、より一層の修正とアップデートを行いさらに改善に努めたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	講義に対して十分に準備をして臨んだつもりであったが、逆に講義内容が多くなり説明や進め方が一部の学生にとっては少々早いと感じることがあった反面、丁寧に説明した部分については理解度の高い学生には簡単な内容として捉えられていたようで、次年度は講義における重要なポイントをより明確にして、端的にわかりやすく進めていけるように準備、実施したいと思う。さらに理解度を測るアンケートやテストを講義内に導入できればさらに学生への理解度に関するフィードバックが可能となると考える。一層の努力に努めたい。

アクションプランシート

2024年度後期 金1

科目名 生化学Ⅰ
教員名 藤本 京子
回答者数／履修者数 79／92

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	問13の回答は、平均4.8（回答率85.9%）であり、満足度の高い結果であった。昨年度までの実施方法と大きく変えた点はなく、学生一人一人に真摯に向き合うことを常に心がけた。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	前方の席に座ってもらうため、一番後ろの座席を使用禁止ゾーンとした。学生たちはルールをしっかりと守り、すべての授業で後方の席を避け、前方に座ってくれた。その結果、授業中のコミュニケーションが取りやすくなり、良い雰囲気を作ることができたと感じている。また、学生には「わからないときは、わからない表情をしてください」と伝え、表情を見ながら授業を進めるようにしていた。さらに、時折質問を投げかけ、学生に回答を求める際には、周囲の学生と協力して答えを導き出すことをルールとした。このルールにより、わからないことを一人で抱え込まず、自然に協力する姿勢を身につけることができたと考えられる。こうした工夫が、前の席に座ることへの抵抗感を和らげ、学習意欲の向上にもつながったのではないかと推測される。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	1年生の内容は、今後の多くの科目につながる内容なので、どの科目とどのようにつながるのか細かくつたえるようにした。次年度以降も続けていこうと思う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	特に改善する点はない。学生とのコミュニケーションをよくとりながら、今後も真摯に取り組んでいく。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケートの結果には、学生の忖度が含まれている可能性があるため、良い評価を受けても決して慢心せず、常に真摯に取り組む姿勢が大切だと考えている。今後も、一人ひとりに寄り添った授業を展開し、学習内容を毎年ブラッシュアップしていくことを心掛けていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 生物有機化学

教員名 山田 耕平

回答者数／履修者数 83／117

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は全体平均と同等以上の4.7となり、前回の4.5より上昇した。更なる向上策としては、有機化学だけでなく、一般的な勉強の仕方をしっかりと教えたい。もっと基礎を繰り返して満足度と成績がリンクするようにしたい。暗記と理解の両方のアプローチが重要であることを強調していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業の始めに前回の内容のテスト及び解説・その週にきた質問の回答を紹介したことが良かったと思う。さらに、一つの内容を教えるごとに、高校レベル、一年生レベルの基礎を、順を追って説明したからと考えている。また、一つの内容を説明したら小問を解いて演習という形で講義を行っているので、集中力を切らさずに取り組むことができたのではないかなと思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3は4.7、Q4は4.8、Q5は4.7であった。昨年度は、Q3は4.4、Q4は4.6、Q5は4.4であったことから、全体として向上したしたと考えられる。 改善点としては、もう少し基礎からの流れを詳細に説明する資料を足していきたいと思う。有機化学はこれまでの学習内容の積み重ねがないと、新しい内容は全くわからないので、学習の穴を埋めるような資料を作成していくつもりである。2年生でも、高校の内容からやり直す必要がる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6:4.8, Q7:4.8, Q8:4.8, Q9:4.7, Q10:4.7, Q11:4.8と全体平均程度であり、昨年度 (Q6:4.6, Q7:4.5, Q8:4.6, Q9:4.5 Q10:4.6, Q11:4.6) と比較しても向上していると言える。2などの低評価の学生がいなかったことが大きな要因であると考えられる。今後も取りこぼさない講義を心がけたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年度の生物有機化学のアンケートと比較して全体的に評価は向上したと思う。低評価の学生がいなかったことが主要因だと思うが、そのような学生がいなかったのか、提出していないのかはわからない。学生の学力が低下傾向にあるのが問題で、話してみると高校レベルの化学がまったく身につけていない。一方、最終ゴールである薬剤師国家試験の問題は年々難化しており、教える内容を簡単にするわけにもいかない(授業アンケートの評価を上げるにはそれが一番だが)。やはり、基礎を何度も振り返りながら学ぶべき内容を教えていく以外ない。

アクションプランシート

2024年度後期 火1

科目名 細胞生物学

教員名 石原 知明

回答者数／履修者数 88／115

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	7割の学生さんが満足度5、2割が4をマークしており、全体的に高い満足度の授業を展開することができたと判断している。自由記入欄を見ても、わかりやすかった、などの感想が多く、総合的に良い講義を提供することができたのではないかと考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	生物の授業では、とにかく暗記を強いられる学生さんが多いため、まずは原理・原則を解説し、なぜその現象が起こるのかを詳細に説明することを心がけた。内容が理解できているかを確認するために、毎回論述形式の問題に取り組む時間を作った。解答状況を観察し、つまづいている部分の解説をすることで、理解を助けられたのではないかと考えている。さらに、希望者には添削指導などを行い、わかりやすい文章の作成の仕方についてもレクチャーした。これらの試みが一定の満足度につながったものと考えている（自由記述欄からも好評であったと判断しているので、次年度以降も継続したい）。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	9割程度の学生さんが5または4を選択していることから、内容については一定の水準に達していると思われる。 生物により興味を持ってもらうために最新の研究や薬と紐付けた話をできる限り提供するように心がけた。来年度以降、もっと薬の内容を多くし、薬理学の理解に役立つ話ができるように準備したい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	ほとんどの学生さんが5または4を選択していることから、方法については一定の水準に達していると思われる。2をつけた学生さんが各質問に02名いるものの、具体的にどこを改善すると良いかについてのコメントがないので、即効性のある対応策は難しい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	以前は自習用に準備していた論述問題の一部を授業中に行ったが、自由記述欄を見ると概ね好評であったため、次年度以降もこの取り組みは続けたい。 今年度は観察できた間違いには対応できたが、全てを解答を確認することはできていないので、ポートフォリオで提出させ、間違って理解している部分を完全に抽出して対応したい。 自身で考えることが重要であることを理解してくれた学生さんがいたことは望外の喜びである。次年度以降、もっと多くの学生さんにこの重要性が伝わるように呼びかけていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 物理学演習

教員名 榎本 彩乃

回答者数／履修者数 27／28

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	概ね満足できたとの回答を得られており、昨年も同程度であったと記憶している。そのため、引き続き学生の要望を可能な限り取り入れるとともに、学生のレベルを見極めた上で、自学を促す授業構成と資料作成に努めていく。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生が興味を持ちやすいよう、普段の生活や薬学との関連を意識して説明を行った。また、2年生以降の専門科目とのつながりを例年よりも多く示すことで、学習の意義を実感できるよう工夫した。これにより、学生の受講態度や学習意欲の向上につながったと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	興味を持てるような工夫を施したものの、依然として興味を持ちきれない学生がいた。これは、理解の難しさに起因する部分が大きいと考えられる。過去の評価結果と比較しても同様の傾向が見られるため、改善が必要である。今後は、中学校理科のレベルから学生がどのような学習を経てきたのかを改めて再考し、基礎知識の補強を含めた授業構成の工夫を行うことで、理解度向上につなげる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	「本授業の評価結果は概ね4以上であり、大きな問題はないと考えられる。しかし、自身では話し方や話のまとまりに欠けると感じる場面もあった。そのため、授業前の準備をより徹底し、重要なポイントを明確に伝えられるよう話し方の工夫や資料作成に努める。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	物理が嫌いな学生が多いことを考慮すると、『わかるようになった』という声が聞こえ、比較的高評価を得られたことは良かったと感じる。学生の要望を可能な限り取り入れ、課題の解説や練習問題の工夫、資料の改善に努めたことが評価につながったと考えられる。学生のレベルは年ごとに異なるため、次年度も学生の理解度をよく見極めながら、授業構成の改善に努めていく。

アクションプランシート

2024年度後期 火5

科目名 総合実習

教員名 大久保 伸哉

回答者数／履修者数 86／104

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度の評価結果の平均値は4.8（昨年度4.9）であったことから、おおむねほとんどの学生の満足度は得られたのではないかと考えられる。しかしながら、3点評価の学生が3名：約3.5%（昨年度2.7%）いることを軽視してはならないと考える。自由記述欄には（嬉しいことに）否定的なコメントはないので、あらためて、自分の授業を俯瞰的に評価してみたところ、下記の可能性があることに気付いた。私は学生の要領の良さや性格を一言二言の問答によって判別し、その学生に最も合うと思われる指導方法を選択し実施しているのだが、その判断基準として、能力をやや重視する傾向がある。この方法でほとんどの場合問題なく指導できている結果（満足度）が得られてはいるが、一部の学生にとっては満足度のいく指導にならなかった可能性がある。今後、満足度の更なる向上（満点の5.0）を目指して、個々の学生の資質を見極める際には、能力と性格の比重を学生によって変動させながら評価し、すべての学生にマッチした指導ができるよう精進していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	満足度は、昨年度平均4.9に対して今年度平均4.8であった。本実習は、OSCE対策に特化した実習であることから、OSCEに合格するために積極的に実習に参加する学生がほとんどである。そういう意味では、本実習自体に学生の受講態度や学習意欲が良好になる要因があると思っている。そのため私が行うことは、学生の高いモチベーションを妨げないような実習を組み立て、実施するだけで良いと考えている。そのために私が実施していることは、実習がスムーズにいくよう授業計画を熟考することと、消耗品を切らさないことである。とても基本的な方法だが、その効果は高い。実際に、自由記述欄には「復習がしっかりできたので良かったです」という記載があった。今後も、同じような方法で本実習を実施していきたいと考えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	アンケート中の質問3-5に関して、3点をつけた学生がそれぞれの設問で約3-5%ずついる。この結果は、昨年とほぼ同様である。今後は、3点以下の学生数0を目指したい。方策として、困った素振りや戸惑っている様子を見せた学生を決して見逃さず、発見したら積極的に声をかけ、適宜助言を行うようにしたい。そうすることで、1人でも多くの学生の理解が得られるのではないかと考えている。1名も見逃さないくらいの覚悟をもって、実践していきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	アンケート中の質問6-11に関して、2点以下をつけた学生はいなかった。これは昨年度も同様である。今年度は、昨年度から継続して、各種説明事項は丁寧に分かりやすい説明になるよう意識しながら説明した。加えて、説明用資料のバージョンアップも行った。これらのことが、結果的に学生に“熱意”として伝わったのではないかと解釈している。毎年、少しでも変化を加えてバージョンアップを繰り返していけば、評価が大幅に下がることはないだろうと考えているし、それがこれまでの4年度を通じた一定の成果につながっていると前向きにとらえている。引き続き、継続していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大学教員就任5年度目および同授業の授業評価5回目としては、問題ない評価であったのではないかと感じている。それと同時に、過去5回を通して評価が悪くなかったことから、本実習を実施する上で私の振る舞いは問題ないと考えられ、現状を維持していくことが重要であると考えている。初年度から『次年度は、本年度の評価を下回ることがないように、作成済みの講義資料（実習で使う配布資料）のアップデー

項目見出し	コメント
	トを行い、説明する際に用いるセリフを磨き、理路整然とした分かりやすく熱意のこもった実習を実施することを目標とする。』という内容の目標を継続して掲げてきた。個人的には、目標に定めた事項を本年度もおおむね実行できたのではないかと考えている。次年度も同様のことを意識しながら、わかりやすい授業になるよう心掛けていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 臨床薬物代謝学

教員名 川寄 達也

回答者数／履修者数 52／97

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13平均値推移は、4.4→4.2→4.2と推移し例年と同程度であった。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	・毎回の小テストに講義に関する自由記述欄を設け双方向性の講義を行った。 ・学生から語呂合わせを募集し復習長期記憶形成の機会を提供した。 ・他科目との関連性、丸暗記ではなく理解の重要性、薬剤師業務との関わりを提示した。 ・併用禁忌、併用注意となる薬物相互作用を意識した構成に配布資料を修正した。 ・インタビューフォームを活用した小テスト課題を設け、実臨床とのつながりを意識させた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3平均値推移は、4.5→4.1→4.2と推移し例年と同程度であった。 Q4平均値推移は、4.6→4.3→4.5と推移し例年と同程度であった。 シラバスと授業内容の整合性を問う項目であるが、1, 2を付けた回答者が各1名いる。 根拠 Q5平均値推移は、4.4→4.1→4.4と推移し例年と同程度であった。 毎回実施している小テストに自由記述欄を設け、改善などの要望があれば受け付けている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6平均値推移は、4.5→4.1→4.1と推移し例年と同程度であった。 Q7平均値推移は、4.6→4.3→4.3と推移し例年と同程度であった。 Q8平均値推移は、4.5→4.3→4.3と推移し例年と同程度であった。 Q9平均値推移は、4.6→4.3→4.4と推移し例年と同程度であった。 Q10平均値推移は、4.5→4.5→4.2と推移し例年と同程度であった。 Q11平均値推移は、4.5→4.4→4.4と推移し例年と同程度であった。 毎回実施している小テストに自由記述欄を設け、改善などの要望があれば受け付けている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	・今年度は初めてマークシートでなくWEBで授業アンケートを収集したところ、回答率が53.6%と著しく低下した。オムニバス科目であり低回収率を事前に予想できたため、回収期間を2週間設けてはどうかあらかじめ提案したところ、通例と異なるため却下されている。回収率が50%台ではアンケート結果が妥当か疑問が残るため、次年度は集計期間の延長を検討いただきたい。 ・回収率の低下に伴い、自由記述数も減少した。以前の授業アンケートで小テストの電子配布希望があったため実施したところ、小テストの紙媒体配布希望が1件あった。今後はペーパーレス化を念頭に引き続き電子配布とする。 ・わかりやすさについて、自由記述に真逆の意見があるが、低学年科

項目見出し	コメント
	目の理解度の差が反映されている。 ・引き続き、授業評価アンケートとは別に毎回講義に対する自由記述欄を設け、学生に授業改善の機会を提供する。

アクションプランシート

2024年度後期 水4

科目名 生化学実習

教員名 倉岡 卓也

回答者数／履修者数 63／98

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	アンケートの回答率が70%を切っているが、これまでと同様の評価結果となった。生化学Ⅰで習ったことの復習、酵素の反応速度論を理解することの意義をこれまで以上に伝えることで満足度の向上を目指す。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	酵素の性質を理解することの意義を説明し、さらに実験手法の意義・結果の解釈を丁寧に説明したため、多くの学生の満足度が得られたと考えられる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	実験の手技について説明不足があったことや、日常生活に繋がる酵素の話ができなかったことが一部の学生の低評価になったと考えられる。実験の注意事項の伝達をしっかりと行い、興味を持てるような話を来年度は実行する。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	大部分の学生の評価は良好であった。実習を早めに終わらせることを優先してグループ内の一部しか実験をしないグループがあったため、全員が参加するように来年度から促していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概ね良好な結果であったが、例年実施していた説明を今年度はできなかったため、来年度は丁寧に説明して理解度・満足度の向上を目指したい。

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 病院薬学

教員名 末廣 真理恵

回答者数／履修者数 70／86

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	平均4.5という高い満足度を得ることができた。数名満足できていない学生もいるようなので、学生の意見をよく聴き、満足度の高い講義になるよう心がけていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	薬剤師の実務の話をたくさん話したり、随所に国家試験の過去問を取り上げたことで、学生の学習意欲を向上させるよう工夫している。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業内容について最新の薬剤師の業務をとりあげられるよう研鑽に努めていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	出席確認についての意見が寄せられていたもので、来年度は真面目に講義に参加している学生が不利益を被らないよう対策を考えていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概ね高い評価を得られていたので、学生が満足する講義ができていて良かった。予習や出席確認について改善策を考えていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月1

科目名 毒性学
教員名 相田 美和
回答者数／履修者数 77／87

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13 4.5 (R4) →4.6 (R5) →4.6 (R6) 満足度は昨年度と同じであった。定期試験の結果をみると、授業についてこれない学生が一部ではあるが、この科目は3年前期までの様々な科目の内容と関連するため、これまでの学習内容の理解度が低い学生には難しいのかもしれない。対応として、前段階の説明をもう少し加えてみる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	確認問題の配布と解答の公開によって、学生が復習に取り組みやすい環境をつくった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3 4.5 (R4) →4.6 (R5) →4.5 (R6) Q4 4.6 (R4) →4.6 (R5) →4.5 (R6) Q5 4.5 (R4) →4.6 (R5) →4.5 (R6) Q3,4,5はいずれも少し下がった。 Q3の向上策として、今年度から一人で担当するようになったので、これまでと授業回を多少入れ替えている。内容によっては異なる授業回に入れた方がまとまる箇所もあるので、次年度はその経験を踏まえて授業内容を吟味する。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6 4.5 (R4) →4.5 (R5) →4.5 (R6) Q7 4.5 (R4) →4.6 (R5) →4.5 (R6) Q8 4.6 (R4) →4.6 (R5) →4.5 (R6) Q9 4.5 (R4) →4.6 (R5) →4.4 (R6) Q10 4.4 (R4) →4.6 (R5) →4.4 (R6) Q11 4.5 (R4) →4.5 (R5) →4.5 (R6) Q9、Q10は少し下がった。他は昨年度と同じであった。 Q9は、パワーポイントに直接書いた時に分かりにくいこともあると思うので、板書にするなどで対応する。 Q10について、途中で退出する学生がいるが、配慮申請に記載の理由なのか判断できず、声をかけにくい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	この科目の内容は、最近の薬剤師国家試験に頻出である。また、かなり難易度の高い問題が出題される傾向にあり、授業の難易度をある程度保たざるを得ない。3年前期までの内容の理解度が低い学生にどのようにすれば伝わるのか難しい課題だと感じた。

アクションプランシート

2024年度後期 金2

科目名 香粧品学
教員名 相田 美和
回答者数／履修者数 45／80

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13 4.8 (R6) 身近な話題として、マスコミで見かけるもの等を授業の題材として扱う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	ゲストスピーカーの授業が好評だったと思われる。いずれの演者の方も、興味をひくような導入部を用意されていた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3 4.7 (R6) Q4 4.7 (R6) Q5 4.8 (R6) 香粧品への興味が希薄な学生へは、販売や開発の視点から授業を受けてみるように勧める。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11 4.7 (R6) ゲストスピーカーは印刷資料を配布しない場合が多かったので、その点をあらかじめ伝えておく。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	自由記載欄に学生も書いているが、ゲストスピーカーの方々の授業は、自社の仕事や製品に対する自信と熱意が伝わってきて、自分はそういう意味でも勉強になった。

アクションプランシート

2024年度後期 水1

科目名 臨床検査学

教員名 高崎 伸也

回答者数／履修者数 74／86

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	今回、今まで取り組んできたことの完成度を高めることを目指した。結果、4.6と十分に満足できる結果となった。取り組んできたことは、学生からの参加を促す双方向の講義スタイルおよび、意見を述べさせること、皆の前でよい意見を取り上げ褒める事であり、これらがよいことを再確認できた。これは、講義を単調とはしないため集中力を切らさない事にも寄与していると考えている。今回の講義でよかった点は維持しながら、さらに完成度をより高め、さらなる向上を目指したいと考える。ただ、前回の満足度が4.8からは下がっていたが、これはおそらく講義の難易度のためではないかと考える。本講義は、臨床医学概論、疾病学1と疾病学2を理解していることが前提となっているため、習熟度が低い学生は難易度は高くなる。そのため、年々学力が低下していく学生には難しくなっている可能性があるため対応を考えていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	双方向の講義スタイル、タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作りなど、学習の意欲や集中力の持続の向上を目指し、取り組んでいる3つのことが良い評価につながっていると考えられる 特に、講義の導入に力を入れたのがよかったのではないと思う。また、学生の集中力を切らさぬように、学生の顔を見ながら、タイミングを見計らい、ちょっとした笑いを盛り込み、息抜きを行っている。学生のコメントにもあるように、これにより学生の集中力の持続につながったと考えられる。 図や表を多く使用し、視覚から分かりやすい資料を心掛けている。このために資料が多くなるのはやむを得ないと考えている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3-5は、いつもと同様以上に、全部4.6-4.7とかなりの高評価であった。 Q1,2の授業の予習および復習についての項目が、前回と同様、3点台もあり高得点とはならなかった。ただ、無理に宿題などで復習させることは学生の負担増につながると考えられる点で難しい。最終的には、妥当な難易度の試験問題が解けることができており、問題ないとも考えている。簡単な前回の講義に関する復習の課題を毎講義出しているが、評価の対象としていないためか、それだけでは不十分であるように思われる。ただ、この質問の回答の正解率が高いので、ある程度は授業の内容が残っていたり復習を行っていたりすると思われる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6-11では、4.5以上のみでいずれも十分によかったと思う。現状を維持しながら微調整を行っていきたいと考える。資料が多い事に対して受講生が納得できるよう説明をしたいと考える。項目の分けをわかりやすくしてほしいとの要望があったため、より工夫したいと考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケート結果も最近は高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。特に今回はさらに特典が高く、講義の導入に力を入れたのが高得点につながったのではないかと考えている。主に行っている3つのこと、つまり、学習の意欲の向上や集中力の持続が良いスタイルになっており、評価につながっていると考えられ満足している。大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。Q1の授業態度に関する点数が低いが、定期試験は

項目見出し	コメント
	高い難易度を設定しているが平均点は高いため習熟度は高いと思われる。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。

アクションプランシート

2024年度後期 月3

科目名 機器分析学

教員名 中村 沙織

回答者数／履修者数 73／105

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は4.1→4.3→4.2→4.3→4.1→4.1→4.4→4.5→4.6→4.5→4.7と推移している。今年度はこれまでで最も良い評価を得ることができて安心している。講義内容を振り返り、足りなかった点を補いつつさらに向上させていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義の内容構成や配布プリントを毎年改善している。資料に加え要所で板書を用いて説明しているが、今年度は遠隔受講者がいたため、直接スライドに書き込んだ。穴埋め式にしているのも、講義を聴きながら書き込むことで重要事項がどこかわかりやすく、また飽きさせにくくしている。 講義ごとにrespon等で質問や感想を募っているが、今年度はコメントが少なかった。また、復習用の問題を配布しており、学ぶべき要点を示していることで復習の一助になっていると感じる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3～Q5はここ3年ほど4.4～4.6を維持している。今年度は2以下を回答した学生がおらず平均値が高めであった。ある程度の講義の構成や講義内容に興味を持てるような例示がまとまってきたと感じる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6～Q11はここ数年4.5以上の評価を得ており、今年度は4.7以上であった。 講義内容が多いため毎年早口を指摘されるが、今回は遠隔対応であることを意識して講義を行い、重要事項は何度か繰り返して強調する等の工夫を行った。 昨年度、配布資料に指摘があったので改善した結果、一定の評価を得ることができたと感じる。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度も一部遠隔対応のため板書等PC画面内で行った。録画もするので学生にとっては見やすいのかもしれないが、講義室内の様子がわかりづらいので、少し方法を模索していきたいと感じた。配布資料も概ね好評であるが、昨年度指摘があった部分を改善した。今年度はいい評価が得られたと思うので、次年度以降もさらにいい授業となるよう心掛けていきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火2

科目名 薬理学Ⅳ（中枢）

教員名 縄田 陽子

回答者数／履修者数 69／89

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	昨年度4.7ptであり、昨年度から同値となった。おおむね良好な結果となっていると思われる。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	分野ごとに分けて配布する復習問題の配付が意欲や理解の向上に繋がったと思われる。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	シラバスに記載がない分野の講義実施があった。この件は次年度のシラバスを修正することで整合性をはかっている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	概ね昨年度と同程度の値であったが、授業参加を促す工夫について良くないと回答した学生がいた。この件について、次年度にはレスポンスを用いるなどして、学生が能動的に講義へ参加する仕組みを作りたいと考えている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	年々、「講義内容の十分な理解」と「得られた知識を使う力」を学生に身につけてもらうことに難しさを感じている。次年度は一部の復習問題を見直すことで幅広い学力の学生に対して一定の効果が得られる講義へと変えていきたい。具体的には講義内容を精査して復習問題を解説する時間を取るなどの対応を行っていく予定である。

アクションプランシート

2024年度後期 木1

科目名 物理学演習

教員名 吉田 達貞

回答者数／履修者数 28／30

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	Q13: 4.4 (2020) → 4.8 (2021) → 4.7 (2022) → 4.7 (2023) → 4.9 (2024) 本演習科目を開講して2年目以降、満足度は比較的良好な状態を維持できております。自由記述コメントから、一人一人の受講生に対して補習や質疑応答における丁寧な対応を引き続き心がけて参ります。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	Q1: 4.0 (2020) → 4.1 (2021) → 4.2 (2022) → 4.7 (2023) → 4.5 (2024) Q2: 4.3 (2020) → 4.5 (2021) → 4.1 (2022) → 4.3 (2023) → 4.7 (2024) 昨年度と同様に授業内で扱った全ての演習問題をCAI上に登録し、自学習ツールとして供しました。しかし、今年度は学生の利用率が低かったため、次年度以降は成績評価の対象とする等の工夫をして改善して参ります。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	Q3: 4.5 (2020) → 4.9 (2021) → 4.6 (2022) → 4.8 (2023) → 4.9 (2024) Q4: 4.5 (2020) → 4.8 (2021) → 4.8 (2022) → 4.8 (2023) → 5.0 (2024) Q5: 4.2 (2020) → 4.7 (2021) → 4.4 (2022) → 4.5 (2023) → 4.9 (2024) 概ね問題ないと思われまので、これまで講じてきた改善策を継続して参ります。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6: 4.6 (2020) → 4.8 (2021) → 4.7 (2022) → 4.8 (2023) → 5.0 (2024) Q7: 4.7 (2020) → 4.9 (2021) → 4.7 (2022) → 4.7 (2023) → 4.9 (2024) Q8: 4.7 (2020) → 5.0 (2021) → 4.8 (2022) → 4.8 (2023) → 5.0 (2024) Q9: 4.7 (2020) → 4.9 (2021) → 4.7 (2022) → 4.8 (2023) → 4.9 (2024) Q10: 4.7 (2020) → 4.8 (2021) → 4.7 (2022) → 4.7 (2023) → 4.8 (2024) Q11: 4.5 (2020) → 4.7 (2021) → 4.6 (2022) → 4.7 (2023) → 4.9 (2024) 概ね問題ないと思われま。授業中に学生を指名して解答させる、良い質問をした場合には褒める等により主体的な授業参加の環境作りを引き続き意識して参ります。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	Q12: 4.2 (2020) → 4.5 (2021) → 4.2 (2022) → 4.4 (2023) → 4.7 (2024) Q12の理解度の向上が例年改善が必要な項目と認識しており、今年度の受講者は控え目コメントで柔和な評価が多かった印象です。今年度は出席不足2名（1名休学、1名進路再考）、成績不振1名の単位未修得者を出してしまいましたが、授業内容以前に私生活面での問題による外的影響も大きいと思われま。小クラス制の利点を活かし、成績不振者との個別面談・指導、試験前の補習等を継続することで、フォローアップをして参りたいと思ひま。

アクションプランシート

2024年度後期 木5

科目名 生薬学実習

教員名 北川 翔大

回答者数／履修者数 65／98

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	ほとんどの学生が満足できている一方で、一部 3 や 4 と回答した学生もいることから理解度が十分でない可能性がある。来年度は課題に加えて実習中においても実験内容について学生に適宜質問することで理解度の確認を行う。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	事前準備を十分に行い、最初に話す内容を必要最小限としたことが良かったと考える。実際の操作の原理等については一つ一つ体験してもらいながら教えることで、その現象について興味を持つと同時に、確実に知識として定着したのではないかと思う。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	一部 3 と回答する学生もいたが、いずれの結果も平均値が4.9と高かったことから、シラバスに記載された内容と整合性のある授業を展開できたのではないかと考えている。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	特に3と回答した学生が多い質問のうち、Q10 についてはグループ実験が基本となるため多少の私語はやむを得ないが、実験に関係ない私語なども見受けられた。そのため、来年度は実験中の様子を適宜観察し、手が止まっている学生には器具の洗浄や実習書を読む等、実験に関係した操作を行うように誘導したいと考えている。 また Q11 については、実験の誘導がうまくできなかった点が一因ではないかと考える。特に、実験結果から検体を推測する実習では、次に行うべき実験操作を伝えられなかった。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的に平均値が高かったことから、大多数の学生に向けて満足のいく授業ができたのではないかと考えている。しかし一方で、就任初年度ということもあり、実験中における実験操作の誘導が上手くできなかったため来年度は積極的に実験操作に関与することで授業の改善に励んでいきたい。

アクションプランシート

2024年度後期 火3

科目名 総合実習

教員名 中島 健輔

回答者数／履修者数 17／112

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	アンケートに回答してくれた学生の満足度は高く安心した。今後も同様に実施し、今年度と同様OSCE全員合格を目指す。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	実技試験を行い、問題点を的確に指摘した。学生が自発的に練習するよう適度に危機感をあおった。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	アンケートからは特に改善の要望はなく今年度と同様に実施していきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	アンケートからは特に改善の要望はなく今年度と同様に実施していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	おおむね良い評価が得られており今後も継続していきたいと思った。ただし、アンケートの回答率が低かったなのでそこは改善する必要がある。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 コンピュータ基礎ⅠB

教員名 波多江 日成子

回答者数／履修者数 70／89

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	満足度は4.8と良好な値であった。コンピューター演習は今年からであり、まだ改善の余地があると思われる。 今後もこの満足度を維持していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	質問には丁寧に対応し、難しいところは例を示して解説した。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	評価からは問題は感じられないが、わかりにくい所が無いかに更に確認して、アップデートしていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	改善できる部分があれば随時改善していき、今後もこの水準を維持できるように頑張りたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年から参加した演習であるが、学生達も楽しんで授業を受けていたようである。 今後もより丁寧に授業ができるように頑張りたい。

アクションプランシート

2024年度後期 月4

科目名 コンピュータ基礎ⅠB

教員名 福森 良

回答者数／履修者数 72／89

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10	授業に対する満足度は4.8であり、良好な満足度が得られていると思う。昨今ではICTの活用が重要度をましていることから、引き続き高い満足度が維持できるように授業内容の見直しを行いたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	コンピューター演習ⅠBは演習型の講義となっている。自分自身で積極的に課題に取り組みアクティブラーニングをいかすことが出来ている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	授業の内容についても、良好な点数が得られていた。課題内容のアップデートを行い、内容もそのつど見直していきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	Q6-Q11についても、良好な点数が得られていた。演習型の講義であり、周りとの相談も講義のために必要なファクターであるが、私語を減らすように改善したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的に良好なアンケート結果であったと思う。昨今の社会情勢から、ICTの活用は薬剤師の職種としても重要度を増していることから、課題内容のアップデートを含めてさらに改善していきたい。